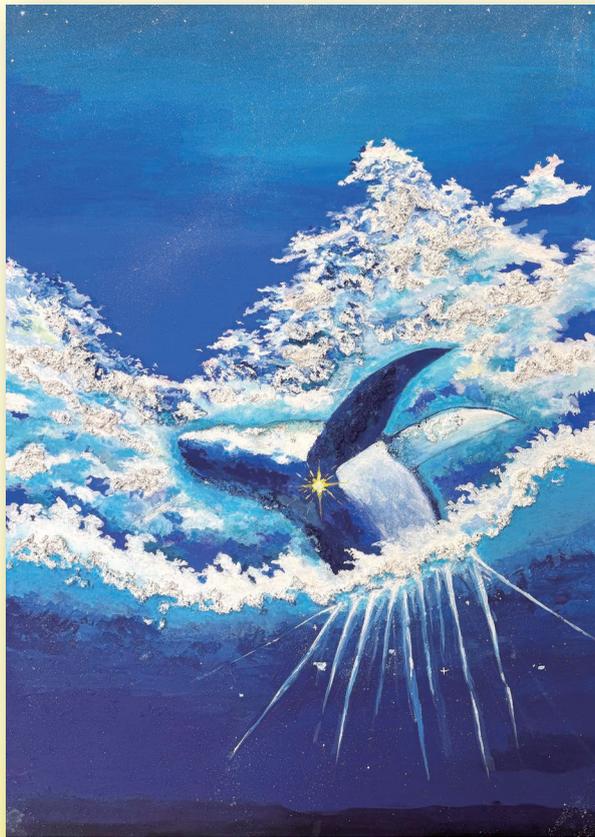


令和7年度

見量山

第32号



高山西高等学校

学習三原則

一、生活を正す

二、目標を持つ

三、継続する

目 次

巻頭言 「 躍進西高校 」	校長 谷口正彦	1
1. 各校務分掌からの実践報告		
(1)教務部 総括	山本大輔	2
(2)進路指導部 総括	岩坂 晋	7
(3)生徒指導部 総括	堀尾 讓	12
教育相談課	池上正巳	27
(4)保健 総括	井川朱音	28
(5)特別活動部 総括	鈴木慎太郎	29
(6)入試広報部 総括	桂川剛士	31
(7)渉外部 総括	川上千敏	35
(8)環境教育課 総括	面手 啓	37
(9)学年部 第1学年の取り組み	鈴木慎太郎	39
第2学年の取り組み	三川俊哉	40
第3学年の取り組み	上西貞幸	42
2. 文 友		
ぎふグローバル人材育成推進モデル事業	松岡慶志郎	43
3. 生徒活動報告		
生徒会活動	生徒会顧問 打江勇太郎	45
部活動（五十音順）		
アーチェリー部	杉浦成利	46
ウインドアンサンブル部	永瀬敬至	47
剣道部	前川矩英	48
硬式野球部	萩尾洋行	50
茶華道部	元田尚美	51
サッカー部	池上正巳	52

書道部	上西貞幸	53
情報ビジネス部	荒井啓太郎	54
新体操部	井川朱音	56
スキー部	荒井啓太郎	56
ソフトテニス部（女子）	面手 啓	57
ソフトテニス部（男子）	江黒永寿	58
卓球部	菅沼孝司	59
ディベート部	堀尾 譲	60
ハンドボール部（男子）	山下祐輝	60
バスケットボール部（女子）	下畑耕一	62
バスケットボール部（男子）	打江勇太郎	64
バドミントン部	三川俊哉	65
バレーボール部（女子）	宇都宮宏美	68
美術部	脇田修宏	68
陸上競技部	廣田孝司	69
レスリング部	木伏智仁	71

4. 国際交流

国際交流	井上正己	72
------	------	----

5. その他

令和7年度 職員一覧		76
令和7年度 略年誌		77
令和7年度 役員（育友会・学校後援会・同窓会役員）		79

編集後記

題 字 茂住菁邨 氏

表紙絵 「波間の彼方へ」 2 I 宮丸若菜 飛騨地区高校美術展 激励賞

巻頭言

「躍進西高校」

校長 谷口 正彦



平成元年から学校改革を行い、もう40年近くになります。当初は「生徒指導なくして進路指導なし」、「学習三原則（生活をただす、目標を持つ、継続する）の実践」を旗印として教員が一丸となって改革に取り組みました。皆が同じ方向を目指し、充実した日々を送っていました。大変なことも多々ありましたが、実に楽しい時間でもありました。先生が変わり、生徒が変わりました。そして、学校が変わっていきました。39年間の教員生活の中で最も充実した時期であったと感じます。

最近、本校はいろいろな方々からお褒めの言葉をいただきます。本当にありがたいことです。今年度は、開校以来初となるインターハイでの優勝（レスリング部、堤君）、4つの部活動（剣道部、ハンドボール部、レスリング部、アーチェリー部）が出場し、本校の名を高めてくれました。また、ウインドアンサンブル部の演奏会には、多くの方にご来場いただきました。「良かったです」、「また次回も来ます」といったありがたい言葉を多数いただきました。その他の部活動でも、男子バスケットボール部が県大会を制し、ウインターカップ（全国大会）に出場を決めました。また、全国大会、東海大会に多くの部活動が出場して活躍してくれました。硬式野球部は、夏の県大会で初のベスト8まで進出してくれました。これも、生徒たちの頑張りはもちろんのこと、保護者の協力、地域の皆様の応援等があったからです。本当に感謝いたします。

今、本校はさらなる躍進をする時期にあります。幸いにも、多くの生徒が素直で真面目であり、高い志を持って入学してくれています。そんな生徒たちを立派に育て社会に出すことが、我々教員の使命であると感じています。教員が一丸となり、原点である学習三原則を徹底し、それぞれの生徒の夢を叶えられるように生徒とともに歩みます。

今後とも本校を温かく見守って頂き、ご指導ご鞭撻をいただけると幸いです。

1. 各校務分掌からの実践報告

(1) 教務部

総括

教務部として考える

「魅力ある学校づくりと今後の課題」

教務主任 山本 大輔

今年度は、学校の体制が大きく変化した年度である。学校改革初年度として、教務部としては、改めて教務部が学校教育において担う役割を再認識し、教務部全体でそれを共有することから始めた。学校教育における教務部の役割とは、教育活動を円滑に運営し、学校全体の学習環境の質を向上させることである。その役割を通じ、学校と教員が一体となり、生徒の成長と学習を支える環境を整えることが必要であると考えます。

私立高校である本校は、少子化による生徒数の減少や、中学生の飛騨地区外への流出により定員確保が困難となっている現状に対し、危機感を強めている。学校経営を安定させるため、生徒確保に向けた進路実現の推進や部活動の充実に力を入れることは、もちろんである。各分掌や教員一人ひとりがこの課題について考える必要があるが、教務部としては、より一層「生徒に自信と誇りを持たせるには、どうすべきか」を追求し、「魅力ある学校づくり」に努める必要がある。教員一人ひとりが授業を通して「魅力ある学校づくり」を实践できるよう、「質の高い教育を生徒に提供するにはどうすべきか」を考え、その実現のために、「授業改善につなげる方法」を検討できるよう、教務部が中心となって教育環境を整備し、教員をリードする必要がある。

また、現在の教育課程では、「学力の三要素（①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」を育成・評価することが目的とされている。これらを育むことは、今後の社会においても必要とされる資質・能力であると考えます。しかし、実際の高等学校教育現場では、教える知識量は変わらないか、増加傾向にある。そんな中で、本校の現状として

は、思考力や判断力を育成する授業展開や、主体的・対話的で深い学び、協働作業やコミュニケーションを意識した活動を工夫して取り入れている。

さらに、探究力や主体性を持ち、自ら学習を進める能力の育成が求められている。興味を持ち、自ら調べ、理解を深めていくことは教育の理想であるが、知識が何もないところから探究力や主体性は生まれにくい。基礎となる知識を蓄える授業を行いつつ、探究力や主体性を育成する授業をどのように実践するのか、教員には授業への工夫が一層求められる。その工夫を具体化することが授業改善であり、本校の教育改革につながると考える。一方で、多様化する生徒の学習ニーズに対応するため、授業との連携を図りつつ、積極的な資格取得やタブレット端末の活用を目指し、生徒が「社会を生き抜く力」をどのように養成するかを考える必要がある。

以上を踏まえ、今年度の本校の取り組みは以下の通りである。

1. 課題解決のための実践

(1) 授業の質向上のための授業改善に向けての取り組み

①授業評価アンケートの質の向上 … 教科部会の活性化へ

今年度は7月7日(月)と12月8日(月)に実施(年間2回)

②公開授業週間の活性化 … 昨年度を検証し、実施時期・回数検討へ

今年度は10月14日(火)からの4週間で実施

(2) ぎふグローバル人材育成推進事業指定校としての取り組み

①目標

地域と一体になり、課題を的確に捉え飛騨の魅力を探し、世界に発信する活動を行う中で、飛騨を、日本を愛する心を持ったグローバル人材の育成を目指す。

②対象クラス(特進Ⅰクラス・特進Ⅱクラス)

1年次に飛騨の歴史・文化・自然に関する基

本的な知識を学び、2年次より各自が関心を持つ分野（人文科学的な視点・自然科学的な視点）を選択し、フィールドワーク・ゼミ形式で専門性を身につける。また、日本語による政策提言が行えるようになる。3年次には英語で政策提言を行ったり、海外で高山の魅力についてアピールできたりする能力を身につけることを最終的な目標とする。

2. 今後の課題

授業評価アンケートでは、教員側の「ここがポイントだ」「なぜそうなるのか」という教える意図が生徒に伝わっていると感じられる意見が多く、一定の評価を得ていることが伺えた。しかし、板書の仕方（電子黒板の使用を含む）、話し方、授業の進度などに対して改善を求める意見も寄せられた。こうした意見にこそ真摯に耳を傾け、大いに授業改善に役立てていく必要があると感じている。

また、公開授業週間においては、自分の教科だけでなく、他教科の教員の授業を見る大変良い機会となった。教員の世界は「聖域」となりがちだが、多くの職員から自分の授業に対する意見を得られることは非常に貴重な経験である。さらに、本校内で生徒から「わかりやすい」と評価の高い授業を見学する機会を得たことで、「なぜ生徒から評価が高いのか」を体験的に理解できた。授業評価アンケートは生徒からの授業評価であり、公開授業評価は教員からの授業評価である。自分自身の授業を多面的・多角的に見直す機会となり、大変有意義であったといえる。さらに、これらの取り組みの後、教科内外の職員同士の意見交換や受験問題への対応が盛んに話し合われたことは、教員にとって良い刺激となった表れであろう。

これらの取り組みは、教職員間でも好評を得たと感じている。しかし、単年度だけの取り組みでは、「良かった」「面白かった」という「イベント」に終わってしまう。今後は、いかにこれらの取り組みを継続させていくのが大きな課題である。それはつまり、我々教員が「生徒にとって魅力的で興味・関心を引く授業を提供できるか」ということであり、「授業の質向上を継続できるか」に他ならない。来年度に向けて、授業評価ア

ンケートや公開授業週間を通じて、いかに「教員個人の力から組織力への移行」を図るのか、いかに「良い」と感じたことを積極的に導入する柔軟性と決断・勇気を持ち、「聖域をつくらない改善」を推し進めるのかを学校体制の中で検討する必要がある。生徒にとって最も重要で、学校生活の根幹をなす授業を扱う教務部が中心となって、これらを発信していかなばならない。今後は、これまで以上に「生徒が感動する授業を目指す」取り組みを模索する必要があると感じている。

3. 生徒・保護者のニーズの確認と対応

① 高大接続・入試改革に向けての取り組み

* ぎふグローバル人材育成推進事業指定校としての取り組みを基盤に、高大接続を深化させつつ、入試改革で求められている課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習「主体的・対話的で深い学び」の導入等について、さらに検討すべき課題である

② タブレット端末の積極的な活用

* 授業での効果的な活用について検討すべき課題である

③ キャリア教育や金融講座等の導入

* 職業観・生き方・進路など、「社会を生き抜く力」について考える機会を持つ

④ 効果的な検証と新たな取り組み

* 継続的に行うべきものは質をいかに高めていくか検討する

* 各教員の指導力向上へいかにつなげていくか検討する

* 組織をいかに活性化するか検討する

* 生徒・保護者のニーズに対応するために、新しい取り組みを模索し提供する

* 生徒との取り組みの中で、教員側の意識・意欲の向上へ繋げる

以上のようなことを踏まえ、今後取り組むべき方針は次の通りである。

① いま高校教育に求められているものは何か → いま本校に求められているものは何か

② 教員として何ができるのか、何をやるべきなのかという問題意識の共有と校務への落とし込み

これらを実現するためには、新たに始めた取り組みをいかに継続して定着させるかに注力する必要がある。そのためには、「始めた目的」を忘れず、「なぜ、それを行うのか」という意識を持ち続けることが重要である。継続的に行われていることについては、惰性で続けることがないように注意することが大切である。そのため、自分の活動がなぜ重要なのか、生徒にどのような価値を生むのかを再確認し、教員自身が定めた目標や目的を見直す必要がある。また、教員自身の教授スキルを向上させるため、授業を通じて自分がどのようなスキルや知識を身につけたいのかを再認識し、日々の小さな工夫や改善を通じて成長を意識することも求められる。他の教員との意見交換を通じて、異なる視点や新しいアイデアを得ることもできる。授業の内容について意見交換をしたり、フィードバックを受けたりすることで、教授スキルを向上させるためのヒントを得られるはずである。そして、最も重要なのは、「誰のための取り組みなのか」を見極める「正しい目」を養うことである。「生徒に自信と誇りを持たせるにはどうすべきか」「いかにして質の高い教育を生徒に提供すべきか」「いかにして社会を生き抜く力を養成すべきか」を考え、授業を通じて「魅力ある学校づくり」を実現するという「視点」を大切にす取り組みを、教務部が中心となって推進していきたいと考える。

視聴覚図書教育課

田口 喜恵・直井 亜矢子

（方針）

活字・映像・音響などによる文化的情報の提供により、幅広い人間性を養う機関として、また生涯学習の基本的な姿勢を学ぶ場としての認識を持って運営にあたる。

（本年度重点目標）

- 1 豊かな人間性の育成を目指す視聴覚図書教育の推進
- 2 学習と直結した利用活動の充実

（具体的活動）

- 1 利用しやすい図書館作り
 - ・明るく落ち着いた環境
 - ・資料コーナーの設置…研修旅行、西高祭・ディベートなど
- 2 蔵書構成の点検、整理
 - ・蔵書の有無と数量及び保管状況の調査
 - ・購読雑誌・新聞の整理と充実
 - ・蔵書管理と本の貸し出しなどのコンピュータ処理
 - ・コンピュータによる書籍の検索
- 3 読書意欲の向上
 - ・朝の10分間読書と図書館利用の活性化
- 4 図書館利用の活性化
 - ・オリエンテーションの実施
 - ・図書館での授業実践
 - ・学校行事や教科指導とタイアップした資料提供
 - ・図書委員会活動
ポスターの作成による本の紹介
環境関連図書の管理
- 5 時代に即応した視聴覚教材の充実
 - ・視聴覚ライブラリーの設置と充実

（図書館オリエンテーション）

1年生の図書館オリエンテーションをクラス単位で行った。内容としては朝読書の意義、その効果やメリットについて、本の貸し出し・返却の仕

方について説明した。勉強や部活動とは異なる朝の10分間読書を有意義な時間にすることで、リフレッシュを図り、落ち着いた雰囲気でのスタートを切ってほしいと願う。

（委員会活動との連携）

毎月、行われる委員会では、おすすめ本のポスター作成や学級文庫や図書館の本の管理などの活動を実施している。また、ISO14001における環境目標である「環境関連図書を通して環境に対する認識を高める」の実践のため、関連図書の管理を継続している。

創立記念講演会 報告書

『いのちの理由 ～コウノドリの現場から、あなたへ～』

講師：寺澤 大祐 氏（岐阜県総合医療センター 新生児内科 主任医長）

日時・場所：令和7年9月26日（金）10時～11時30分 本校 体育館

対象：全校生徒・保護者・職員

本年度の創立記念講演会において、岐阜県総合医療センター新生児内科主任医長・寺澤大祐氏をお迎えし、「いのちの理由 ～コウノドリの現場から、あなたへ～」と題したご講演を賜った。

寺澤氏は周産期医療の現場において、新生児集中治療室（NICU）や新生児回復室（GCU）で、生まれて間もない赤ちゃんのいのちを守る役割を担っておられる。現在、出生後に医療を必要とする赤ちゃんは全体の約3.5%にのぼるとされ、医療スタッフが一丸となって赤ちゃんとその家族を支えているという。

ご講演では、わずか数百グラムで生まれた赤ちゃんが数週間のうちに力強く成長していく姿が紹介された。私たちは数週間で大きく成長できること、今生きている私たちも大きく変わり続けていることを赤ちゃんから学ぶことができると語られた。また、18トリソミーなど重い病を抱えて生まれた赤ちゃんとその家族との出会いも紹介され、短いいのちを「かわいそう」と捉えるのではなく、その子にとって何が幸せか、限られたいのちの時間をどのように最高の時間にするかを考えることの大切さを語られた。寺澤氏は、病を抱えて生まれた赤ちゃんとの出会いを通じて、「お誕生日おめでとう」という言葉の意味を学んだと述べられた。私たちが明日生きていることは当たり前ではないことを赤ちゃんから学び、そんな中で私たちが今日生きていることは、それ自体が平凡でありながらも、奇跡的な毎日を生きてきた結果であると述べられ、誕生日の意味を「平凡な奇跡の積み重ね」と表現された。

講師自身のご家族との経験から、「ふつう」は人それぞれであり、障害の有無にかかわらず、それぞれが自分のふつうを生きていることに気づいたと述べられた。誰かに支えられることによって輝けるいのちがあること、大人は誰かを支えられる存在であることに気づき、自らは赤ちゃんを支える医師になろうと志した経緯も語られた。

さらに、「学ぶ」という営みについて、知識の習得にとどまらず、思いやりや探究心を育むこと、日常生活での些細な気づきも学びの一部であると語られた。自分自身の進路のための学びが、いずれ社会をよりよくするための学びになり、やがて「まだ知らない誰かを幸せにすること」へとつながるものであると説かれた。

講演の結びに、寺澤氏はNICUには二つの意味があるとして、

- ① Now I see you — あなたの今の輝きを見ている
 - ② Nice to see you — あなたと出逢えてありがとう
- という言葉を示された。

本講演を通じて、「いのちの尊さ」や「学びの本質」について深く考える機会を得た。また、寺澤氏は、生きる上で自らの役割を全うすることの重要性を強調され、それはすなわち、自分自身のいのちの役割、いのちの理由を考えることであると述べられた。生徒一人ひとりが自らの「いのちの理由」を見つめ直す契機となった。

(2) 進路指導部

総 括

岩 坂 晋

本校の進路状況は、大学進学が約80%、短大・専門学校進学が約10%、就職が約10%であり、いわゆる「進路多様校」に分類される。このような学校は、社会情勢の変化が生徒の進路選択に大きな影響を与えるため、教員が一体となって進路指導を行う重要性が年々高まっている。

まず、全国の受験人口（18歳人口）の動向を見ると、前年度からわずかに増加し約109万人となった。しかし、1990年代のピーク時と比較すれば依然として大幅な減少が続いており、長期的には受験生の母数が減り続けている状況にある。一方で、大学進学希望者の割合は増加傾向にあり、進学希望者数は減少しても下げ止まり、あるいは相対的に増える傾向が見られる。

大学側も社会変化に合わせて教育内容や学部構成を見直しており、特に情報技術・データサイエンス・AI・医療福祉など、将来の課題や産業構造に対応した学問領域の拡充が進んでいる。これに伴い、従来の文系・理系といった枠を超えた「学際的」「応用型」「実践型」「未来志向型」の学部・学科への関心が高まっている。生徒には、「何を学び、どのような社会で働きたいのか」を見据えた進路選択が求められるようになり、大学側も「考える力」「学び続ける力」「情報分析力」「協働性」「柔軟性」「コミュニケーション力」といった資質を重視する傾向を強めている。そのため、高校段階から将来の興味・関心を探究し、志望分野を早い段階で明確にすることがこれまで以上に重要となっている。

昨年度の大学入学共通テストは、志願者数が7年ぶりに微増した。新課程の初年度で、科目構成や出題傾向に変化が見られ、特に「情報Ⅰ」の新設と理数系科目の内容拡充が特徴的であった。平均点は文系620点、理系633点（1000点満点換算）と前年度より上昇したが、問題文を精読し状況を

正確に把握する読解力・思考力をより重視する傾向が強まっている。中でも「情報Ⅰ」では、知識だけでは対応できず、構造を読み取り情報から判断する力が得点の鍵とされる。今後もこうした流れは続く予想され、知識量に加えて探究力・論理的思考力・判断力・情報活用能力といった「思考力・応用力型スキル」が入試全体で重要度を増すことは確実である。

一方、就職希望者を取り巻く状況にも変化がある。文部科学省によると、2025年3月卒業予定の高校生の就職率は98.0%と高水準を維持しているものの、就職希望者は13.8%にとどまり、進学志向の強さが示されている。社会全体では少子高齢化に伴う深刻な人手不足が進む一方で、企業からは「母集団の減少」「学生の志向の多様化」「採用の早期化・二極化」「採用難易度の上昇」などの課題が挙げられている。さらに企業は、「コミュニケーション力」「人間性」「主体性」「探究力」「情報リテラシー」「グローバル感覚」など、単なる学力や資格を超えた“人間力”や“実践力”を重視する傾向にある。そのため、高卒就職を選ぶ生徒には、安易な選択ではなく、自らの適性や将来性を踏まえ、企業・職種・キャリアの可能性を慎重に見極める姿勢が求められている。

こうした状況を踏まえ、本校進路指導部では本年度を、以下に示す方針・重点目標・具体的活動を推進する一年として位置づけ、すでに取り組みを開始している。

<方針>

1. 高校生活は将来の目標を達成するための重要な一過程であることを生徒一人ひとりに認識させるとともに、多様な価値観をもつ仲間と切磋琢磨する機会を設け、学力を伸ばし人格を陶冶することができる環境を整える。また、学校生活全般を通して自身の能力や適性に対する理解を深めさせ、自己実現と社会貢献の双方を目指す生き方を模索する態度を養い、将来的に地域社会を支える人材を育成する。

＜重点目標＞

1. 個々の能力や適性に応じた進路目標の確立に努める。
2. 望ましい勤労観および職業観の育成を図り、毎日の学校生活に意味を持たせる。
3. 教科指導やLHRにおける生徒との対話を通して、自分自身の生き方を模索する生徒を支援する。また、将来の目標を達成するために必要となる能力を計画的に身につけさせる。

＜具体的活動＞

1. 情報収集・提供（ベネッセ、河合塾等の説明会には、該当学年の担任が基本的に参加する）
 - ・生徒の自覚を高める進路ガイダンス、進路の日の企画および運営
 - ・補習授業、推薦入試小論文、各種進路関連資料、タブレットなどの効果的活用
 - ・新入試等に関する受験情報の収集
2. 模擬試験の効果的活用
 - ・進学模試（ベネッセ・河合塾・駿台）、公務員模試、基礎学力診断テスト
 - ・事前指導、結果の分析および事後指導
3. 進路指導にかかる体験学習
 - ・医療系出前授業（全校希望者）夏期登校日に実施
 - ・ふれあい看護体験（全校希望者）実施
 - ・企業出前授業（2年H I クラス・3年H I クラス）実施
 - ・企業見学（1年H I クラス）実施
 - ・企業実習（2年H I クラス）実施
 - ・企業説明会（全学年H I クラス）実施
 - ・ミニ教育実習実施
 - ・公務員試験対策講座実施
 - ・事前指導や事後のふり返り指導
4. 作文・小論文・面接・履歴書等の早期からの指導、キャリアパスポートの利用
 - ・自身の考えを表現する力の醸成
5. 進路決定後の指導
 - ・生徒に自己理解を深めさせる指導
 - ・卒業後の自身の生き方を考えさせる指導
 - ・生徒が抱える課題を解決する手段や方法に関する指導

1. 本校における就職の動向と取り組み

今年度は例年以上に求人数が多く、人材不足の深刻さが一層明らかとなっている。こうした状況の中で、本校では就職活動の支援にGoogle Classroomを活用し、就職希望者専用のクラスルームを作成して連絡事項や求人票を共有することで、生徒の利便性向上を図っている。しかし、本校の就職者数は年々減少しており、今年度の就職希望者は15名（うち公務員希望者4名）と非常に少ない状況である。地元企業からは多くの求人を出しているものの、その期待に十分応えられていないのが現状である。また、高卒就職者の離職率が高いことから、生徒が職業や勤労についての意識や知識を深め、それらが人生の中で果たす意義を理解することがこれまで以上に重要となっている。このため本校では、キャリア教育の一環としてさまざまな取り組みを行っている。具体的には、2年生特進Ⅱクラスを対象に、6月下旬に4日間の日程で地元企業への企業実習（インターンシップ）を実施したほか、全校生徒を対象に7月と10月には地元企業の協力による体験型ガイダンスを行い、8月には医療系希望者を対象に高山赤十字病院による出前授業を実施した。さらに、社会人マナー講座や租税教室も行い、生徒が将来を考えるきっかけを提供している。

公務員希望者に対しては、公務員試験補習や面接練習を通して対策を進めてきたが、今後より多くの実績を上げるためには、情報収集の強化や指導内容の充実が求められる。今年度からは公務員試験対策にもGoogle Classroomを導入し、公務員希望者専用のクラスルームを設けて試験に関する連絡や情報提供を行っており、より効率的な支援体制の構築を進めている。

2. 本校における進学の動向と取り組み

今年度の大学入試の状況を見ても、四年制大学・短期大学ともに二極化の傾向が進んでいる。依然として難関校の人気・難易度は高く、その一方で志願者数や倍率が下がる大学が増えており、これまで中間層を支えていた大学・短大が大きく減少している。また、私立大学の入試定員管理の厳格化が続いた影響で、一般入試だけで合格を勝

ち取ることが難しくなり、総合型選抜や学校推薦型選抜を利用する受験生が全国的に急増している。本校でも同様に、「できるだけ早く合格を得たい」という生徒が年々増え、今年度はその傾向が顕著に表れていた。小論文対策や面接練習に早い段階から取り組む姿勢は評価できる一方、「受験で苦しい思いをしたくない」「最後まで粘りきる自信がない」といった理由から、早期合格に過度に依存してしまう生徒が増えてきている。こうした状況を踏まえると、生徒が自分の進路を主体的に考えられるように、低学年から進路意識を育て、目標を明確にする支援がこれまで以上に重要になってきている。3年間を見据えた進路ガイダンスの再構築や、変化する入試制度に対応した最新の情報提供など、従来の進路指導の見直しが不可欠だと考えている。

2月18日現在、進学合格者数は以下のとおりである。のべ四年制大学151名(国公立17名)、短期大学11名、専門学校26名である。今後も努力を重ねる生徒たちと指導する教員とが一致団結し、進路目標の実現を目指していきたい。

令和6年度卒業生進路状況

四年制大学

	大学	学部・学科
1	国 筑波大学	体育専門
2	国 東京海洋大学	海洋工・海洋電子機械工
3	国 東京学芸大学	教育・生涯学習・文化遺産教育
4	国 富山大学	経済・経済経営
5	国 富山大学	人文・人文
6	国 富山大学	経済・経済経営
7	国 富山大学	都市デザイン・都市交通デザイン
8	国 金沢大学	人間社会・国際
9	国 金沢大学	人間社会・国際
10	国 信州大学	工・機械システム工
11	国 信州大学	農・山岳森林環境共生
12	国 岐阜大学	医・医
13	国 岐阜大学	医・医
14	国 岐阜大学	教育・学校教育・教育心理
15	国 豊橋技術科学大学	工・建築都市システム
16	国 名古屋大学	医・保健・看護
17	国 名古屋工業大学	工・物理工
18	国 島根大学	学校教育・美術
19	公 富山県立大学	情報工・情報システム工
20	公 石川県立大学	生物資源・環境科
21	公 公立小松大学	生産システム科・生産システム
22	公 岐阜県立看護大学	看護・看護
23	公 兵庫県立大学	環境人間・環境人間・食環境栄養
24	国 防衛大学校	理工
25	国 防衛大学校	理工
26	国 防衛大学校	理工
27	国 防衛大学校	理工
28	国 防衛大学校	理工
29	国 防衛大学校	理工
30	国 防衛大学校	理工
31	国 防衛大学校	理工
32	国 水産大学校	海洋生産管理
33	帝京平成大学	健康メディカル・医療科
34	学習院大学	文・ドイツ語圏文化
35	杏林大学	保健・健康福祉
36	杏林大学	総合政策・企業経営
37	国立音楽大学	音楽・演奏創作
38	慶應義塾大学	理工・学門D
39	工学院大学	工・機械工
40	工学院大学	工・機械工
41	國學院大学	経済・経済
42	駒澤大学	経営・経営
43	順天堂大学	保健医療・理学療法
44	昭和女子大学	環境デザイン・環境デザイン
45	拓殖大学	政経・経済
46	東海大学	体育・競技スポーツ
47	東海大学	文・文明
48	東海大学	文化社会・ヨーロッパアメリカ
49	東京農業大学	地域環境・造園科
50	東京農業大学	地域環境・生産環境工
51	東京薬科大学	生命科・生命医科
52	日本大学	スポーツ科・競技スポーツ
53	日本女子大学	文・英文
54	東京都市大学	理工・機械システム工
55	武蔵野音楽大学	音楽・演奏
56	麻布大学	獣医・獣医
57	富山国際大学	子ども育成・子ども育成
58	金沢工業大学	メディア情報・メディア情報
59	金沢工業大学	建築・建築
60	金沢工業大学	バイオ化・環境応用化

	大学	学部・学科
61	金沢工業大学	情報理工・情報工
62	金沢工業大学	情報デザイン・経営情報
63	金沢学院大学	文・文・歴史学考古学
64	金沢学院大学	文・文・歴史学考古学
65	山梨学院大学	スポーツ科
66	朝日大学	法・法
67	朝日大学	保健医療・看護
68	朝日大学	保健医療・救急救命
69	朝日大学	保健医療・救急救命
70	朝日大学	保健医療・救急救命
71	朝日大学	経営・経営
72	朝日大学	歯・歯
73	岐阜聖徳学園大学	教育・保育初等教育
74	岐阜聖徳学園大学	教育・社会
75	岐阜聖徳学園大学	教育・理科
76	岐阜聖徳学園大学	看護・看護
77	岐阜聖徳学園大学	教育・理科
78	岐阜聖徳学園大学	教育・理科
79	岐阜聖徳学園大学	教育・英語
80	岐阜聖徳学園大学	教育・国語
81	中部学院大学	看護リハビリテーション・理学療法
82	中部学院大学	看護リハビリテーション・看護
83	中部学院大学	看護リハビリテーション・理学療法
84	中部学院大学	人間福祉・人間福祉
85	中部学院大学	看護リハビリテーション・看護
86	中部学院大学	看護リハビリテーション・看護
87	中部学院大学	スポーツ健康科・スポーツ健康科
88	岐阜医療科学大学	看護・看護
89	岐阜医療科学大学	保健科・放射線技術
90	岐阜医療科学大学	保健科・放射線技術
91	岐阜医療科学大学	保健科・放射線技術
92	岐阜医療科学大学	保健科・臨床検査
93	岐阜医療科学大学	保健科・臨床検査
94	岐阜保健大学	看護・看護
95	静岡理工科大学	情報・コンピュータシステム
96	愛知学院大学	健康科・健康科
97	愛知学院大学	文・歴史
98	愛知みずほ大学	人間科・心身健康科
99	椋山女学園大学	看護・看護
100	大同大学	情報・情報システム
101	大同大学	建築・建築・建築
102	中京大学	スポーツ科・スポーツ健康科
103	中京大学	経済・経済
104	中京大学	経営・経営
105	中部大学	経営情報・経営総合
106	中部大学	経営情報・経営総合
107	中部大学	現代教育・現代教育・現代教育
108	中部大学	生命健康科・保健看護
109	中部大学	生命健康科・保健看護
110	中部大学	生命健康科・保健看護
111	中部大学	生命健康科・保健看護
112	中部大学	生命健康・生命医科
113	東海学園大学	健康栄養・健康栄養
114	東海学園大学	経営・経営
115	名古屋外国語大学	外国語・英米語・英語コミュニケーション
116	名古屋外国語大学	外国語・英米語
117	名古屋外国語大学	外国語・中国語
118	名古屋学院大学	商・商
119	名古屋商科大学	商・会計
120	名古屋英大	医療科・作業療法

	大学	学部・学科
121	名古屋養老大学	医療科・作業療法
122	南山大学	国際教養・国際教養
123	南山大学	外国語・スペインラテンアメリカ
124	日本福祉大学	スポーツ科・スポーツ科
125	日本福祉大学	社会福祉・社会福祉・現代社会
126	日本福祉大学	教育心理・学校教育
127	日本福祉大学	社会福祉・社会福祉・現代社会
128	名城大学	理工・建築
129	名城大学	理工・機械工
130	名城大学	経済・産業社会
131	名城大学	経済・経済
132	名城大学	経営・経営
133	名城大学	経営・経営
134	名城大学	理工・電気電子工
135	名城大学	理工・交通機械工
136	名城大学	農・生物環境科
137	名城大学	理工・機械工
138	名城大学	農・生物環境科
139	人間環境大学	総合環境・フィールド自然
140	人間環境大学	総合環境・環境情報
141	人間環境大学	環境科・環境データサイエンス
142	一宮研伸大学	看護・看護
143	愛知医療学院大学	リハビリテーション・作業療法
144	皇學館大学	文・国史
145	皇學館大学	教育・教育
146	皇學館大学	文・国文
147	四日市看護医療大学	看護医療・臨床検査
148	四日市看護医療大学	看護医療・臨床検査
149	長浜バイオ大学	フロンティアバイオサイエンス・臨床検査学
150	長浜バイオ大学	フロンティアバイオサイエンス・臨床検査学

	大学	学部・学科
151	長浜バイオ大学	フロンティアバイオサイエンス・臨床検査学
152	京都橘大学	総合心理・総合心理
153	京都橘大学	工・建築デザイン
154	立命館大学	国際関係・国際関係
155	立命館大学	国際関係・国際関係
156	立命館大学	理工・機械工
157	立命館大学	理工・物理科
158	龍谷大学	心理・心理
159	大阪産業大学	スポーツ健康・スポーツ健康
160	大阪電気通信大学	総合情報・デジタルゲーム
161	大阪電気通信大学	総合情報・デジタルゲーム
162	関西大学	総合情報・総合情報
163	近畿大学	経済・国際経済
164	近畿大学	経済・経済
165	近畿大学	情報・情報
166	近畿大学	経営・商
167	近畿大学	経営・商
168	近畿大学	農・農業生産科
169	近畿大学	農・環境管理
170	近畿大学	農・応用生命化
171	近畿大学	農・応用生命化
172	近畿大学	農・応用生命化
173	関西学院大学	文・文学言語・英米文学英語
174	関西学院大学	社会・社会
175	関西学院大学	文・文化歴史・日本史
176	関西学院大学	文・文化歴史・アジア史
177	関西学院大学	文・文化歴史・アジア史
178	福山大学	生命工・海洋生物科
179	九州女子大学	家政・栄養
180	福岡大学	商・経営

短期大学

	学校名	学部・学科
1	関西学院短期大学	保育
2	大妻女子大学短期大学部	家政・食と栄養
3	中日本自動車短期大学	自動車工
4	中日本自動車短期大学	自動車工
5	中部学院大学短期大学部	幼児教育
6	平成医療短期大学	リハビリテーション・作業療法
7	平成医療短期大学	リハビリテーション・作業療法
8	平成医療短期大学	リハビリテーション・理学療法

専門学校

	学校名	学部・学科
1	HAL名古屋	ゲームデザイン
2	HAL名古屋	高度情報
3	JA岐阜厚生連看護専門学校	看護
4	JA岐阜厚生連看護専門学校	看護
5	あいち福祉医療専門学校	作業療法
6	セブンティーン美容専門学校	美容
7	京都伝統工芸大学校	伝統工芸
8	国際医学技術専門学校	理学療法
9	国際動物看護専門学校	動物看護
10	国際文化理容美容専門学校	美容
11	大原法律公務員専門学校	行政法律
12	中日美容専門学校	美容
13	中日本航空専門学校	航空整備・構造整備製造
14	東海工業専門学校	測量設計
15	東京ベルエポック製菓調理専門学校	フードビジネス
16	東京呉竹医療専門学校	鍼灸マッサージ
17	日本航空大学校	キャビンアテンダント・グラウンドスタッフ
18	武生看護専門学校	看護

就職内定状況

	就職先企業
1	株式会社エスラインギフ
2	金子工業株式会社
3	岐阜車体工業株式会社
4	株式会社COO&RIKU
5	社会福祉法人清徳会
6	名古屋鉄道株式会社
7	飛騨高山森林組合
8	株式会社ひだホテルプラザ
9	株式会社モビリニア

公務員

	業種
1	岐阜県職員
2	警視庁
3	自衛隊
4	自衛隊
5	自衛隊
6	自衛隊
7	自衛隊

(3) 生徒指導部

総括

堀尾 譲

生徒指導主事として毎朝玄関付近に立ち、生徒たちを迎えるようになってから、気がつけば四年が経とうとしている。自分の立場を少し俯瞰して見ると、これは一種の「定点観測」のようでもある。多くの生徒は、自分なりの生活リズムに従って毎日ほぼ同じ時間帯に登校してくるため、予定している（とこちらが勝手に思い込んでいる）時間を過ぎても姿が見えない生徒がいて、つい必要以上に心配してしまうこともある。

一年間こうして立ち続けていると、さまざまな変化に気付かされる。特に学校周辺の草花の変化には毎年驚かされる。今年度も、十二月に入ってからすぐに飛騨地区で初冠雪が記録されたが、その一週間ほど前にはアプローチのイチョウがわずか三日ほどで一気に葉を落とした。まるで冬の急な訪れを察知していたかのような変化であった。また今年度は例年以上に雑草の伸びが激しく、暑い日が続いたことや雨量の多さも影響してか、校舎周辺からグラウンドまで勢いよく繁茂していた。そのため、今年度も複数回の草刈り作業が必要となった。ここ数年の気候状況を踏まえると、飛騨地域も四季から二季へ移行しつつあるのではないかという不安が頭をよぎることもある。

さて、今年度の生徒指導部の活動を振り返ると、高等学校における生徒指導の在り方は近年大きく変化している。これまで多かった刑法犯行為や不良行為・違反行為は減少している一方で、いじめ、不登校、そして情報モラルを巡る問題は増加傾向にある。本校においても、「情報モラル違反」や「いじめ事案」への対応は、今後さらに求められると感じている。

こうした状況から、これまで以上に職員一人ひとりが生徒との関わりを丁寧に積み重ね、担任だけに任せるのではなく、学校全体としてチームで対応していく体制が重要である。教育環境や生徒の実態の変化に合わせて、生徒指導の在り方そのものを柔軟に見直していく必要性を日々強く感じ

ている。そして、生徒の小さな変化を見逃さず、それを職員間で共有しながら、生徒たちが「安心して学べる環境」をこれからも提供し続けていきたい。これは生徒指導主事としての大切な使命であると、改めて実感している。

2025年度 高山西高等学校 生徒指導部 方針・目標

○生活指導課

【指導方針】

他者を認め、他者と調和、協調できる生徒の育成を指導の基盤とする。そして、その上で自ら進むべき道を探し出し、自力でその道を達成していくような気力溢れた自立心のある生徒の育成に努める。

*自ら決めた道を他者に妨げられることなく進むためには、人に迷惑をかけたり、人の進む道を妨げたり、独りよがりになったりしてはいけない。

*自らが自分を大切に思い、自立していくためには、その前に自分とは考え方や価値観も違う他者も受け入れ、認めることが不可欠。それが人への思いやりでもある。

【重点目標】

1. 教員が一丸となり、生徒への模範を示す。
2. 生徒理解に徹し、生徒との好ましい人間関係を築き、個々の生徒に適した指導の充実をはかる。
3. 生徒が自主的に判断し、行動に移せるように主体的な自己実現へのサポートをする。
4. 高校生らしい生活態度、道徳性、規範意識の育成に努める。
5. 情報モラルの徹底（スマートフォン・タブレット・SNS等の適切な利用）
6. 様々な理由から学校に溶け込めない生徒（不登校生徒）を多面的にサポートする。

【具体的活動】

1. 西高生としての自覚を持ち、責任ある行動と社会ルールを遵守するために
 - (1) 遅刻ゼロやベル席指導の徹底を目指す。
 - (2) 西高生としての正しい服装及び生活指導の徹底をはかる。
 - (3) あいさつ・返事など、基本的な生活姿勢の徹底をはかる。
 - (4) 清掃指導の徹底をはかる。
 - (5) 8時完全下校を徹底する。
2. 問題行動ゼロを目指すために
 - (1) 生徒との交流に努め、生徒との信頼感を深める。
 - (2) 教育相談の充実をはかり、一人ひとりの生徒理解に努める。（各学年との情報共有）
 - (3) いじめの積極的認知を確実にを行い、重大事態に陥らないように「いじめ対策組織」を中心に組織的に対応する。また、いじめの未然防止に積極的に努める。
3. 「自分を大切にする心、他人を大切に思う心」を育てるために
 - (1) 朝掃除・部活動・学校行事などを通し、互いを尊重し合うように働きかける。
 - (2) ホームルーム活動を通して、仲間を思いやる心の教育を充実させる。
4. 社会の一員であることを自覚させ、生命の安全と事故防止の心を育てるために
 - (1) 交通ルールの厳守とマナー指導の徹底をはかる。
 - (2) 交通講話の実施やホームルームでの安全指導の徹底をはかる。
 - (3) 当番制登校指導及び一斉指導を実施する。
 - (4) 自転車通学生徒による「ながらスマホ」防止を徹底する。

5. その他

- (1) 不必要なお金・嗜好品など、学校生活に関係ないものを持ち込ませない指導を徹底する。
- (2) 校門指導や校内外の巡回指導を充実し、生活指導の徹底をはかる。
- (3) 生徒の SNS 利用に関する実態を把握し、適正な態度の育成に努める。
- (4) 警察や子相・子育て支援課等の外部組織との連携を密にし、トラブルの未然防止や、事案の重大事態化を防ぐように努める。

○教育相談課

指導方針

日常の教育活動の中で、生徒理解に努めるとともに、どのように関わることが生徒を育てることになるかを的確に把握し、生徒一人一人が心身ともに成長できるような援助をする。

目標

教育相談で自立の心を育てる ～生徒理解と支援の充実～

1. 集団の中での心身の発達を支援して育てる。
2. 学習支援・進路支援を通して育てる。
3. HR活動・特別活動を通して育てる。
4. 心理検査等の活用を通して育てる。

具体的活動

1. 各学年と連携して不登校傾向の生徒や支援の必要な生徒の把握と対応を確実に行う。
2. 心理検査等を実施し、生徒個人の特性を知ること、個への指導に役立てる。
 - 1年生・・・SKK式適性検査
 - 2年生・・・セラプラス（よりよい学校生活と友達づくりの為のアンケート）
3. スクールカウンセラーの導入（月1回）
4. 生徒の月別欠席状況調査（各学年との情報の共有・連携）

2025 生徒指導部 役割分担

生活指導課 課長【前川】

運営項目【責任者】	運営内容	運営担当
問題行動 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動が発生した場合、事案の調書を正確に作成する。また、対象生徒の事実確認を適切に行い、責任を持って保護者に直接受け渡す。 問題行動が起こらないように、積極的な指導を行う。 生徒への聞き取りは、2名以上で行う。また待機させる場合には、教員の監視ができる状況をつくること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前川(3年) ○三川(2年) ○萩尾(1年) ◎池上(教相)
下宿生の指導 【前川・萩尾】	<ul style="list-style-type: none"> 予測できる問題の対処案を考え(下宿者ミーティングなども開く)、問題が発生した場合は適切に対処する。 下宿生の情報(下宿生一覧票の作成)を取りまとめる。 	(前川・萩尾・該当部顧問)
JR・濃飛バス 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> JR・濃飛バスの担当者と連携し、利用生徒への各種連絡を行う。 利用生徒の情報を取りまとめ、データを管理する(警報への備え)。 警報発生時における生徒の帰宅管理を行う(JRから最終便の連絡が入るため、それに間に合うように駅へ送迎する)。 	生徒指導部職員
自転車通学者の登録・管理 【前川・堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学許可願・自転車保険加入の確認・雨カッパの確認に関する職員・生徒への指示。ステッカー番号のデータを管理し(掲示表の作成)、自転車盗難や家出などの対処に役立てる。 自転車ステッカーの発注と自転車への貼り付けを指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前川 ○三川 ○萩尾
交通安全指導 (自転車通学者をメインに) 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会などを利用して全学年または各学年に注意・喚起を行う。 交通講話(防犯講話)の企画と運営を行う。 	生徒指導部職員
携帯・スマホ管理 【池上】	<ul style="list-style-type: none"> 第2職員室での保管庫の管理(職員室で管理する場合は該当クラスを把握) 担任に対して、必要に応じて管理体制の指導を行う。 	生徒指導部職員 各担任
登下校指導 【三川】	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の登校指導の職員割り当て表を作成し、全職員への指示と運営を行う。 	生徒指導部職員 全職員
郊外巡視 【三川】	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査中の巡回指導の職員割り当て表(駅周辺、図書館、ショッピングセンターなどを含む)を作成し、全職員への指示と運営を行う。 	生徒指導部職員 全職員
避難訓練 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の計画と実施(必要であれば消防署等への協力を要請)を行う。 	生徒指導部職員
ネクタイ・リボン貸出 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ネクタイ・リボンを忘れた生徒への貸し出しを行う。 	生徒指導部職員
いじめ防止対策 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会(年2回 4月と3月)、迷惑調査(年2回、7月と12月)、校内いじめ防止研修(年3回 4月と7月と11月)の運営実施を行う。 いじめ事案が発覚した場合、速やかに「いじめ対策組織」を招集し、組織で問題に対応する。(会議記録・指導記録の保管) 	いじめ対策組織・全職員
欠席者調査 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の欠席調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前川 (3年) ・三川 (2年) ・萩尾 (1年)
データ管理 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> 迷惑調査やその他の資料の管理・保存(5年間)を行う。 迷惑調査は電子データの形式で保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堀尾(データ) ・各担任→保管庫

制服関連 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・制服業者との連絡などを行う。 ・新入生入学時の制服の販売に関する計画を行う。 ・譲り受け制服などの書類準備、受付、受諾などを行う。 ・クールビズや防寒着に備えた準備(ハンガー掛けの出し入れ)などを行う。 	生徒指導部職員
誓約書・学級日誌・ 生徒手帳・会計 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・誓約書の管理(3年間保存)、学級日誌の注文準備、生徒手帳の注文を行う。 ・生徒指導部の会計(育友会予算の執行)を行う。 	生徒指導部職員
顔写真 【三川・萩尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・顔写真の撮影の計画(挟場さんとの打ち合わせ)を行う。 ・撮影時の頭髮指導を行う。 	生徒指導部職員 (前川・三川・萩尾)
環境美化指導 【面手】	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の清掃分担表(修学旅行や3年生自由登校などの時には臨時の割り当て表を作成する)と作業体験学習の分担表の作成を行う。 ・掃除用具の整理・管理などに関する指示を出す。 	元田
自動車学校指導 【前川】	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車学校と打ち合わせをし、生徒への案内や指示を行う。 ・自動車学校への入校手順や手続きなどの文書を作成する。 ・自動車学校へ入校する生徒名簿の作成。 	3学年生徒指導職員
遺失物と傘の管理 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・遺失物ロッカーの整理、所有者への受け渡しを行う。 ・放置傘の再利用(貸出用傘として)に関して検討を行う。 	元田
MSリーダーズ 【萩尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・MSリーダーズの活動運営を行う。 ・「あったかい言葉掛け運動」の運営を行う。 	堀尾・前川
高山市補導員 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・年間に数回実施される市内巡回指導(地区担当より指示される)に参加する。 	堀尾
SNS対応 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯・スマホに関する注意喚起、SNSに関する情報の提供など、未然に問題行動を防ぐ取り組みをする。(情報モラル講演会の企画→実施) 	生徒指導部職員
8時完全下校 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・20時完全下校が徹底されるように指導する。 	生徒指導部職員
給食弁当 【宇都宮】	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のSHR後、担任から連絡をもらい、キャンセルによる個数の確認を業者に連絡する。 	(該当部顧問)
女子指導 【元田】	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査期間や年度初めの学年集会等の時間を活用して女子生徒に対して必要な指導や呼びかけ・問題提起をする 	宇都宮

教育相談課主任 【池上】

教育相談全般 【池上・下畑】	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への教育相談的な援助を中心となって行う。 ・不登校生徒の状況が分かるようにデータを管理し、状況に応じて発信する。 ・学年会等に積極的に参加し、担任や学年からの情報を得ると共に、改善に向けて対策案や指示を発信する。 	☆各学年主任 保健室(井川) 生徒指導部職員
人権教育 【池上・下畑】	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の会議に参加し、人権に関する情報を得る。また、必要と思われる情報を職員に発信する。 	県から指示された指定教科の職員を指名し、県へ報告

高山西高等学校いじめ防止基本方針

令和7年4月1日

ここに定めるいじめ防止基本方針は、平成25年6月28日公布、平成25年9月28日施行された「いじめ防止対策推進法」（以下法という）第13条を受け、本校におけるいじめ問題等に対する具体的な方針及び対策等を示すものである。

1 いじめの問題に対する基本的な考え方

(1) 「いじめ」の定義 ※「児童等」＝「児童または生徒」

法：第2条（抜粋）

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

※「いじめは、どの生徒にも、どの学校でも、起こりうるもの」という認識の下、危機感をもって未然防止に努め、早期発見・早期対応並びに重大事態の対処を行う。

(2) 具体的ないじめの態様

- ・冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ・仲間はずれ、集団により無視をされる。
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- ・金品をたかられる。
- ・現金および個人の所有物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- ・パソコンや携帯電話（スマートフォン）等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。
- ・スマートフォンで恥ずかしい画像（動画）を撮影され、SNS上で広められる等。

(3) 学校姿勢

- ・学校教育全体を通じて、いじめを人権問題としてとらえ、「いじめは人間として絶対に許されない行為」であるという意識を生徒一人一人に徹底する。
- ・いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進め、生徒一人一人を大切にする教職員の意識や日常的な態度を高める。
- ・いじめ問題には、学校が一丸となって組織的に対応し、未然防止はもとより早期発見・早期対応に努める。
- ・解決したと即断することなく、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行う。
- ・生徒の主体的、積極的ないじめ未然防止活動を推進する。
- ・部活動内における良好な人間関係を築かせ、お互いが高めあえる組織を目指す。
- ・学校は、学校いじめ防止基本方針を年度の開始時に児童生徒、保護者、関係機関等に説明する。
- ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況は学校評価の評価項目に位置づける。

2 いじめの未然防止のための取り組み（予防に向けて）

法：第22条（抜粋）

学校は、当該学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめ防止等の対策のための組織を置くものとする。

(1) いじめ防止等の対策のための組織

〔組織の名称〕

『高山西いじめ防止対策委員会（常設）』→『高山西 学校いじめ対策組織（発生時）』

〔組織の構成員〕

- ・ 学校関係者：校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、各学年主任
- ・ 第三者：弁護士、臨床心理士、スクールカウンセラー、保護者代表などの参画を必要に応じて導入

〔組織の目的と運営に関して〕

- ・ いじめの未然防止、早期発見・早期対応等を実効的かつ組織的に行う。
- ・ 年2回（4月と3月）「高山西いじめ防止対策委員会」を開催し、学校はいじめ防止に対する取組について見直しを図り、必要に応じて第三者からの意見を取り入れる。
- ・ 重大事態が発生した時は、「特別調査組織」を立ち上げ、対応に当たる。

(2) 学校及び各分掌での「いじめ防止」に向けた取組

【学校全体・・・担任・副担任・学年主任・部顧問等】

- ・ 教育活動全体を通じて、全ての生徒に正しい人権意識を醸成する。
- ・ 生徒の豊かな情操や道徳心を育てる活動を推進する（地域貢献やボランティア等）。
- ・ お互いの人格を尊重し合える態度を育成する。
- ・ 必要に応じてクラス担任や部活動顧問は担当する生徒との日誌（本校では自主記録という）の交換を行い生徒理解の充実と「いじめの早期発見」に役立たせる。また、日誌に心配される内容があった場合は、基本的には週1回開催される学年会でその対策案を協議し、管理職に相談した上で対応に移す。その為にも、情報の「報告・連絡・相談」体制を整え、管理職を中心としたシステムを構築する。
- ・ いじめ対応に関わる教職員の資質能力の向上を図る職員研修等を4月、9月、1月に開催する。
- ・ 不登校の生徒などが出てきた場合、欠席日数が20日と30日に達した段階で、その原因と改善に向けての対策会議（ケース会議）を随時開催する。
- ・ 1年生については、学校生活に慣れはじめる5月頃に二者面談を行い、生徒の現状を把握する。
- ・ 全校生徒対象の三者面談を7月、12月、3月に行い、生徒の現状を把握する。

【生徒指導部】

- ・ 学校生活の規律を正し、生徒が主体的に授業や行事に参加できるよう支援する。
- ・ 「いじめ実態調査」(迷惑調査)を7月と12月に実施し、生徒の状況を把握する (Google Formを活用する)。また、その結果によっては必要な対策を協議し対応する (学校いじめ対策組織が主導)。
- ・ 週1回の生徒指導部会を開き、学年会とも情報を共有して「いじめや不登校の未然防止」に努める。
- ・ 教育相談体制を整え、全教員がいじめ相談に対応できるよう職員研修を実施する。
- ・ 心理検査や性格検査等を有効に活用し全職員が生徒の心の状態を掌握できるようにする。
- ・ 情報モラルに関する指導を定期的に実施する。
- ・ 外部機関 (警察、子ども相談センター、各市役所の子育て支援課等) との連携を図る。
- ・ MSリーダーズ等の社会貢献活動への参加を通して、社会の一員としての自覚を醸成するとともに、自己有用感や自己肯定感を育む。

【教務部】

- ・ 授業規律を整えるとともに、教科指導においては分かりやすい授業を目指す。
- ・ 生徒の授業における進捗を評価する上で「観点別評価」を効果的に実施し、個々の生徒の努力を最大限認め、評価できるようなシステムおよび雰囲気構築する。

【進路指導部】

- ・ 1年次より進路について考える機会を設けることで、高校3年間における生徒の目的意識を醸成する。
- ・ インターンシップや社会体験学習により、社会におけるルール及び規律を習得させる。

【特別活動部】

- ・ いじめは人間関係のもつれがきっかけとなり深刻化していくと考えられるため、各担任や部活動顧問は、毎日の生徒との日誌 (自主記録) の交換を通じて、早期に人間関係のもつれを発見し、適切な対応を取る (「学校全体」の項目にも記載)。
- ・ HR活動の工夫により、生徒間のコミュニケーション力を育成する。
- ・ 集団活動を通して道徳心や倫理観を育成する。
- ・ 生徒会活動を通して「いじめの未然防止」の重要性を周知する。
- ・ 学校行事を通じて全校及び学年・クラス内の協力・協調を促し、居場所や絆づくりを推進する。
- ・ 部活動内における良好な人間関係を築かせ、お互いが高めあえる組織を目指す。

【渉外部】

- ・ 保護者会等でのいじめ撲滅に向けた活動を推進する。
- ・ いじめ問題について地域、家庭が連携した対策を推進する。

(3) 年間計画

月	行 事	取 組 内 容
4	始業式・入学式 <u>第1回高山西いじめ防止対策委員会</u> <u>第1回 校内いじめ防止職員研修</u>	・ <u>入学式 (始業式) … 「いじめ防止基本方針」の説明</u> ・ いじめ防止の年間の取組みについて検討 ・ 学校の方針と具体的対応の確認 (職員研修) ・ <u>いじめの重大事態の定義と対応方針の確認 (職員研修)</u>
5	教育相談 (1年生二者面談)	・ 生徒の生活状況や問題意識等の確認
6		

7	<u>第1回 校内迷惑調査（全校）</u> 三者面談	・迷惑調査（全校）→Google Formを利用する ・家庭生活の状況確認
8		
9	<u>第2回 校内いじめ防止職員研修</u>	・夏季休業明けの生徒情報交換会・教育相談中心
10		
11		
12	<u>第2回 校内迷惑調査（全校）</u> 三者面談	・迷惑調査（全校）→Google Formを利用する ・家庭生活の状況確認
1	<u>第3回 校内いじめ防止職員研修</u>	・冬季休業明けの生徒情報交換会 ・ <u>重大事態発生時の適切な対処の在り方について</u>
2		・いじめ防止の年間の取組みの検証と課題
3	<u>第2回高山西いじめ防止対策委員会</u>	・今年度の反省と来年度に向けての方針 ・ <u>学校設置者（理事長）の参加を仰ぐ→連携確認</u>

3 いじめ問題発生時の対処（発覚時の対応に関して）

(1) いじめ問題発生時 →発見時の初期対応に関して

法：第23条（抜粋） ※「児童等」＝「児童または生徒」

学校の教職員、地方公共団体の職員その他の児童等からの相談に応じる者及び児童等の保護者は、児童等からいじめに係る相談を受けた場合において、いじめの事実があると思われるときは、いじめを受けたと思われる児童等が在籍する学校への通報その他の適切な措置をとるものとする。

2 学校は、前項の規定による通報を受けたときその他当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、速やかに、当該児童等に係るいじめの事実の有無の確認を行うための措置を講ずるとともに、その結果を当該学校の設置者に報告するものとする。

3 学校は、前項の規定による事実の確認によりいじめがあったことが確認された場合には、いじめをやめさせ、及びその再発を防止するため、当該学校の複数の教職員によって、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者の協力を得つつ、いじめを受けた児童等又はその保護者に対する支援及びいじめを行った児童等に対する指導又はその保護者に対する助言を継続的に行うものとする。

4 学校は、前項の場合において必要があると認めるときは、いじめを行った児童等についていじめを受けた児童等が使用する教室以外の場所において学習を行わせる等いじめを受けた児童等その他の児童等が安心して教育を受けられるようにするために必要な措置を講ずるものとする。

5 学校は、当該学校の教職員が第三項の規定による支援又は指導若しくは助言を行うに当たっては、いじめを受けた児童等の保護者といじめを行った児童等の保護者との間で争いが起きることのないよう、いじめの事案に係る情報をこれらの保護者と共有するための措置その他の必要な措置を講ずるものとする。

6 学校は、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認めるときは所轄警察署と連携してこれに対処するものとし、当該学校に在籍する児童等の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは直ちに所轄警察署に通報し、適切に、援助を求めなければならない。

[組織対応]

- ・「高山西 学校いじめ対策組織」による対応

[対応順序]

- ・学校の教職員がいじめに係わる情報を得た場合、速やかに、「高山西 学校いじめ対策組織」に報告し、組織的な対応につなげなければならない。
- ・被害者、加害者の事実関係の把握（複数の教員が関係生徒から個別に聞き取る）
- ・いじめとして対処すべき事案か否かの判断（人権侵害に当たるかどうか）
- ・判断材料が不足しているときはさらに調査
- ・被害生徒のケア（必要に応じて専門家によるケアを要請する）
- ・加害生徒への指導（成育歴や家庭環境等の背景を十分に考慮する）
- ・保護者への説明（事実確認、支援・指導方針、具体的な支援・指導方策）
- ・私学振興・青少年課及び県教委への連絡と経過説明（学校長が責任を持って報告する）
- ・経過の見守り（当該生徒に関わる複数の教職員による継続的な支援・指導）
- ・報告書の作成（経過、背景、対応、結果等）
※問題の解消とは、単に謝罪や責任を形式的に問うことで達成されるものでないことを理解し、生徒の人格の成長に主眼をおき、問題の再発を防ぐ教育活動を行うことが問題の解消となる。

(2) 「重大事態」と判断された時の対応

法：第28条（抜粋） ※「児童等」＝「児童または生徒」

学校の設置者又はその設置する学校は、次に掲げる場合には、その事態（以下「重大事態」という。）に対処し、及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、当該学校の設置者又はその設置する学校の下に組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行うものとする。

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

2 学校の設置者又はその設置する学校は、前項の規定による調査を行ったときは、当該調査に係るいじめを受けた児童等及びその保護者に対し、当該調査に係る重大事態の事実関係等その他の必要な情報を適切に提供するものとする。

3 第一項の規定により学校が調査を行う場合においては、当該学校の設置者は、同項の規定による調査及び前項の規定による情報の提供について必要な指導及び支援を行うものとする。

[①対応順序]

- ・私学振興課及び県教委（地域担当生徒指導主事を含む）へ報告し、事実関係を明確にするための詳しい調査を実施する。
- ・生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じた疑いがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。

〔②学校主体による調査組織の編成〕

- ・「高山西 いじめ対策組織」に、さらに必要な第三者を加えることができる。→ **特別調査組織**

※メンバーは重大事態に直接の人間関係又は特別の利害関係を有しないものとし、公平性、中立性の保持に努める。(メンバー選定に関しては設置者が主体となつて行うものとする)

〈第三者による調査組織メンバーの例〉：弁護士・校医・スクールカウンセラー・学校評議員(1名)

〔③学校主体による調査における注意事項〕

- ・私学振興課及び県教委(地域担当生徒指導主事を含む)と連携を取り指示を仰ぐ。
- ・生徒のプライバシー及び関係者の個人情報に対する配慮は必要であるが、個人情報保護を盾に説明を怠ることがないようにする。
- ・因果関係の特定を急がず、客観的な事実関係を速やかに調査し、可能な限り網羅的に明確にする。
- ・学校にとって不都合なことがあつたとしても、事実に真摯な姿勢で臨み、事態の解決に取り組む。
- ・生徒への聞き取り調査やアンケート調査を実施する場合は、その対象となる生徒や保護者に説明する等の措置が必要であることに留意する。
- ・調査結果は私学振興課に報告する(私学振興課から知事に報告する)。
- ・調査結果より明らかになつた重大事態の事実関係等について、学校は私学振興・青少年課による指導及び支援を受けて、いじめを受けた生徒及びその保護者に対して、明らかになつた事実関係等の情報を提供する。

〔追記①：(加害・被害生徒および保護者に対する)調査実施前の事前説明に関して〕

- ・同重大事態が法に基づき調査を行う必要があることを理解してもらう。(調査の根拠)
- ・学校設置者(学校法人：飛弾学園)が重大事態と認知した時期、および関係機関(私学振興課・岐阜県教育委員会・岐阜県知事)に対して発生報告を行った経緯を説明し、理解を得る。
- ・同調査が民事・刑事・行政上の責任追及やその他の争訟等への対応を目的とするものではなく、事実関係を可能な限り明らかにし、その結果から当該事態への対処や、同種の事態の発生防止を図るものであることを説明する。
- ・重大事態調査において使用するアンケート調査の様式、聞き取りの方法・手順を対象生徒・保護者に対して説明する。その際、事前に説明を行った段階で対象生徒・保護者から調査方法について要望を聞いている場合には、要望に対して検討を行った結果について説明を行う。
- ・調査対象となる生徒だけでなく、関係する生徒に対しても事前の説明が必要であり、その場合は(対象生徒と)分けて説明会を実施するように配慮する。

〔追記②：重大事態調査の実施方法(調査の進め方に関して)〕

- ・重大事態調査の実施に当たっては、最初に調査の進め方やその実施に必要な体制整備と調査期間の見直しについて検討し、調査組織を構成する調査委員の間で共通理解を図る。
- ・同調査の目的、趣旨、調査すべき事案の特定、調査事項の確認、調査方法やスケジュール調整、調査に当たつての体制(第三者委員会と事務局の役割分担等)の構築を速やかに行うものとする。
- ・調査対象となる事案について十分な調査が尽くされていない場合などには、地方公共団体の長等は、調査の結果について再調査を行うことができることとされており、この点を予め対象児童生徒・保護者に確認することが重要である。

[追記③：重大事態調査における留意事項]

- ・不登校重大事態の場合について、調査中に対象生徒が学校に復帰するなど状況が改善した場合には、学校復帰後の状況や対象生徒・保護者の確認の上で、その時点までの事実関係を整理し、再発防止策の検討を行うなど調査方法を工夫しながら調査を進めることが考えられる。
- ・重大事態調査の途中で対象生徒・保護者から調査をやめてほしいとの要望があった場合も、その時点までの事実関係を整理し、再発防止策の検討を行うなど調査方法を工夫しながら調査を進めることが考えられる。
- ・自殺の場合、他の児童生徒に対して自殺であることを伝える必要が一定程度生じる。この際、学校内で教職員の伝え方が異なると、不要な憶測を生む原因となるため学校内で統一する。

[追記④：聴き取り調査における留意事項]

- ・聴き取りの体制については、複数人で聴き取ることが必要であるが、大人数で構成すると、生徒等に威圧感を与えるため避ける必要がある。
- ・聴き取り場所や聴き取りの時間帯についても生徒やその保護者に配慮して設定することが必要となる。
- ・生徒への聴き取りの際には、当該事案に深く関わっていないスクールカウンセラーが同席したり、その生徒と関係性の深い教職員が待機したりして、アフターフォローに入るなどの配慮も重要である。
- ・聴き取り調査を行う際、全体として1時間以内で終わるようにし、長時間にわたる場合には途中で打ち切り複数回に分けて行う。
- ・聴き取り調査において対象生徒が話したがらないこともあるが、無理に聴き取りを行うことにこだわらないこと。その場合は、対象生徒の保護者と連携して、学校の記録や教職員等の聴取を通じた情報収集にするなど、柔軟な対応をとる必要がある。
- ・学校の教職員等への聴き取りを行う場合には、学校の設置者や学校関係者が同席することは避ける必要があり、精神的にショックを受けているなど配慮を要する者に対しては、聴き取り方法を工夫することも必要になる。
- ・聴き取り調査の方法としては、自由に自らの言葉で話をしてもらうことが重要であり、聴き取りを行う者の主観で解釈したり評価したりしない。

[追記⑤：事実関係の確認および整理に関して]

- ・いじめがあったか否かを認定する際のいじめの定義は法第2条第1項の規定に基づいて行うこととし、事実関係の確認・整理に当たっては、いじめと考えられる行為が、いつ(いつ頃から)、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員はどのように対応したか、日頃の学校によるいじめ防止等の対策にどのような課題があったかなどについて可能な限り網羅的に明らかにする。
- ・調査に当たっては事実関係がはっきりしない、いじめ行為を特定できない場合等も想定される。調査結果をまとめるに当たり、そのような場合には調査の過程や調査によって明らかになった範囲での事実関係等を記し、それ以上のことは本調査では分からなかったことを明記することも考えられる。
- ・事実関係の把握と把握された事実関係を基にした評価分析は別の事柄であり、評価分析とは別に調査を通じて把握した事実関係を可能な限り報告書に記載することは、学校・教職員の対応の検証や再発防止策の実施等の観点からも重要である。

- ・重大事態調査の目的は、対象児童生徒の尊厳を保持するため、再発防止策を講ずることであり、対象児童生徒の重大な被害等といじめとの関係性について、直接的な因果関係等の説明が難しい場合であっても、いじめが重大な被害等に何らかの影響を及ぼしたことの認定を丁寧に行うことが重要である。

〔追記⑥：対象児童生徒・保護者に対する調査結果の説明に関して〕

- ・法第28条第2項は「学校の設置者又はその設置する学校は、前項の規定による調査を行ったときは、当該調査に係るいじめを受けた児童等及びその保護者に対し、当該調査に係る重大事態の事実関係等その他の必要な情報を適切に提供するものとする。」と規定しており、対象児童生徒・保護者に対して調査に係る情報提供及び調査結果の説明を適切に行うことが、設置者又は学校に求められている。
- ・調査結果の説明方法は、基本的には、調査報告書本体又はその概要版資料を提示又は提供し、口頭で説明する方法が考えられ、これらの資料に基づいて、調査を通じて確認された事実関係（いじめ行為がいつ、誰から行われ、どのような態様であったか、学校がどのように対応したか）、学校及び学校の設置者の対応の検証、当該事案への対処及び再発防止策について説明する。
- ・ただし、調査報告書に記載されたいじめを行った児童生徒等のプライバシーや人権への配慮は必要であり、その際いじめを行った児童生徒・保護者等から同意を得られた範囲で説明することが考えられるが、いたずらに個人情報保護を盾に説明を怠るようなことがあってはならない。

〔追記⑦：いじめを行った児童生徒・保護者への説明に関して〕

- ・学校の設置者及び学校は、対象児童生徒・保護者に説明した方針に沿って、いじめを行った児童生徒・保護者に対しても調査報告書の内容について説明を行う。
- ・対象児童生徒・保護者から自身に関する記載部分について事前に要望があれば、その意向を踏まえて、該当箇所は伏せるなどの処理を行った上で、調査報告書の提示又は提供、説明を行うことが必要である。

〔追記⑧：地方公共団体の長等への調査結果の報告に関して〕

- ・法に基づいて地方公共団体の長等へ調査結果を説明する。この説明は原則として学校設置者が行う。
- ・対象児童生徒、保護者から所見書が提出されている場合には併せてその内容を説明する。
- ・各学校の設置者は、文部科学省に対して重大事態報告書の提供を行う。

4 いじめの解消

いじめは、単に謝罪をもって安易に解消とすることはできない。 いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要がある。ただし、これらの要件が満たされている場合であっても、必要に応じ、他の事情も勘案して判断するものとする。

① いじめに係る行為が止んでいること

被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。ただし、いじめの被害の重大性等からさらに長期の期間が必要であると判断される

場合は、この目安にかかわらず、学校の設置者又は学校いじめ対策組織の判断により、より長期の期間を設定するものとする。学校の教職員は、相当の期間が経過するまでは、被害・加害児童生徒の様子を含め状況を注視し、期間が経過した段階で判断を行う。行為が止んでいない場合は、改めて、相当の期間を設定して状況を注視する。

② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、被害児童生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。被害児童生徒本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。この場合において、事案に応じ、外部専門家による面談等により確認するなど適切に対応する。

学校は、いじめが解消に至っていない段階では、被害児童生徒を徹底的に守り通し、その安全・安心を確保する責任を有する。「高山西 学校いじめ対策組織」においては、いじめが解消に至るまで被害児童生徒の支援を継続するため、支援内容、情報共有、教職員の役割分担を含む対処プランを策定し、確実に実行する。

上記のいじめが「解消している」状態とは、あくまで、一つの段階に過ぎず、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、学校の教職員は、当該いじめの被害児童生徒及び加害児童生徒については、日常的に注意深く観察する必要がある。

5 情報等の取扱い

(1) 個人調査データについて

いじめ問題が重大事態に発展した場合は、被害者やその保護者に経緯や内容等を知らせるための報告書の作成が必要となったり、訴訟等に発展した場合には情報の提示を求められたりすることもあることを想定して、生徒の個人調査データは、生徒の在籍期間内は必ず保管する。また、重大事態の調査組織においても、データが裏付け資料として大変重要であることから、必ず保管するものとする。特に生徒の自殺等が発生した場合は、心理検査、いじめ調査、迷惑調査等は大変重要な資料となる。

※心理検査等、いじめ調査（記名あり）、迷惑調査（記名あり）、進路調査等

(2) 心理検査等の有効活用について

心理検査については、生徒の性格や生活実態などを事前評価（アセスメント）するうえで有効な資料となり得るため、その扱いや活用方法について職員研修等を実施し生徒指導に積極的に利用する。

(3) 書類の保管期間など

- ・アンケートの保存期間は生徒の在籍期間とする。
- ・アンケートを取りまとめた資料（高山西 いじめ防止対策組織の資料）の保存期間は、「高山西 いじめ防止対策組織」の委員会を実施した後5年間とする。

策定日 平成31年4月1日

改定日 令和07年4月1日

いじめ防止対策推進法

岐阜県環境生活部
私学振興課

いじめ防止基本方針

連携

小・中・高・特
学校

いじめ防止基本方針

岐阜県 環境生活部
私学振興課

【岐阜県】 岐阜県いじめ問題対策検討会
(岐阜県教育委員会等の関係団体
との情報共有・市町村連携)

【岐阜県】 岐阜県いじめ防止対策審議会
(直接、重大事態の再調査にあたる)

【常設】(年2回程度)

高山西いじめ防止対策委員会
(学校方針の検討・情報共有・反省)

【仮設】(いじめ事案発生時)

高山西 学校いじめ対策組織
(いじめの認定・対応・説明・指導)

(重大事態に発展)

重大事態→特別調査組織

* 必要な外部人材を加えることができる

〔詳しい調査の実施〕→設置者は「第三
者調査委員会」を立ち上げる

解決

(継続的なケア)

報告書の作成と被害者への提示

解決

再調査

被害者の不服
再調査の依頼

報告書の作成と被害者への提示

県・私学振興課の判断

(学校での解決が困難)

解決

(継続的なケア)

県

岐阜県いじめによる重大事態再調査委員会
(環境生活部・私学振興課によるいじめの再調査)

教育相談課



池上 正巳

本校の教育相談は新しく下畑先生が加わり、今まで通り生徒指導部・教育相談課として位置づけ、各学年主任と生徒指導部全員で協力し以下のような活動方針でスタートした。

今年度教育相談の活動方針

指導方針

日常の教育活動の中で、生徒理解に努めるとともに、どのように関わることが生徒を育てることになるかを的確に把握し、生徒一人一人が心身ともに成長できるような援助をする。

目標

教育相談で自立の心を育てる

～生徒理解と支援の充実～

- 集団の中での発達支援を通して育てる
- 学習支援・進路支援を通して育てる
- HR活動・特別活動を通して育てる
- 心理検査等の活用を通して育てる

具体的活動

- 各学年主任との連携を取り不登校傾向の生徒や支援の必要な生徒の把握と対応を確実に行う。
- 心理検査等を実施し、生徒個人の特性を知ること、個への指導に役立てる。
1・2年 Ai Grow
- スクールカウンセラーの活用
相談員による、月1回の訪問相談の実施。

今年度から「こころのケア」の臨床心理士である北村和代さんに、月1回の訪問相談を依頼している。内容としては、月1回3時間（一人1時間程度）

不登校生徒への対応

①指導の目標

不登校という課題を通して、生徒の人間的な成長を目指し、生徒の将来への進路、さらには社会的自立を目標とする。

最終的に他の生徒と同様に、学校生活を送れる

ようにする。

- ②本人・保護者との面談
- ③スクールカウンセリングの有効利用
- ④医療機関との連携
- ⑤再登校に向けた介入

場合によっては、進路変更も考えなければならない。（引きこもりを避ける）

今年度の状況と今後の課題

今年度は、スクールカウンセラーが北村さんに代わり、下畑先生中心に活動してきた。

このような状況の中、相談件数は減ってきたものの、昨年同様不登校傾向になる生徒も多く、特に1年生には最終的には進路変更しなければならない生徒もいた。昨年の状況からある程度は予測されたが、今年度は、早めの対応で落ち着いた生徒もいた。しかし、次年度以降入学する生徒にも同様の生徒が含まれると思われる。

最近の生徒の特長としては、個別の支援計画の申し送りのある生徒が増加していることや、過去のトラウマ的な事象やアタッチメントの問題を抱えている生徒も多く、いろんな観点から、生徒の現状の見立てを行わなければならない。

中学校から、個別の支援計画等引継ぎがあった生徒や、問題を抱えている生徒は増える一方である。そういった生徒が、引き続き不登校や問題行動につながるケースが多くなっている。

そういった問題を抱える生徒は、学力不足やコミュニケーション能力の欠如など、いろいろな問題が重なり合っているケースが多く、根本的な原因がわかりづらいことも対応の難しさとなっている。今後は、そういった生徒と根気強く接し、早めのケアを心掛け指導していくことが大切になってくる。

(4) 保健



総括

養護教諭 井川 朱音

今年度は昨年度よりも少し落ち着いた形で保健室運営がスタートしました。今年学校全体として大きく変わったのは、西高祭と体育祭の時期が入れ替わったことです。ここ数年は酷暑が続き、日本各所で熱中症警戒指数の31℃を超える日が増えました。6月に体育祭を実施ということで、6月でも夏を思わせるような天気の日もありましたが、保健委員の呼びかけなどを通して熱中症予防に取り組みました。保健室でも午前・午後に熱中症指数を測定し、体育科教員が体育の授業前後の測定、運動部活動にも熱中症指数計が配付され、測定をしながら活動を行っていききました。ありがたいことに体育祭準備、当日も大きな事故や病気なども起こらず、その後の夏休み明けに実施した文化祭でも子どもたちは暑い中でも元気に活動をしておりました。

6月から保健室前で測定したWBGTで熱中症指数が28℃（厳重警戒（激しい運動は中止））を超えた日は6月に2回、7月に3回、8月に1回（登校日のみ測定）、9月に8回ありました。運動が原則禁止となるWBGT31℃以上になる日はありませんでしたが、昨年よりも厳重警戒の28℃以上となる日が多くありました。測定値は熱中症になりやすい客観的な目安のひとつであり、熱中症自体は気温が低い日であっても、その日の体調や体格、人によって熱中症になりやすさは異なります。体が暑さになれることを暑熱順化と言いますが、6月はまだ熱中症指数は比較的高くはありませんが、暑熱順化ができておらず熱中症になりやすい時期でもあります。暑さのピークが来る前に体育等で汗をかく習慣をつける必要があります。また、一人ひとりの体調を把握することや活動の様子を観察することが重要です。周りの大人が気をつけることはもちろんですが、高校を卒業した後は一社会人となる高校生として自分の日頃の体調を把握し、気づける自己管理能力を育てることも大切だと感じました。この課題を生かして保健室でも自分の心身は自分で守れる力を育てていきたいと思

います。

保健室は特性上、元気な生徒と接する機会が少ないのですが、唯一元気な生徒と係る保健行事が献血活動です。今年の7月も献血バスを派遣していただき、多くの生徒や職員に参加していただきました。本校はこれまでも岐阜県青少年赤十字加盟校として毎年学内で献血活動を行っており、その他にも様々な献血に関わる活動を行ってまいりました。高校生うちに献血に関心を持つことは高校卒業後の献血の実施状況にも大きな影響を与えます。一人ひとりが命について考える機会としても今後も献血活動を継続的に行っていききたいと思

います。これからはインフルエンザやノロウイルスなど感染症が流行る時期となります。今年はインフルエンザの変異株の影響もあり、全国的に感染の流行が1、2か月早くなっています。飛騨地区でも流行し、高校ではまだ少ないようですが、これから流行すること考えられます。保健委員の呼びかけを中心に、教室の換気、一人ひとりで行う手洗い・うがいの徹底等の基本的な感染症対策を行い、学校で感染が拡大しないよう高くアンテナをはり、備えていきたいと思

(5) 特別活動部

鈴木 慎太郎

生徒会活動部門は下畑先生、部活動部門は上西先生を課長として、打江先生、谷川先生、山越先生、また、体育科の先生方にも随時協力を頂きながら、今年度の特別活動部がスタートした。環境(SDGs)部門に関しては、面手先生中心に活動を進めていただいた。

[方針]

特別活動の意義を理解させ、諸活動において生徒の自主性、実践的な活動を促し西高生としての帰属意識を高める。

[本年度の重点目標]

1. 部活動の活性化と強化をはかる。
 - ・生徒の個性を伸ばし、向上心・責任感・忍耐力・協調性を培うなかで、たくましい心身を鍛え学校生活の充実をはかる。
2. 生徒会・委員会活動の活性化をはかる。
 - ・集団の一員としての自覚を持ち、互いに信頼・協力し積極的に活動に参加することにより、充実した学校生活をおくる。
3. 信頼され能動的なリーダーの育成をはかる。
 - ・部活動、生徒会、委員会活動及びクラスなど、リーダーとしての自覚を促し、活動的な運営・実践することにより、資質の向上をめざす。

[具体的活動]

1. 部顧問会議を定期的で開催し、顧問の意識の高揚と円滑な部の指導や運営及び連絡を密にする。
2. 生徒会リーダー研修を通じ、リーダーとしての自覚・役割を認識させ、資質の向上をはかる。
3. 「西高祭」・「体育祭」などの行事は、生徒の自主性を促し、全職員が組織的かつ積極的に協力し運営に関わる。

[総括]

今年度の大きな変更点が2点ある。1つは「生徒会任期」。これまでは行事の関係で年度をまたぐような任期(1月～6月、7月～12月)としてきたが、前期(4月～9月)・後期(10月～3月)とした。もう1つは学校行事の日程を大幅に変更した。これまで6月実施だった「西高祭」を9月に、9月実施だった「体育祭」を6月に入れ替えた。一番の理由は熱中症対策である。両月とも気温が高いことは確かだが、外での活動中心の体育祭は、やはり6月のほうがまだ湿度も低く動きやすかったと感じた。結果、今年度の体育祭は、熱中症(疑いの生徒も含め)を訴える生徒は皆無であった。また、それだけでなく貧血をおこしたり、けがをする生徒も極度に少なかった。体育祭競技においては、昨年度同様にリレー競技と各学年競技とし、応援合戦は1回とした。そして昼休憩を挟んだが、昼食後2時間以内に閉会式まで終わらせるようにした。平日の実施だったが、近年では最高となる530名を超える保護者の方に観覧をいただいた。

今年度の「西高祭」は前年度実施した「全生徒での観覧時間短縮」をさらに短縮した。もちろん暑さ対策が一番の理由である。今年度も相変わらず暑い夏となり、10月後半まで30度を超える日が続いていた。9月はまだ暑い盛りであるため、全校観覧は「オープニングとエンディングのみ」とし、あとは自由観覧とした。内容は前年同様で、3年生、2年生はステージ企画、1年生は展示企画とした。それ以外にも有志企画や部活動企画も実施した。また今年度はオープニングでキッチンカーのアピール時間を設け、お店の方にステージに上がって宣伝をしていただいた。大変な盛り上がりだったように思う。保護者の観覧は一切の制限をなくしたが、平日の昼間にもかかわらず300名超の保護者の方々にご観覧頂いた(昨年度は200名弱)。大変有り難いことであった。

部活動においては、レスリングでの全国制覇、野球部創部初の夏の大会ベスト8進出、男子バスケットボール部の冬の選手権(ウィンターカップ2025)6年ぶりの岐阜県制覇による全国大会出場など、次々と「過去最高」の結果を残してくれた。日常的に支えてくださる外部コーチ、そして何よ

り保護者の皆様に、心より感謝したい。

＜令和7年度 特別活動部 主な行事＞

- 4月 対面式、生徒会長選挙、生徒総会
- 6月 東海大会壮行会、体育祭
- 9月 西高祭、生徒会長選挙
- 10月 国体壮行会
- 2月 3年生を送る会

＜令和7年度 部活動 主な結果＞

国民スポーツ大会 わたSHIGA輝く国スポ

- ・レスリング少年男子 グレコローマンスタイル
71kg級 堤大智(3K) 優勝

各種全国大会

- ・全国高校生グレコローマンレスリング選手権大会
65kg級 飯山福斗(3L) 第5位
- ・フォーデイズ杯全日本女子オープンレスリング選手権大会フリースタイル
61kg級 直井詩空(2K) 準優勝
- ・JOC 全日本ジュニアレスリング選手権大会
グレコローマン
71kg級 堤大智(3K) 優勝
- ・SoftBankウィンターカップ2025
男子バスケットボール部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

- ・レスリング部
男子フリー
65kg級 飯山福斗(3L) (県予選1位)
71kg級 堤大智(3K) (県予選1位) →優勝
女子フリー
62kg級 直井詩空(2K) (県予選1位) →
ベスト8
50kg級 井田彩夏(1K) (県予選1位) →
ベスト8
- ・剣道部 女子団体(県予選1位)
- ・ハンドボール部 男子(県予選1位)
- ・アーチェリー部
男子団体(県予選1位)
男子個人 長瀬楓(3K) (県予選1位)
浅尾拓泉(3K) (県予選3位)
船渡春希(3K) (県予選7位)

各種大会

- ・全国パソコン技能競技大会 日本語ワープロ
競技
団体の部 優勝
個人の部 長瀬智煌(3J) 第1位
*団体、個人ともに「文部科学大臣賞」受賞
- ・岐阜県高等学校剣道大会 男子団体 優勝
- ・岐阜県吹奏楽コンクール A編成の部 金賞
- ・岐阜県マーチングコンテスト パレードコン
テストの部 金賞
- ・全国高等学校野球選手権岐阜大会 ベスト8
- ・国際ソロプチミスト高山
クラブユースフォーラム
山下凛央(1F) 最優秀賞
- ・全国高校生英語ディベート大会 予選19位

(6) 入試広報部

総括

桂川 剛士

昨年度から始動した入試広報部は、入試関係業務と広報関係の業務をおこなう部署である。生徒募集から入試までを幅広く取り扱うが、本校では全教職員から積極的な協力を得ることができるため、さまざまな活動を実施することができている。これは本校の大きな強みであるが、教職員の皆様には改めて心から感謝を申し上げたい。

では、ここからは今年度の入試広報部の活動を振り返ってみたい。

まず、入試業務についてだが、出欠管理、成績管理、帳票管理等を一元管理することで教員の大幅な業務時間の軽減を可能とするBLENDは、入試管理業務でも大きな役割を果たしている。今年度からプラスシードと連動した出願状況確認システムであるプラスウィンドを導入したことによって、各中学校の先生がご自分の中学校の生徒の出願状況をネット上で確認できるようになったほか、調査書データを登録することも可能となり、これまでよりも使いやすい入試システムになった。しかし、この一見便利に見えるシステムも、管理者側がこのシステムについて熟知していなければ、入試に関する質問や突発的なトラブルに対応することができず、複雑で面倒なシステムになってしまいかねないため、自分自身も引き続き、この入試システムについて学ぶ必要があると考えている。中学生の進路に関わる入試業務においては、少しのミスも許されない。丁寧かつ正確な対応を心がけるとともに、入試広報部の教員はもとより、すべての教職員が一丸となって、業務に取り組む必要があるだろう。

次に、広報業務だが、その目標は、私学として優秀な人材を確保することにある。明確な目標を持ち、部活動や勉強に対する強い意欲を持っている生徒に対して本校の教育環境をアピールし、1人でも多くの生徒を確保したいところだが、生徒募集の環境は年々厳しくなっていると云わざるを得ない。日本の14歳以下の子どもの数は年々減少を続けており、2045年には2015年の半数以下にな

ると推計されている。昨年度、この飛騨地区の中学3年生は約80人減少したが、今年度はさらに約60人減少した。公立高校の定員がほとんど変わらない現状を踏まえると、本校の教育環境の充実を図るとともに、それを分かりやすく中学生およびその保護者の皆様に伝え、定員確保に向けて全力で取り組む以外の道はない。

ただ、明るい話題もある。私立高校の授業料無償化の動きである。不安定な政治が続いているため、実施されるかどうか不透明であったが、12月現在、高い確率で実施される見込みである。「私立は学費が高い」と最初から敬遠してきた中学生やその保護者の皆様が、本校への入学を検討するきっかけになることを期待しつつ、さらに気を引き締めて広報活動に取り組んでいきたいと考えている。

生徒募集を目的とした入試広報部の取り組みは、主に3つある。

1つめは広報のDX化の推進である。具体的には、ホームページ、公式LINEや公式Instagramの効果的な運用、BLENDの出願システムであるプラスシードによるインターネット申し込みとメール機能を用いた広報活動だが、特にLINEやInstagramでは、イベントの告知から学校生活の紹介まで、かなりの頻度で発信し、本校で実施されるイベントの情報や本校の充実した学校生活について多くの人に知ってもらえるようになった。その結果、今年度のイベントにも、昨年度に匹敵する数の中学生やその保護者に来校していただき、本校の良さをアピールすることができた。

2つめは地道な広報イベントの実施と内容の改良・充実である。4月から定期的実施している個別入試説明会は、中学生やその保護者の皆様と対面でじっくりとお話できるため、きめ細やかな対応をおこなうことができる。来年度もぜひ継続していきたい。また、オープンキャンパスでは、進学補習や部活動の見学のほか、本校の卒業生との座談会を実施した。本校の広報イベントのなかで最も参加者が多いので、今後も内容を精選して本校の魅力が伝わるようにしたいと考えている。さらに一日体験入学では、全体説明会の司会を生徒会が務めるとともに、特進Iクラスと特進

IIクラスの説明を本校の1年生がおこなった。これは、高山西高校で生活する自分の姿をより具体的にイメージしてもらうためである。そして、昨年度から新設されたコース別見学会であるが、数検や英検の対策、補習や部活動、施設・設備の見学などを実施したが、参加者が少なかつたため内容の吟味をおこなった。来年度は中学生一日体験入学などで満足度が高かった体験授業などを実施する予定である。以上、いずれのイベントにおいても、澁漣とした生徒や熱意あふれる教員と触れ合っていたことこそが、本校の魅力を感じてもらう一番の方法であると考えているため、そのような機会を1回でも多く用意し、精選した本校のグッズ（トートバッグ、クリアファイル、ボールペン、消しゴムなど）やウェルカムお菓子（うまい棒、チロルチョコ）を準備して、生徒や保護者の皆様をお待ちすることが大切であると考えている。

3つめは、昨年度一新された中学校のプレゼンテーション担当および中学校担当のスキルアップである。5月に、入試広報部の教員をはじめ、中学校のプレゼンテーション担当および中学校担当などが、株式会社リスキルのブランディング研修を受けた。「高山西高校のブランド・アイデンティティとは何なのか」、「高山西高校のブランドを打ち立てていくためにはどのようなコミュニケーションが必要か」といったテーマについて、教員間で非常に活発な議論が交わされた。また、この研修によってブラッシュアップされたプレゼンテーションは各中学校様から非常に高い評価を得ており、このような研修の重要性を再確認することにもなった。来年度以降も広報研修については継続していきたいと考えているが、広報に関わる教員のみならず、本校のすべての教職員が参加してそれぞれの考えをぶつけ合えば、優れたアイデアが生まれてくるだけでなく、教職員の団結力も高まり、学校全体に勢いがつくように思われる。

校長や教頭を筆頭に、中学校のプレゼンテーション担当者や中学校担当者、そして、飛騨地区外および岐阜県外にも足を運び、一人でも多くの入学者確保に向けて奔走している部顧問の先生方の広報活動をサポートするためにも、さまざまな

工夫を凝らして魅力のある高校生活を中学生にアピールしたいと考えている。

以下、今年度の具体的な広報活動とその内容を記す。

1. 中学校訪問（校長、教頭、中学校担当）

校長、教頭を筆頭に飛騨地区の各中学校の担当者が、本校でおこなわれるイベントや入学試験に関する情報を伝えるなど各種PR活動をおこなった。

2. 中学校で実施される高校説明会への参加

中学校からの要請に応え、プレゼンテーション担当者が各中学校で開催される高校説明会に参加した。受験生やその保護者の皆様に対して本校の魅力を説明した。

3. オープンキャンパス、一日体験入学の実施

オープンキャンパスでは、補習・部活動見学や卒業生との座談会などを実施した。本校生徒が中学生やその保護者の案内役を務め、さまざまな質問に答えた。また、一日体験入学では、生徒の司会による全体説明や本校職員による体験授業、補習・部活動見学を実施し、本校の雰囲気より強く感じてもらうことができた。

4. 学校見学会

昨年度のコース別説明会を、今年度は学校見学会として実施した。オープンキャンパスと同様に、英検講座や数検講座を中心に据え、学校説明や補習・部活動見学を実施した。参加者のニーズや反応を踏まえて内容を吟味しながら継続していきたい。

5. 中学生・保護者対象個別入試相談会

4月から10月までに月1回ずつ本校会場で開催したほか、11月には高山市会場（高山市民文化会館）で1回、飛騨市会場（飛騨市古川町コミュニティセンター）で1回、下呂市会場（星雲会館）で1回ずつ、12月には本校会場で2回開催した。さまざまなブース（学校全般・特進Ⅰ・特進Ⅱ・部活動・奨学金等）を設けて、中学生やその保護者の皆様のさまざまな質問に対応した。

6. 学校案内「夢かなえる！」の作成

「夢かなえる！」の作成においては、生徒に親しみを持ってもらえるようなデザインと本校の魅力を中学生に伝えられるような内容を心掛けて作成

し、中学生へ配布した。

7. 各種ちらしの作成

オープンキャンパス、一日体験入学、個別入試相談会、学校見学会、英検合格対策講座、数検合格対策講座などのちらしを作成し、各中学校で中学生に配布していただいた。

8. ホームページの充実

ホームページを訪れた人々に、学校生活全般、部活動、行事ごとの本校生徒の取り組みの様子の紹介などを行い、本校の魅力を感じていただくために、コンテンツの充実を図っている。

9. 西高校のPRグッズの製作・配布

クリアファイル、消しゴム、赤ボールペン、手提げバッグ、西高のロゴ入りのお菓子などのPRグッズを準備した。これらはオープンキャンパス、一日体験入学、中学生・保護者対象個別入試相談会、学校見学会などの機会に配布した。

10. 報道機関に対する情報の提供

高山市民時報に本校の広告を出し、公式SNSの宣伝やイベント情報の発信をしている。また、様々な分野における生徒の活躍や本校の教育活動に対する取材を報道機関に依頼した。今後も積極的に情報を発信していく予定である。

(方針)

1. 入試業務の効率化を図り、受験生や保護者にとって分かりやすい入試を実施するとともに、公平公正な入試を実現する。
2. 校内のサーバーやネットワーク、パソコンなどを管理し、生徒の学習環境や教員の業務環境を整備する。
3. 様々なメディアを通して本校の教育活動や社会貢献活動及びその成果を社会に広め、社会的信頼の獲得とイメージの向上に努め、入学希望者の増加を目指す。

(本年度の重点目標)

1. 受験生および保護者にとって分かりやすい入試を目指すために、入試制度や入試業務の改善に取り組む。
2. パンフレットや募集要項の作成、入試説明会や個別説明会の実施などを通して、正しい入試

情報を発信する。

3. BLEND導入後に発生した課題を改善して入試業務の適正化を図るとともに、ミス無く公平かつ公正な入試を実施する。
4. 教務部と協力し、生徒の学習環境の整備・拡充を図る。
5. 社会に広く本校の教育活動や魅力を発信し、中・長期的な視点に立った広報活動を継続的に展開する。
6. 200名以上の新入生を確保するために、生徒募集に直結する積極的な広報活動の機会を設ける。

(具体的な活動)

1. 受験生および保護者の負担を軽減するため、入試制度や入試業務の改善に取り組む。
2. 入試手続きの簡略化と入試業務の適正化を実現するため、出願や入学の手続きにおいて発生した問題やBLEND導入後に発生した課題の解決に努める。
3. 公平公正な入試を実現するため、全職員に対して本校の入試制度に関する研修を行い、その理解を深める。
4. 生徒用パソコンの追加整備など、授業や補習、探究活動などに必要な機器の購入および管理を行う。
5. 広告・宣伝用素材（募集要項、「夢かなえる」、「夢かなえる増刊号」、学校紹介DVD、岐阜県私学高校ガイドブック、各種ちらしなど）を作成する。
6. 広告・宣伝活動（報道機関への取材依頼、高山市民時報の広告案の送付、ホームページの更新、SNSを通じた生徒や保護者に対する情報提供など）を積極的に行う。
7. 中学生および保護者を対象としたイベント（オープンキャンパス、一日体験入学、個別入試相談会など）の企画・運営を行う。
8. 中学校担当の職員を支援する。
9. 時代の変化を踏まえて既存の広報活動の改廃を検討するとともに、新しい広報活動を企画・立案し、入試広報部の活動全体の質を高める。

(役割分担)

○入試・生徒募集行事(横田・桂川・橋下・平野)

- ・入試管理 (BLEND入試管理委員)

橋下・平野・木伏

- ・入試業務補助委員 荒井・山下・脇田・萩尾

- ・募集要項作成 横田・桂川・橋下・平野

- ・入試説明会(6月)

横田・桂川・橋下・平野・中学校担当

- ・中学校訪問

桂川・鈴木・橋下・前川・平野・萩尾・上西

- ・中学校での説明会

田中・松岡・山越・横田・桂川・橋下・平野・

鈴木・前川

- ・中学校担当者進路説明会(12月)

横田・桂川・橋下・平野・鈴木・前川

- ・入試要項作成、準備 横田・桂川・橋下・平野

- ・入試業務 全員

- ・入試検定料、入学金 事務部(内記・森下)

- ・入学手続き、次年度更新

橋下・平野・木伏・事務部

- ・若手職員対象の入試やプレゼンの研修

横田・桂川・橋下

- ・HPからの資料請求の対応 橋下・平野

○広報(荒井・山下・脇田・萩尾)

- ・「夢かなえる」の作成

荒井・山下・脇田・萩尾・桂川・橋下

- ・「夢かなえる 増刊号」の作成

荒井・山下・脇田・萩尾・桂川・橋下

・学校紹介DVD

荒井・橋下・業者

- ・ホームページ 荒井・橋下・業者

- ・岐阜県私学高校ガイドブックの作成

荒井・橋下

- ・各種ちらし・ポスター作成 平野・荒井

- ・学校ノベルティーなどの作成

桂川・平野・脇田・萩尾

- ・オープンキャンパス(要項作成ほか)

荒井・桂川・橋下・平野

- ・中学生体験入学(要項作成ほか)

荒井・桂川・橋下・平野

- ・個別入試相談会(要項作成および会場手配)

橋下・平野・桂川・横田

- ・新聞記事切り抜きと掲示 山下・脇田・萩尾

- ・学校行事部活動写真・ビデオ撮影

山下・脇田・各学年担当者

- ・学校行事部活動写真・動画フォルダの管理

脇田・山下

- ・行事・部活動大会結果等報道機関への連絡

萩尾・上西・打江

- ・高山市民時報広告作成(毎月1回) 山下・萩尾

- ・Hit's FM 広告 桂川・橋下・平野

- ・インスタグラム、ライン等

平野・桂川・橋下・横田

- ・各種協賛金申請、他雑務 山下・萩尾

○ネットワーク管理

- ・職員アカウント、メール等の設定 橋下・山越

- ・職員PC、生徒用PC等の管理 橋下・山越

- ・サーバー管理 橋下・山越・業者

(7) 渉外部

川上 千敏

総括

渉外部の役割は、本校を支える三つの団体である後援会・育友会・同窓会の窓口となり、互いに連携しながら、本校教育活動のさらなる発展を目指していくことにあります。日頃より、各団体の皆さまには本校の教育活動をあらゆる側面から力強く支えていただき、連携を通して教育環境の充実に向けた取り組みを進めることができいております。本校の後援会・育友会・同窓会の皆さまにおかれましては、本校の取り組みに対する深いご理解とご協力、そして温かなご助言など、さまざまな面からご支援を頂戴しておりますことに厚く御礼申し上げます。

以下に、それぞれの活動をご紹介します。

●育友会活動

【高山西高等学校育友会】

入会式 (4/7) ※入学式後

- ・育友会活動紹介
- ・学校生活について

第1回役員会 (4/16)

- ・自己紹介
- ・令和7年度事業案、予算案検討
- ・各自(役員)にて総会資料確認
- ・各委員会からの事業案、予算案の検討

育友会総会 (5/8)

- ・令和6年度事業報告、決算報告
- ・令和7年度事業案、予算案
- ・新役員選出

<各委員会の主な活動>

体 育	体育祭団席借用費 体育備品購入
生徒指導	防犯、交通講話講師謝礼 ネットセキュリティー
進路指導	就職希望者模擬面接実施 進路ガイダンス開催 親父ゼミナール開催
教 務	校誌「見量山」発行

文 化	育友会報発行 (2回)
図 書	新聞、雑誌購入
厚 生	花いっぱい運動協力 衛生備品購入
母 親	フラワーアレンジメント開催

育友会報 配布 (8/1)

3年生模擬面接 (8/22)

- ・3年生の就職希望者を対象に、企業の人事担当者や育友会役員の方に協力していただき面接指導を行いました。

フラワーアレンジメント (12/5)

- ・陽光園の従業員の方に講師をお願いして、保護者の方にクリスマス用のアレンジメントフラワーを作っていただきました。

親父ゼミナール (2/9) 予定

- ・本年度の卒業生保護者の方を講師として迎え、各教室でお話をさせていただきます。

第2回育友会役員会 (3月下旬予定)

- ・来年度新役員候補について

育友会報発行 (3/1予定)

- ・3年生保護者3名より寄稿
- ・3年生生徒3名より寄稿
- ・卒業生へ、贈る言葉など

育友会役員選考委員会 (3月中旬予定)

- ・退任役員代表1名と学級委員から選出された各学年代表2名の合計6名によって、次年度の育友会役員を選考します。

【飛騨地区高等学校育友会連合会】

第1回理事会 (紙面報告)

- ・令和6年度事業、決算報告
- ・令和7年度事業、予算案
- ・指導者研修会計画案

- ・高等学校保護者連合会常任理事会報告
- ・(財)高等学校安全振興会評議員会報告

指導者研修会 (9/25)

- ・飛騨地区の高等学校の育友会 (P T A) 役員が集まり研修を行う。

第2回理事会 (2月下旬予定)

- ・令和7年度事業会計中間報告
- ・令和8年度連合会組織、役員について
- ・令和8年度新役員選出について
- ・令和8年度指導者研修会計画案

【岐阜県高等学校P T A連合会】

定期総会 (5/30)

- ・令和6年度事業、決算報告
- ・令和7年度事業、予算案
- ・新旧役員あいさつ

PTフォーラム (10/31)

【岐阜県私立高等学校保護者連合会】

第1回常任幹事会 (5/7)

- ・総会資料の確認と役割分担
- ・新役員選出案
- ・請願署名運動計画案と依頼

通常総会 (6/4)

- ・令和6年度事業、決算報告
- ・令和7年度事業、予算案
- ・役員改選
- ・功労者へ感謝状の贈呈

第2回常任幹事会 (11/19)

- ・請願署名運動集約結果
- ・来年度の予定

●学校後援会

理事会、総会 (6/25)

- ・令和6年度事業、決算報告
- ・令和7年度事業案、予算案

●同窓会

理事会 (10/29)

- ・令和6年度事業報告、会計報告
- ・令和7年度事業報告案、会計中間報告

総会 (11/12)

- ・令和6年度事業、決算報告
- ・令和7年度事業案、予算案

(8) 環境教育課

面手 啓

◎今年度の活動状況

1 LRQAのサーベランス

今年度は3年毎の更新年であり、10月1日・10月2日の2日間で更新審査が行われた。世界的な流れとなっているSDGs(持続可能な開発目標)とESD(持続可能な開発のための教育)とを関連付けた中期的EMS計画と学校経営の融合推進が継続されているかを重点的に確認し、以下のように審査が実施された。なお、今年度も対面審査は行わず、リモート審査とした。審査機関及び本校双方の負担軽減を考慮して、今後も同様の形式を継続する予定である。

①更新審査1 令和7年10月1日(水)

・ヒアリング 経営層

谷口 正彦 校長・内記 慎吾 事務長

・ヒアリング ISO事務局

環境訓練 新入生乗鞍研修にて、新入生に対する環境訓練を実施した。職員や生徒への環境訓練が、有効に実施されていることが確認された。

生徒会教育 各委員会の取り組みと、学校行事(文化祭・体育祭)における環境に配慮した取り組みが確認された。

緊急事態対応 火災と地震を想定した避難訓練を実施しており、消防署を招いて、有効な訓練が実施されていることが確認された。

気候変動への対応 ゴミ分別の徹底、夏季のクールビズ、部活動・体育時のWBGT測定、災害時の避難所準備等で対応されていることが確認された。

・ヒアリング 事務部門 内記 慎吾 事務長

電気・燃料使用量等、エネルギー使用量の監視がされていることが確認された。

消防法、フロン排出抑制法、廃棄物処理法、働き方改革関連法等に関わる順守義務が決定され、定期的に順守評価されていることが確認された。

②更新審査2 令和7年10月2日(木)

・サイトツアー 環境設備(屋外灯油タンク、地下灯油タンク、業務用空調機、一般廃棄物)の管理状況が確認された。

・環境授業 事前に授業計画を提出し、実施後のコメントを加えて審査対象とした。

2年FG組 物理 川上 千敏 教諭

「放射能と環境への影響」

「放射能とどう共存していくべきか」

「科学的知識を環境保全にどう活かすか」

について意見交換させる。

1年K組 情報 下畑 耕一 教諭

「情報化と地球環境問題」

情報化によって発生した社会問題(環境問題)に関する理解を深め、世界共通の課題であることを認識させる。

・ヒアリング 生徒会教育 鈴木 慎太郎 教諭

各委員会による環境関連の取り組みが、有効に実施されていることが確認された。

2 生徒会各委員会の取り組み

①環境美化委員会 ゴミの分別収集及び計量、感染症対策の徹底(手袋・マスク着用、消毒)

②文化委員会 西高祭(文化祭)・体育祭における環境教育の推進と換気の徹底

③図書委員会 環境関連図書の紹介・管理、図書館清掃、ポスターづくり

④LHR委員会 花いっぱい運動の継続

⑤風紀委員会 駐輪場の整理整頓、冬場の除雪作業

3 その他

①勤労体験学習(4・10月実施)

②各教科担任による各授業内での環境教育授業の実施

◎総括

更新審査では、本校がISO14001の要求事項や期待される成果を満たすために必要な能力を有し、適切に構築、運営、管理されているものと判断された。環境教育プロセスでは、環境方針に適合し各学年の授業科目において、各課の特性に応

じた環境教育が足並みそろえて実施されているとの評価を得ることができた。また、ISO規格改定(2024年追補版 気候変動の影響)への対応については、気候変動の問題は重要課題として決定しており、環境教育及び生徒会教育の中で考慮されている。電気・燃料使用量等、エネルギー使用量の監視も定期的に監視されている。さらに、異常気象による大型台風・大雨時の避難所として、体育館を開放する準備ができており、利害関係者(高山市)の要求にも考慮されているとの評価も頂けた。

今後も引き続き環境教育やSDGsの活動を継続することで、有益な環境影響を一層増大させ、また環境に配慮した取り組みを実践することのできる人材の育成に力を入れていきたい。さらに、昨年度ISO規格に追補された「気候変動への対応」にも、一層アプローチしていきたいと考える。

(9) 学年部

第1学年の取り組み

1 学年主任 鈴木 慎太郎

令和7年度第1学年は、男子86名、女子84名の計170名、6クラスでのスタートとなった。

新たな生活環境で気持ち新たに入学してきた生徒に対して、第1学年教員一丸となって指導にあたることを目標に新年度を始動した。

[学年・クラス目標について]

学年目標「高校生としての自覚を持たせる 生活・学習習慣を確立させる 目標実現に向けて努力する」を掲げた。本校学習三原則を基礎として設定したが、まずは何よりも高校生としての自覚が必要であると考え。義務教育ではない高等学校は、自己責任を求められる場面が多くなる。そして、その自覚を持つためにも生活習慣の確立と目標設定が欠かせない。

学年スローガンは「百術不如一清」とした。若者らしく純粋に何かを目指して欲しいという願いからである。各クラス担任（副担任）とクラス目標は以下の通りである。

F組 川上（建石）

「気持ちの良い姿勢や態度の取れる人になる
～明るく、伸びやかに～」

G組 桂川（萩尾）

「自分の言動に責任を持ち、
他者の人格を尊重する」

H組 菅沼（瀨瀬）

「ルールを守る やるべきことをやる」

I組 打江（鈴木）

「けじめ」

K組 谷川（江黒）

「守・破・離」

L組 平野（山越）

「小さなことを大切に」

[総括]

今年度の新入生も、昨年度に引き続き乗鞍研修からのスタートとなった。研修では例年通り、研修やレクリエーションなどを通して高校生活の意義を考え、高山西高校のことやクラスの仲間のことを知る大変貴重な時間を過ごしてくれたと思う。この研修を通しての新入生に対する印象は「この学年は元気がよい」というものだった。返事や挨拶はもちろんのこと、掃除の時間、ドッジボール大会や休憩時間の過ごし方を見ている、常に元気に走り回っていたように見えた。体調を崩す生徒もほとんどいなかった。

5月の市内班別研修、6月には体育祭、9月は西高祭とリトルワールドへのバス遠足。前期だけでもこれだけの行事を経験した。そういった行事を通してクラスや部活動の仲間のことをより知ることができ、人間関係も構築しつつあったが、やはりトラブルもあった。勉強に関して悩む生徒も多く見受けられた。しかし、そういった「うまくいかない経験」は、高校生のような若者には欠くことのできないものであるとも思う。思い通りにならないことがあるからこそ、成長も自覚できるのだと。

令和7年という年に、彼らは中学校と高等学校の両方の生活を経験した。高校入学当初はその大きな変化を前向きに捉えられる生徒もいれば、そうでない生徒もいる。特にそういった生徒には注意を払いながら、3年間の、ひいては長い人生の土台作りとなる高校1年生の生活を、教員一丸となって支えていきたい。

第2学年の取り組み

2学年主任 三川俊哉

令和7年度第2学年は男子86名、女子83名の合計169名、6クラスでのスタートとなった。昨年は西高校1年目とはいえ中学生の雰囲気が残ったままでのスタートであったが、2年目の今年はより充実した高校生活を過ごす為に目標を明確にした。まず、第1に卒業条件を全員が取得する。第2に研修旅行の成功。この二つを柱とし新年度を始動した。

【学年目標・クラス目標】

学年目標「学習三原則の徹底」

(生活を正す・目標を持つ・継続する)とし高校生活の基盤をさらに強固なものすることで、生徒一人一人が目標実現に向けての基礎力を高めるための支援をする。

方針

- ・生徒が自分の人生観や職業観を深める機会を設ける。
- ・高校における自ら目標を達成することが、人間的な成長に繋がることを自覚させる。
- ・自分の言動が周囲に与える影響を考えさせ、自分の言動に自覚と責任を持たせる。
- ・自分を支えてくれる周囲の人々に感謝し、自分が周囲に対してどのように貢献できるか考えさせる。

クラス目標

F組 井上 (Jim)

「変わることを楽しむ」

G組 橋下 (Jim)

[学習の質や量の向上、自己の研鑽]

～強い幹を作る～

H組 荒井 (脇田)

「自立」 ～自ら考え、自ら行動～

I組 三川 (宇都宮)

「自分の言葉・行動に責任を持つ」

K組 下畑 (蟹江)

「今を生きる」

L組 田辺 (蟹江)

「自分で考えて行動する」

【対策】

- ・生徒とのコミュニケーションを通じ、生徒の変化を早期に発見する。
- ・教員間で情報を共用し、連携して生徒の指導に取り組む。
- ・一人一人の生徒の進路目標を達成するために計画的な指導を行う。
- ・卒業条件の取得をサポートするなど、学習支援をおこなう。

【総括】

<卒業条件について (11月14日現在)>

F組 1名

G組 全員取得

H組 12名未取得

I組 10名未取得

K組 3名

L組 全員取得

残された4ヶ月で卒業条件を取得できるようサポートしていきたい。

<研修旅行について>

9月8日～12日(4泊5日)の北海道研修旅行は往路復路ともに濃飛バスを利用してのフェリー移動(新潟～苫小牧、小樽～新潟)であった。長時間の船旅も生徒にとっては貴重な経験となった。また、ニセコでの体験型研修では、午前はラフティング、午後は選択型体験学習(アドベンチャーパーク、マウンテンバイク、トレッキング、インドアクライミング、キャンドル作り)と5つのコースに別れ、北海道の大自然を満喫できたことが非常によかった。全行程天候に恵まれ、無事成功裏に終わることができた。



9月8日（月）午後10時頃 新潟港にて撮影

【今年度の振り返り】

今年度の第2学年は10名の職員で構成され、3学年の中で1番少ない人数でこの1年間を支えてきた。特に担任は経験値の高い先生方であり、生徒への指導や保護者への対応も誠意をもって丁寧に対応しており安心して任せることができた。

前期は5月高山市内班別研修、6月体育祭、企業実習（HI組）、9月文化祭（西高祭）、北海道研修旅行と学校行事に日々追われていた。後期に入りようやく落ち着いて物事に取り組む事ができるかと思いきや、探究飛騨（FGL組）、留学生の受け入れなど相変わらず忙しい。そんな中でも生徒は個々の目標に向け取り組む姿はとても清々しい。特に、6年ぶりにウインターカップに出場する男子バスケ、11月に開催された県新人戦個人・団体共にアベック優勝の剣道、英語ディベート部も全国大会出場を決めるなど2年生が主軸となり活躍をしている姿は本当に遅しく、周りにエネルギーを与えてくれる。このまま順調に育って欲しいと願う。

2年生も残り4ヶ月あまり。勉強に部活動に真摯に取り組み、来春には各々が進路実現にむけて最高のスタートが切れるように学年団が一丸となり継続的な指導をしていきたい。

第3学年の取り組み

3学年主任 上西 貞幸

高校3年生として期待される姿としては、授業や部活動・学校行事など高校生活のあらゆる場面で、下級生の手本となりリードしていく。また、部活動での大会や受験において、すべての目標実現を果たしていく。そして、下級生の憧れの存在となって、胸を張って卒業式を迎える。生徒たちのそんな思いを実現させるために、学年団一致団結し、全力でサポートしてきました。

[学年・クラス目標について]

高校生活の集大成となる3学年は、生徒の入学当初からの目標の達成と、卒業後のあるべき姿を見据えた学年・クラス経営が必要となってきます。そのためは、目標や方針を明確にし、生徒ひとり一人に丁寧な説明で伝えていくことに尽きます。そこで、次のような学年目標・方針、クラス目標を掲げました。

◎目標

『高校生活の集大成 ～目標の実現を果たす～』

◎方針

1. 目標を達成するために努力する生徒に対し、計画的かつ継続的な支援をおこなう。
2. 生徒が自らの目標を達成するために、全力で高校生活に取り組める環境を整える。
3. 自分の掲げる目標にふさわしい生活習慣および学習習慣を身に付けさせる。
4. 3年生として期待される姿を伝えるとともに、生徒自身にも自分のあるべき姿を考えさせる。
5. 高校生活のあらゆる場面で、下級生の手本となるよう行動させる。
6. 些細なことであっても、素早く真摯に向き合い対応していく。
7. 決して一人で抱え込むことなく、学年団として困難に立ち向かう。
8. 学校行事を通してクラス内のまとまりを目指す。

F組 『考える葦』

G組 『お互いを高め合い、認め合う』

H組 『自立』

I組 『素直 謙虚 感謝』

J組 『クラスの輪を大切にする』

K組 『われ一人、荒野（あれの）を行く』

L組 『超挑戦』

[今年度を振り返り]

まず今年は体育祭が6月、西高祭が9月と、例年と異なる時期に大きな学校行事が開催されました。特に体育祭では、団幹部を中心に3年生それぞれがリーダーシップを発揮することで、例年以上の完成度と盛り上がりとなり、会場全体に感動を与えました。そして、この成功体験は、受験を勝ち抜くために必要な大きな自信へと繋がっていきました。また、西高祭ではクラスメイトと共に創り上げたステージパフォーマンスを披露することで、3年生としてのプライドを下級生たちに見せつけてくれました。その結果、仲間との絆がより一層深まることとなりました。

今年度1年間を通し、生徒たちへ訴え掛けてきたこととして、最高学年としてのリーダー性を発揮する、仲間との絆を深めていく、進路目標を達成させる。そして、3学年全員の卒業後の進路が決定するまでは、受験生として過ごす雰囲気を作りだし、その雰囲気を最後まで継続させていく。つまり、クラス、学年全体で受験を乗り切る雰囲気を作り出すことです。

受験勉強、部活動、学校行事などそれぞれの場面で、仲間と共に切磋琢磨しながら目標達成に向かうことが、今後の人生における大切な糧となっていく。卒業後の生徒ひとり一人の姿や活躍を思い浮かべながら、生徒自身が自発的に成長するよう促していく。そして生徒自身が、高山西高校でたくさん学び経験し、充実した高校生活を送れたと実感して卒業していくことが、3学年の教員としての務めであると確信しています。

2. 文 友

令和7年度「探究飛驒」

ぎふグローバル人材育成推進事業における実践報告

高山西高等学校の取り組み

「飛驒から世界へ、世界から飛驒へ」

本校2年生が取り組む探究活動も今年で12年目を迎えることができました。これもひとえに、慶應義塾大学の皆様や活動に快くご協力いただける地域の皆様のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

一昨年度から特進Ⅱクラスの参加が始まり、人数が増えたことで活動がさらに盛り上がり、個性豊かな探究活動となっています。今年は、これまでの研究発表にとられることなく、自分たちの興味・関心を大切にテーマを選ぶ班が多く見られました。その結果、これまで題材になっていなかったテーマも多く取り上げられています。新たな視点での発表を聞けるのではないかと、私たちも楽しみにしています。

生徒たちは、ChromebookやiPad（一人一台端末）を活用しながら、Google Workspaceをうまく活用し、活動に取り組んでいます。Googleドキュメントで共同編集を行い、効率化を図るほか、Googleフォームでアンケート調査を行い、Googleスプレッドシートにデータをまとめて集計するなど、目的に応じた使い方ができていました。特別な指導をしていないにもかかわらず、生徒一人ひとりが自分で考え、技術を効果的に活用している姿には非常に驚かされました。

今年度も、2年F組と韓国の高校生との交流を実施しました。その中で、生徒たちはプレゼンテーションを英語に翻訳し、韓国の高校生に堂々と発表する姿を見せてくれました。英語に翻訳する際には、韓国の高校生に分かりやすく伝わるよう、英語の先生に確認を取りながら積極的に作業を進めていました。英語力が十分ではない生徒も、一生懸命に伝えようとする姿勢が相手に伝わり、交流を通じて友情が育まれる様子が見られました。

また、昨年度から独立行政法人国立青少年教育振興機構（国立乗鞍青少年交流の家）主催の全国高校生活動顕彰制度「地域探究プログラム」に参加していますが、今年度は、1年K組が参加しました。本プログラムは、高校生が地元で実践活動を行い、主体的・対話的に深い学びを追求することを目的とした探究活動です。この活動では、発表スライドと活動報告書を制作し、学内で活動報告発表会を実施しました。その後、国立青少年教育振興機構の審査を経て選ばれたグループが地方ステージ（地方ごとの



選考会)に進出し、さらに勝ち進むと全国ステージに挑むことができます。生徒たちは全国ステージ出場を目標に意欲的に活動していました。

今年度は、飛騨の大自然の魅力を学ぶため、国立乗鞍交流の家で野外活動や森の活用法を学び、街づくりをテーマにしたワークに取り組みました。その後、地元飛騨で新たな挑戦を行い、地域を盛り上げている社会人(飛騨人)の方々にお話を伺い、各自が設定した「課題」をもとに探究を進めました。多くの飛騨人の方々にご協力いただいたことで、生徒たちは知らなかった世界を知り、多くの学びを得ることができました。また、発表に向けてのインタビューやミーティングを通じて、社会人の考え方や仕事に対する姿勢を学び、発表や報告書を制作しました。

今年度の探究活動に際し、多くの方々にご協力をいただきました。この場をお借りして、改めて心より感謝申し上げます。現在、新教育課程では探究活動が必須となり、社会では身近な課題を発見し、仲間とともに解決策を考え、それを発信する能力が求められています。生徒たちが将来、社会で活躍するための力を身につけられるよう、本校としてもより良い探究活動を目指して取り組んで参ります。今後とも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



3. 生徒活動報告

生徒会活動



高山西高校生徒会活動の1年

打江 勇太郎

高山西高校の活動は1年を通して大きく2つの行事で構成されている。それは6月の西高祭と9月の体育祭であるが、今年は熱中症対策を考え、6月に体育祭、9月に西高祭と行事の期間を変更して行うこととなった。生徒会執行部の生徒も昨年を超える西高祭や体育祭にするにはどうしたらいいのかと悩むことが多くあった。生徒会の生徒が試行錯誤し、安全でより記憶に残る西高祭、体育祭を創っていくことへの思いが込められた学校行事を展開することができた。

体育祭では、「翔」というスローガンを掲げ、生徒一人一人が団結し、団全員で高い目標に向かって力強く進み続ける、見る人を圧倒するような競技や応援がある力感あふれた体育祭にするという思いが込められている。体育祭実行委員長の2年F組廣島聡大くんを中心とした生徒会執行部は、初めての6月開催となる体育祭の種目を試行錯誤しながら検討を行った。ちょうどインターハイ予選を控えている部活動が多い中で怪我のリスクを避け、全員が楽しめる種目がないか考えた上、借り人競争や先生玉入れなど新種目を入れ、先生方の協力もありながら全員が楽しめる競技を行った。

また、体育祭の1番の目玉である応援合戦は3年生も部活動がある中で試行錯誤をして準備を行い、昨年を超える応援にしようと、各団長やサブリーダーが中心となり準備を進めた。競技中の放送案内や実況も生徒会でを行い体育祭を盛り上げるという思いと、今年の姿を来年度の生徒会に引き継げるようにと、準備を怠らず1つ1つ確認作業を行った。

梅雨の合間で晴れとなった体育祭当日、550名の保護者や関係者が見守る中、各競技に全力で取り組む選手、その中で必死に応援する団幹部を中心としたサブリーダー、そして、その裏で円滑

な運営を行う生徒会メンバーや体育祭実行委員会の支えがあった。この日に至るまでに重ねたリハーサル練習の成果もあり、大きなトラブルもなく無事終えることができた。閉会式では、選手たちのやりきった顔や笑顔であふれる顔が見て取れ、素晴らしい体育祭であった。

西高祭では、「繫絆」というスローガンの下、西高祭実行委員長である3年K組の熊崎暁さんを中心に、生徒会執行部が企画・運営を行った。中でも大切にしてきたのは、3年生の思い出に残る文化祭にしようであった。企画内容は、2、3年生はステージ企画、1年生は展示企画とした。内容は昨年の形をベースにし、午後には有志企画と2年生のステージ発表を行った。今年は9月開催ということもあり熱中症対策を行い、1日の活動全て自由観覧とすることで、生徒自身が選んで行動する時間を増やした。外部団体からのバザーの数も増やし、唐揚げや、だんごなどを仲間と共に食べ、観覧も大いに楽しんだように見えた。また、午前の3年生の発表は自由観覧であったが、全校生徒のほとんどの生徒が見守る中、夏休みをかけて準備してきたであろうステージ発表を堂々たる姿で演技やダンスを披露してくれた。3年生の思い出に残る西高祭を目標にしていた生徒会にとって、全校生徒の準備に取り組む姿勢を含め、手応えと達成感を感じる西高祭となった。330名の保護者にも観覧に来ていただいた。

今年は体育祭と西高祭の期間が変更になったこともあり、昨年以上に試行錯誤を重ね、準備を進めてきた生徒会執行部。この行事ができたのも、団幹部、全校の一人一人の生徒たち、学校の協力やご家族の方々の支援のおかげだと感じております。今後も学校の生徒一人一人が参加し、苦しいことや楽しいことを共有し、協力し合いながら生徒たちが行事を通じて多くのことを学んでいけるようにと感じております。もちろん教員においても、その中で学ぶことが多くあり、学校全体で取り組んでいける行事を大切にしていきたいと思っております。

部活動（五十音順）



アーチェリー部

杉浦 成利

令和7年度は、男子は3年生5名、2年生1名、1年生2名、女子は3年生3名、2年生4名、1年生1名の合計18名でスタートいたしました。

今年度は、県総体での成績により、東海総体に男子団体が出場、8月に山口県山口市にて開催された全国高校総体に男子団体が出場を果たしました。団体での出場は、久しぶりのことでしたが、力及ばず予選での敗退となりました。令和8年度は、男子チームは3年生1名、2年生2名のチームとなります。どこまで成績を伸ばすことができるか生徒の成長を楽しみにしております。新人戦・秋季大会には1・2年生が参加をしましたが、残念ながら全国選抜大会の出場権を獲得できませんでした。春には大きく羽ばたけるよう、貴重な時間を大切にして活動していきます。また、日頃の活動に保護者の皆様、学校関係者の皆様のご理解、ご協力に感謝し、期待にこたえられるよう、生徒ともども、一層の努力をいたします。

[令和7年度の主な成績]

- ・岐阜県高等学校総合体育大会

(大垣市アーチェリー場)

個人 女子	12位	吉嶋 葵 (3H)
	18位	三橋 真歩 (3I)
	20位	田中望仁香 (2I)
	23位	水口 結彩 (2K)
	24位	岩畑 綾花 (3J)
	26位	井ノ下結韻 (2K)

男子	1位	長瀬 楓 (3K)
	3位	浅尾 拓泉 (3K)
	7位	船渡 春希 (3K)
	10位	岡崎 李玖 (2I)

- ・東海高等学校総合体育大会 (三重県志摩市)
- | | | |
|-------|-----|-----------|
| 個人 男子 | 24位 | 長瀬 楓 (3K) |
|-------|-----|-----------|

38位	浅尾 拓泉 (3K)
44位	船渡 春希 (3K)
49位	岡崎 李玖 (2I)

団体 男子8位

- ・全国高等学校総合体育大会 (山口県山口市)

個人 男子	100位	長瀬 楓 (3K)
	148位	浅尾 拓泉 (3K)
	183位	船渡 春希 (3K)

団体 男子44位

- ・岐阜県高等学校秋季アーチェリー大会兼選抜予選会 (大垣市アーチェリー場)

女子	7位	水口結彩 (2K)
	12位	井ノ下結韻 (2K)
	15位	田中望仁香 (2I)
	16位	番場 絢 (2K)
男子	5位	岡崎李玖 (2I)

- ・岐阜県アーチェリー新人大会



70m 女子	10位	水口結彩 (2K)	
	13位	井ノ下結韻 (2K)	
	14位	田中望仁香 (2I)	
	16位	番場 絢 (2K)	
男子	4位	岡崎李玖 (2I)	
30m 女子	3位	細江まい (1I)	
	男子	2位	田上翔晴 (1I)
	5位	笠下勇絆 (1H)	

ウインドアンサンブル部

永瀬 敬至

コロナが落ち着き、地域の小中学校を中心に依頼演奏が多い一年であった。どの会場どの演奏会も一期一会のお客様。故に一発勝負なので、みなさんに楽しんでもらえるだろうかという不安。終演後、大きな拍手をいただき、楽しんでもらったという実感が、演奏する側のいちばんの喜びであることを再確認した。

中学校部活動の地域展開（地域移行）が始まった。どこの地域も、どこの団体も試行錯誤。他県では、特に吹奏楽は実質的に活動がストップしてしまっている現状もあり、今後の先行きはとても不透明である。

我々としては、とにかく、やれることにベストを尽くすしかないと思っている。

自主公演の定期演奏会、卒業生お別れコンサート、どちらもほぼ満席のお客様を迎えることができ、改めてご支援いただいている皆様に感謝の思いがこみ上げた。

新年度は、14名の1年生新入部員を迎え、2年生18名、3年生15名の総勢47名での活動がスタートした。

吹奏楽コンクールは県大会で金賞を受賞。今年度取り組みを強化したマーチングでは東海大会出場を決めた。

まだコロナ禍の影響が少し残り、かつ中学校部

活動の地域展開が進む中ではあるが、極力地域との交流に力を入れた。中学校との合同練習等、少子化が進む中、本校ウインドアンサンブル部が地域の中で果たす役割がさらに大きくなるものと思える。

保護者の方々が中心となって、ウインドアンサンブル部の後援会を発足させてから14年。卒業生や卒業生の保護者、地域の方々との連携による活動がより活発になった。保護者会の方々には、部員たちを安心した環境で活動に取り組めるようご支援いただいている。感謝の一言に尽きる思いである。また、部員や保護者の方々を通じ、今後とも積極的に地域と交流する活動を進めていきたい。

最後に、日頃の活動にご理解、ご協力くださる保護者の皆様をはじめ、学校関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和7年の活動記録

- 1月 アンサンブルコンテスト岐阜県大会
F14 Sax4 打楽器8・金賞 金管5・銅賞
- 2月 中部日本個人重奏コンテスト岐阜県大会
中村咲花（フルート）・金賞
工藤碧月（ホルン）・銀賞
鈴木一郎（チューバ）・銀賞
上田涼子（サクソフォン）・銀賞
- 3月 卒業生お別れコンサート2025
中部日本個人重奏コンテスト本大会
中村咲花（フルート）・銀賞
日本ジュニア管打楽器コンクール本選考会
鎌村美結（フルート）
- 4月 ひらゆさくら祭り
- 5月 岐阜県バンドフェスティバル
岐阜私学吹奏楽発表会
朝日大学春のコンサート
- 7月 飛騨吹奏楽コンクール・高山市長賞
岐阜県吹奏楽コンクール東部地区大会・金賞

- 8月 全日本吹奏楽コンクール 岐阜県大会・金賞
第38回定期演奏会
- 9月 岐阜県マーチングコンテスト・金賞
- 10月 東海マーチングコンテスト・銅賞
高山市立北稜中学校 依頼演奏
- 11月 第27回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜
実行委員長賞
下呂市立宮田小学校 依頼演奏
- 12月 美鳩幼稚園クリスマス会
やまゆり学園クリスマス交歓会
台湾 嘉義市国際管楽節

剣道部

前川 矩英

今年度の剣道部は男子20名（3年生7名、2年生4名、1年生9名）、女子13名（3年生5名、2年生4名、1年生4名）マネージャー1名の計34名で活動をスタートしました。今年の剣道部は、11月の新人戦で男子団体ベスト8。女子団体優勝、男子個人2位大野温史（2L）、女子個人2位鳥山煌月（3H）という成績でスタートを切りました。女子団体が優勝できましたが、個人戦が振るわず。男女ともには個人戦は2位をとることしかできず、男女ともに、もやもやの残るスタートでした。男女ともに大事な場面で引っ込んでしまう印象と、勝負に対する「徹底力」が不足しているように感じました。この部分の改善をこの代のテーマに掲げたことを覚えています。新人戦後、高山市長旗を経て、年末・年始全国の強豪校と切磋琢磨させていただき着々と力をつけてきた選手たちでしたが、まだこの代のテーマを払拭できるところまではいけませんでした。しかし、少しずつではありますが、試合内容は徐々にしまりのあるものになっていきました。「チームとしての戦い方」の理解が深まったようでした。そし

て、年が明けて迎えた全国選抜予選。当日の選手たちの状態は良く、アップを見た段階である程度の手応えがありました。その手応え通り女子は団体優勝し、全国選抜への出場権を獲得する事ができました。大会3連覇でした。その一方、男子も状態は悪くなかったように感じていましたが、まさかの初戦敗退。しかもリードしているの副将・大将での逆転負けでした。最初に掲げたテーマの改善にチーム一丸となって取り組んできた分、選手も指導者も大変落ち込んだことを覚えています。女子の試合内容は強気で臨めたこと、各個人の課題を克服してくれたことに尽きました。その後に行われた東海選抜大会では女子団体が3位入賞させていただきました。そして、迎えた全国選抜大会、万全の準備をして臨んだつもりでしたが一回戦で敗退。気持ちがまとまらず引いてしまったところの逆転負けでした。新チーム発足から生徒たちはコツコツ取り組んできましたが、思い描いた結果を男女ともにつかめないまま新年度を迎えることになりました。

新年度4月に入り、新入部員を男子9名、女子4名迎え、男女ともに「夏こそは」という気持ちでスタートいたしました。例年通り、ゴールデンウィークは島原遠征で鍛えていただき、5月に行われたインターハイ予選では男・女団体、男・女個人で優勝を目指し、インターハイへの出場権を獲得するべく、部員・保護者総動員で大会に臨みました。男子は全国選抜予選初戦敗退の悔しさを忘れず、インターハイ予選まで歯を食いしばってきました。一回戦から団体戦に徹し、順調に勝ち進み、迎えた決勝戦。結果的には代表戦で惜敗しましたが、内容的には私は勝利していたと今でも確信しています。それほど素晴らしい内容の決勝戦でした。特に、主将増田の試合内容はすばらしかったです。女子は本当に地道に日々の生活・稽古に取り組み、力と自信がついてきた印象を持っていました。「力をそのまま出してくれれば・・・」と思い、決勝戦に臨み見事優勝を勝ち取ってくれました。女子団体6連覇でした。男女ともにそうですが、監督席に座って試合を見ていて、教え子たちの力強い試合内容と、相手を飲み込むような気迫、また、総合的な人間としての成

長を見ることができ、目頭が熱くなったのを覚えています。男女ともに、新チーム発足から悔しい思いをたくさん経験し、自分達に足りないものは何だろうと自問自答を繰り返していた生徒達がこの半年間に自分とチームの課題に必死に取り組んできた内容・結果であると思いますし、なにより3年生がしっかり責任を果たした結果であったと強く感じました。

8月に行われた広島インターハイでは女子団体では予選リーグ、小山高校・西大寺高校という組み合わせでした。両校力のあるチームでしたが、持っている力を発揮してくれれば十分に勝てる可能性が高い相手でしたが、緊張からか思い通りの試合展開が作れず予選リーグ敗退という結果でした。もう少し全国の舞台上で戦わせてやりたかったというのが本音です。指導力不足を痛感しました。応援していただいた保護者・OB・OG・高山西高校剣道部を支えてくださっている様々な方々、申し訳ありません。ありがとうございました。

その後に行われた国民スポーツ大会では、増田篤豊(3J)・石原彩伽(3L)・鳥山煌月(3H)・佐藤凜和(3J)・大野夏鈴(2L)・小山珠代(2H)が岐阜県代表として東海ブロックに出場しました。結果は振るいませんでしたが、県代表として堂々たる試合を展開してくれました。

今年の3年生は私が赴任して8回目に声を掛けさせてもらった生徒達です。男女共入学当初、実力は足りませんでした。また、目標もうまく定まっていませんでしたが、地道にコツコツ努力を重ねてくれて実力をつけてきたように思います。特に、人間性や物の考え方、準備の仕方等で日々指導を受けていましたが、少しずつ成長してくれたと思います。代が変わり11月に行われた県新人戦では男女団体アベック優勝、男女個人で小山珠代(2H)青木航太郎(1H)が優勝・大野夏鈴(2L)が2位、大野温史(2L)が3位という成績を残してくれました。過去最高成績でした。しかし、1・2年生はこの結果に満足する事無く、日々弱い自分と向き合い、1月に控えている全国選抜予選に向けて着々と自分磨きを必死に行っています。継続して取り組んでいる原田メソッド・フィジカル面の強化も精力的に取り組んでいます。

あらためて本校剣道部は保護者を含め、たくさんの方々に支えられて成り立っていると強く感じる事ができた1年間でした。本校剣道部に関わっていただいているすべての方々に感謝申し上げます。

今年は例年より寒く、雪がちらつく場面もいつもより早く感じます。本格的に冬を迎え、部は新チームとなり部員たちは自分達の甘さと日々向き合いながら、目標に向かい必死で稽古に励んでいます。「守破離」の部訓のもと、「志ある処に、必ず道あり」という精神で日々稽古に励んでいます。冬に力を蓄え、春に皆さんに恩返しの朗報をお届けできるよう、精一杯稽古に励んでくれることと思います。

主な戦績

岐阜県高等学校総合体育大会

男子団体

決勝 高山西 1 - 1 済美 準優勝
(代表戦)

女子団体

決勝 高山西 2 - 1 済美 優勝(6連覇)

東海総合体育大会

男子団体 3位

女子団体 準優勝

女子個人 大野 夏鈴 (2L) 5位

全国高等学校総合体育大会剣道大会

女子団体 予選リーグ敗退

岐阜県高等学校剣道大会

男子団体 優勝

女子団体 3回戦敗退

飛騨地区新人体育大会

男子団体 優勝

女子団体 優勝

男子個人

優勝 青木航太郎 (1H)

準優勝 川崎 鉄生 (2H)

- 3位 信國 主弥 (2 I)
- 3位 大野 温史 (2 L)

女子個人

- 優勝 大野 夏鈴 (2 L)
- 準優勝 小山 珠代 (2 H)
- 3位 横山 紗来 (2 L)
- 3位 吉本 実優 (2 J)

第62回岐阜県高等学校剣道新人大会

男子団体

決勝 高山西 3 - 2 済美 優勝

男子個人 青木航太郎 (1 H) 1位
大野 温史 (2 L) 3位

女子団体

決勝 高山西 1 - 0 済美 優勝

女子個人 小山 珠代 (2 H) 1位
大野 夏鈴 (2 L) 2位

第71回国民スポーツ大会東海ブロック予選

少年男子の部 岐阜県チーム ブロック敗退
(選手：増田篤豊)

少年女子の部 岐阜県チーム ブロック敗退

(監督：前川矩英・石原彩伽・鳥山煌月・佐藤凜和・大野夏鈴・小山珠代)

硬式野球部

硬式野球部監督 萩尾 洋行

令和7年度の硬式野球部は、創部からの最高成績となる、夏選手権岐阜大会ベスト8進出を達成することができました。これは、硬式野球部最大の目標である「飛騨から甲子園！」を実現するための第一歩になったと感じております。このような躍進も、日頃より硬式野球部の活動を、支え応援していただいている、学校関係者、育成会（保護者）、翔醒会（後援組織）、そして地域の皆様

方のおかげであると感じております。心より感謝申し上げます。

今年のチームは、前年度12月より監督が代わるという異例の状況からのスタートとなりました。特に3年生の精神面等も心配されましたが、持ち前の前向きな意識や明るさ、そして真面目な取り組みもあり、何事もなかったかのように野球に打ち込む姿がありました。夏選手権大会シーズンに向けても、さらに高い意識を持って練習に取り組み、飛躍的に成長してくれました。本当に素晴らしい学年であったと感じております。

冬季期間は厳しい寒さの中、部員ひとり一人が夢実現に向けてひたすら練習に励むことで、着実に力をつけてきました。その甲斐あって、春季岐阜県大会ではベスト16進出と確実に成長した姿をみせてくれました。迎えた夏の選手権岐阜大会においては、1回戦・2回戦と順調に勝ち上がり、迎えた3回戦は、春季中濃飛騨地区予選で敗れた美濃加茂高校との対戦となりました。37度を超える炎天下での総力戦となりましたが、選手ひとり一人がそれぞれの役割を最大限に発揮し、みごと勝利することができました。そして、創部初の夏選手権岐阜大会でのベスト8進出となりました。

準々決勝からは、本校初の全校応援となりました。ぎふしん長良川球場のスタンドには、本校生

大会名	第72回春季岐阜県高等学校野球大会 中濃・飛騨地区予選						
回戦	自チーム	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
2回戦	高山西	4	—	2	加茂農林	第5位	R7.3.22
3回戦	高山西	0	—	5	美濃加茂		R7.3.25
敗者戦	高山西	9	—	2	益田清風		R7.3.28
代表戦	高山西	6	—	5	関		R7.3.30
大会名	第72回春季岐阜県高等学校野球大会						
回戦	自チーム	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
1回戦	高山西	6	—	1	大垣西	ベスト16	R7.4.12
2回戦	高山西	1	—	10	岐阜第一		R7.4.19
大会名	第40回 飛騨地区高等学校野球優勝大会						
回戦	自チーム	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
1回戦	高山西	6	—	0	益田清風	優勝	R7.5.10
準決勝	高山西	12	—	11	斐太		
決勝	高山西	4	—	3	高山工業		
大会名	第107回全国高等学校野球選手権岐阜大会						
回戦	自チーム	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
1回戦	高山西	3	—	0	羽島北	ベスト8	R7.7.13
2回戦	高山西	9	—	2	岐阜		R7.7.20
3回戦	高山西	1	—	0	美濃加茂		R7.7.21
準々決勝	高山西	1	—	9	関商工		R7.7.24
大会名	第78回秋季岐阜県高校野球大会 中濃・飛騨地区シード決定戦						
回戦	自チーム	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
1回戦	高山西	13	—	7	郡上	2回戦敗退	R7.8.13
2回戦	高山西	5	—	6	東濃実業		R7.8.15
大会名	第78回秋季岐阜県高校野球大会						
回戦	自チーム	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
1回戦	高山西	10	—	3	大垣東	2回戦敗退	R7.8.30
2回戦	高山西	1	—	18	岐阜城北		R7.9.13



徒、保護者、学校関係者をはじめ、OBやその保護者など、たくさんの方々が応援に駆けつけてくれました。多くの方々に見守られながらの戦いは、惜しくも敗れましたが、目標である「飛騨から甲子園！」に繋がる大きな一歩となりました。

3年生のみんな感動をありがとう！これからの硬式野球部にとって、新たな歴史のスタートをきってくれたことに感謝しています。これから次のステージで野球を続けより高いレベルに挑戦する者、野球を離れて新たなことに挑戦する者と、卒業後に進む道はそれぞれ異なります。しかし、君たちが戦ったこの夏の経験は、この先の長い人生のなかで大きな財産となってくれると思います。自信をもってこれからの人生を歩んでいってください。

8月から始まった新チームは、1年生主体のチームです。秋季岐阜県大会の初戦では、昨年度夏選



手権大会出場の岐阜城北高校に敗れはしましたが、先輩から引き継いだものを十分に発揮し、次世代に繋がる大きな経験が積めたと感じております。

今年は地域貢献活動として、3回の未就学児対象のティーボール教室、そして小学生対象野球教室を行いました。ティーボール教室では、みはと幼稚園、こくふ保育園、岡本保育園に出向き、部員たちがボール遊びの楽しさを伝えました。また、

野球を始めるきっかけとなる基本動作などを、園児たちを飽きさせないように、ユーモアを交え、園児たちを盛り上げながら教えました。清見運動公園屋内運動場で行った小学生野球教室では、打撃・投球の基本からポジション別練習と、将来野球を続けるための基礎基本を、部員たち自ら手本となって教える姿がありました。

次年度以降の野球部としましては、新たな歴史を作ってくれた3年生のためにも「飛騨から甲子園！」を実現するために、硬式野球部一同全力で前へ進んでいきたいと思っております。

最後になりますが、今年も西高校野球部の活動にご支援、ご協力いただきました多くの方々へ感謝申し上げます。まことにありがとうございます。



茶華道部

元田 尚美

茶道（裏千家） 水木 中山 令子先生
華道（池坊） 金 花木 教子先生

- 6 / 1 茶道裏千家許状初級取得（3年生）
- 7 / 6 いけばな池坊巡回講座2025受講
- 8 / 3 茶道裏千家淡交会飛騨支部主催交流茶会
- 8 / 17, 18 オープンキャンパスでの呈茶
- 8 / 23 本町二丁目商店街歩行者天国イベント参加 山桜神社にて呈茶
- 9 / 3 西高祭でのお茶会開催と3年生の生け花展示
- 9 / 24 第28回学校華道インターネット花展への応募（3年生）

- 10/19 中学生一日体験入学での呈茶
- 10/30 華道池坊職位初伝取得（1年生）
- 11/26 シンガポール留学生が茶道を見学、体験

今年度は3年生5名、2年生3名、1年生6名の計14名で活動しています。今年度の主な活動は上記の通りです。華道では7月6日（日）、高山市民文化会館3階大会議室にて、いけばな池坊巡回講座を受講しました。『美の正体一守・破・離一』をテーマに、デモンストレーションを交えた講義が行われました。室町時代から多くの人々に愛され、受け継がれてきた池坊生け花は、伝統を守りながら、その時代の生活様式やニーズとの調和を保ち、変遷してきた歴史について学ぶことができました。

普段のお稽古では、それぞれの花材の特長を生かし、引き立てる技法を学ぶことで、各生徒、腕を上げています。10月には、かぼちゃのランタン風の容器を使ってハロウィンのアレンジメントに挑戦しました。オアシスに花材をぎっしり詰めるアレンジメントは、空間を大切に作る生け花とは異なる点を理解する機会になりました。

茶道では、5年ぶりに茶道裏千家学校茶道連絡協議会飛騨支部主催の交流茶会が高山工業高校白楊会館で開催されました。吉城高校10名、益田清風高校11名、高山工業高校3名、本校12名の計36名が青年部の方々にご指導いただきました。午前中はお茶室のマナーをはじめ、つくばいでの手の清め方、にじり口からの席入り方法を学びました。午後からは各校混合の4グループに分かれ、グループごとに立礼席と薄茶席の2席に入り、交替で水屋の仕事を担当しました。コロナ禍以降、このような取り組みは初めてであり、学ぶことの多いお茶会となりました。

8月23日（土）、24日（日）には高山青年会議所主催 TAKAYAMA EXPO2025 が高山青年会議所70周年記念事業の一つとして、本町商店街で開催されました。初日、本校は山桜神社にて呈茶を行いました。昨年7月に実施した際と同様、今年もまつの茶舗さんにサポートしていただき、開催することができました。『万博』をテーマにしたお茶席を午前と午後の2部に分け、設けました。

親子連れや観光客、本校生徒の保護者や卒業生、商店街や青年会議所の方々、物販でブースを設けていた飛騨高山高等学校の先生や生徒など約80名に足を運んでいただくことができました。生徒たちが折り紙で作ったミャクミャクが好評で、小さなお子さんや欲しい方にプレゼントし、喜んでもらえました。生徒たちも自ら点てた抹茶や折り紙で、多くの方に喜んでもらえたことが大変うれしかったようで、「楽しかった、来年もまた参加したい。」と話しており、やりがいを感じました。

今年度から開催時期が変更になった西高祭でも『万博』をテーマにお茶会を行いました。こちらも多くのお茶会や保護者、先生方にご来場いただきました。また、みはと幼稚園の年長園児が祖父母参観日に本校茶道室で、おじいちゃん、おばあちゃんに抹茶のお運びをするということで、お茶会の様子を見学に来てくれました。このような交流が持てることも本学園ならではの良さだと感じました。

2名の講師の先生には生徒に寄り添い、温かくご指導をしていただけることに感謝いたします。今後も「和敬清寂」の精神で日々のお稽古に精進していきたいと思っています。



留学生が茶道を体験する様子

サッカー部 //

池上 正巳

サッカー部は、今年度3年生が6人、2年生20人、1年生3人、マネージャー3人の32人で活動してきました。今年度は、1年生が3人の

入部で残念であったが、2年生が20人で力のある選手が多くいて、G3リーグは余裕で戦うことができ、参入戦に進出できた。また、地区大会では、3大会とも優勝することができ、地区では無敗であった。

IH県予選では、2回戦で新人戦優勝の大垣日大に0-2で負けた。選手権大会は、2回戦までは順調に勝ち上がったが、3回戦で第2シードの長良高校と対戦し、0-9で力の差を感じた試合であった。地区総体では、力の差を見せつけ優勝することができた。

新人大会地区予選は、地区総体同様、余裕で優勝し、県大会進出を決めた。

今後、G2参入戦で勝ち上がり、来年度G2リーグに昇格を目指し、新人戦県大会でもベスト4を目指していきたい。

来年度は、G2リーグ、IH・選手権を戦っていき、G1昇格、IH・選手権県ベスト4以内を目標に良い成績を残したい。

本年度の大会結果

◇インターハイ地区予選	優 勝
第1節	3-0 高山工業
第2節	2-0 飛騨高山
第3節	6-0 斐 太
第4節	2-0 吉 城

◇インターハイ県予選	2回戦
1回戦	2-1 東農実業
2回戦	0-2 大垣日大

◇地区総体	優 勝
準決勝	7-0 斐 太
決 勝	5-1 飛騨高山

◇岐阜県ユースリーグ (G3リーグ)	1 位
第1節	4-0 飛騨高山
第3節	22-0 揖斐・不破
第4節	8-0 加 納
第5節	4-0 美濃加茂

第6節	6-0 大垣※東
第7節	4-0 可 児

※ (G2リーグ参入戦出場)

◇全国選手権大会県予選	3回戦
2回戦	7-1 大垣北
3回戦	0-9 長 良

◇新人大会地区予選	優 勝
準決勝	8-0 飛騨高山
決 勝	4-0 斐 太

※ 県大会出場

書道部

上西 貞幸

書道部は3年生4名、2年生6名、1年生3名の計13名で活動しています。部員は経験者ばかりではなく、高校で初めて書道に挑戦している者もいます。また、今年度より顧問(上西)・指導者(青葉)が新体制となり、手探り状態ではありますが、新たな取り組みなどを試みてきました。主だった活動としては、様々な展覧会などに出品することを目的としていますが、イベントなどで「書」に関する依頼があった場合は、可能な限り積極的に受け入れていく方針で取り組んできました。書道部と言えば、学校内で目立たない存在というイメージがありますが、決してそんなことはなく、存在感を示す機会はたくさんあります。



生徒会行事（西高祭、3年生を送る会）での書道パフォーマンスの披露、体育祭や西高祭のDVD・BDジャケットの題字、卒業アルバムの表紙の題字と校歌書など、学校生活に溶け込んだ活躍があります。また、国際連盟で定められた『国際平和デー（9/21）』では、飛騨護国神社御神前にて奉納揮毫。その年一年の五穀豊穡を願う『雫の宮祭り』では、ポスターの題字。そして、高山善光寺での写経体験など、地域のイベントにも積極的に参加してきました。

普段より、生徒一人ひとりの主体性を重んじ、伸び伸びとした明るい雰囲気の中で、書道を通して書く楽しさや、表現する面白さを感じながら取り組んでいます。部員たちは、古文書の優れた書を手本に臨書をするほか、自分の好きな言葉や文章などを自由に創作することもあります。そして、その言葉が持つ意味、書き手の意志など、深みのある作風を表現することを目指しています。書道を通して、日本の美意識や文化を学び、集中力や創造力を磨いています。

以下に今年の主な活動内容を紹介します。

◇公募展

高山市美術展覧会

岐阜県高等学校書道展

飛騨地区高校書道展

岐阜女子大学全国書道展

青少年赤十字作品コンクール

ふれあい書道展



◇題字依頼

体育祭、西高祭DVD・BDジャケット

卒業アルバム表紙、校歌書

雫の宮祭りポスター

◇書道パフォーマンス

西高祭、3年生を送る会での有志企画

◇その他

飛騨護国神社御神前での奉納揮毫

高山善光寺での写経体験

情報ビジネス部

荒井 啓太郎

『百折不撓』を部のモットーとし、3つの目標を掲げ取り組んでいます。一つ目は、「全国パソコン技能競技大会全国制覇」。二つ目は、「日本情報処理検定協会の検定10種目すべてにおいて1級以上の取得」。そして最後に、「ボランティア活動を通して地域に貢献する」。これらの目標をもとに、日々人間力を高めるために、活動しています。

この8月の全国大会では、悲願の団体優勝と個人優勝を果たしました。令和3年以来、3度目の優勝となりました。大会前の練習では、OB・OGが練習に駆けつけてくれ、後輩の技術指導や励ましの言葉をもらい、大会に向けてのモチベーションを上げてきました。互いに切磋琢磨し練習を行うことで、生徒一人一人の意識も向上し、「優勝する」という強い気持ちが芽生え、速さと正確性を兼ねそろえた技術を追求するようになりました。大会では日本語ワープロの部に3年生4名と2年生4名の8名で出場しました。大会後は後悔なくやり切れたと、すがすがしい姿が見られました。

本年度より、検定の種目が8種目から10種目へと増えました。プログラミング技能検定と情報デザイン検定が追加され、情報化社会に適應するために必要な力が養われます。3年間で10種目を取得することは決して簡単なものではありませんが、引き続き取得に向けて努力していきたいです。

例年同様、ボランティア活動にも積極的に参加しました。様々な世代の人々と交流し、コミュニケーション能力を高めることもできました。特に

児童館のボランティアでは、「期待以上の仕事をしてくれる」と賞賛の言葉をいただきました。今後も、「百折不撓」という情報ビジネス部のモットーを胸に、日々の生活態度を良くし、コツコツと努力することを大切にしていきたいです。そして、なにより毎日支えてくれる家族、応援してくれるOB・OGや関係者、地域の方々に支えられていることに感謝し、今後も練習に励んでいきたいです。

<大会成績等>

◎第39回全国パソコン技能競技大会

R 7年8月9日（金）名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）

日本語ワープロ競技団体優勝

長瀬智煌（3 J） 伊東昌汰（3 J）
紙谷耀介（3 I） 沖垣内大河（3 J）
山脇昊汰郎（2 L） 清水天楓（2 K）

日本語ワープロ競技個人優勝 長瀬智煌

出場 古田 葵（2 H） 都竹阜千乃（2 I）

◎第37回冬季新人ワープロ競技大会

R 7年12月25日（木）名古屋クラウンホテル

文書作成の部団体準優勝

山脇昊汰郎 清水天楓 古田 葵 都竹阜千乃

文書作成の部個人

5位：山脇昊汰郎 6位：清水天楓

1年生の部 3位：山田遥翔（1 H）

出場 大坪洗貴（2 H） 坂本凌聖（2 I）



上：全国大会 左下：高山市役所優勝報告会 右下：飛騨市教育長優勝報告

<表彰>

◎高山市文化芸術振興激励

伊東昌汰 紙谷耀介 沖垣内大河
山脇昊汰郎 清水天楓 都竹阜千乃

◎飛騨市全国大会等出場者激励 長瀬智煌

◎下呂市全国大会等出場者激励 古田 葵

◎全十冠特別賞（全10種目）

伊東昌汰 長瀬智煌 紙谷耀介 山脇昊汰郎

◎会長賞（5種目以上）

清水天楓 古田 葵 都竹阜千乃

◎検定委員長賞（3種目以上） 大坪洗貴

<ボランティア活動等>

◎法人ボランティアリーダー養成セミナー

5月24日（土）25日（日）

◎あそびの祭典in乗鞍ボランティア

10月4日（土）5日（日）

◎ハロウィンウォークラリー

10月18日（土）

◎児童館フェスタ

2月23日（月祝日）*実施予定

*上記はR8年1月23日時点のものである

していただいている西高校の先生方等、たくさんの方々に支えられて新体操ができていることに感謝しながら、今後も日々の生活・練習に取り組みたいと思います。

○令和7年度岐阜県高等学校総合体育大会 兼東海高等学校総合体育大会 岐阜県予選会

5月18日 ○K B体操アリーナ

今川 桃和 フープ 8位

リボン 8位

総合 9位

中田 羽菜 フープ 5位

リボン 9位

総合 7位

○令和7年度 岐阜県高等学校体操新人大会

11月1日

岐阜県メモリアルセンター ふれ愛ドーム

中田 羽菜 ボール 6位

フープ 4位

総合 4位

スキー部 //

顧問 荒井 啓太郎

新体操部 //

井川 朱音

今年度より、高山西高校では新体操部が創設され、1年生2名で1年目がスタートしました。私自身、新体操をテレビ以外で直接見たことがなく、新鮮な気持ちで始めました。基本的にはクラブでの練習が中心となり、船坂コーチの指導のもと、小・中・高校生と一緒に練習をし、切磋琢磨して練習に励みました。1年生ではありますが、岐阜県でも上位を狙えるポテンシャルを十分に備えた2人のため、東海出場を目標に日々練習に取り組みました。怪我などに苦しむ選手もあり、1年を通して結果としては満足のものには届きませんでしたが、これから益々飛躍することを期待したいと思います。指導をしていただいている船坂コーチをはじめ、保護者の方々、日頃ご指導

○令和7年度岐阜県高等学校新人スキー大会

（飛騨ほうのき平スキー場）

日にち：令和8年1月12日（月）～14日（水）

出場者：1年I組 山下 幸奈

結果：女子団体3位 山下 幸奈

女子個人3位 山下 幸奈

○第73回岐阜県高等学校総合体育大会冬季大会

スキー競技 兼

第75回全国高等学校スキー大会岐阜県選考会

（飛騨ほうのき平スキー場）

日にち：令和8年1月15日（木）～16日（金）

出場者：3年H組 滝村 武蔵

1年I組 山下 幸奈

結果：男子個人（大回転）準優勝 滝村 武蔵

男子個人（回転）準優勝 滝村 武蔵

* 滝村武蔵は、「第75回全国高等学校スキー大会
(菅平高原) R 8年2月3日～8日」に出場決定



ソフトテニス部 (女子) //////////////

面手 啓

今年度は1年生3名、2年生1名の合計4名でのスタートとなった。岐阜県総合体育大会では、3ペア対戦の団体戦に2ペアといった不利な状況で出場した。結果は初戦敗退であったが、新チーム初の県大会ということで、特に1年生にとっては良い経験になったと思う。その後の国民スポーツ大会飛騨地区予選では2ペアが出場し、ベスト8に入り県予選に出場することを目標としたが、その目標を達成することができなかった。また、飛騨地区総合体育大会においては、高山工業高校との合同チームで出場したが、初戦で敗退した。

夏休みも少人数での活動ではあったが、意欲的に練習を重ねた。7月下旬に飛騨カップ岐阜県高校女子研修大会が開催され、飛騨神岡高校との合同チームで出場し、予選リーグ・順位別トーナメントともに良い結果を上げることはできなかったが、他地区とのチームとも多くの試合ができ、有意義な2日間となった。8月上旬には岐阜県新進大会に2ペアが出場し、新チームとして2度目の県大会となった。2ペアともに予選リーグを1位

で通過し、決勝トーナメントに進出することができた。決勝トーナメントでも1ペアは初戦を突破し、次で敗退したものの、県大会のハイレベルな対戦を経験でき、とても良い経験になったと思う。その後も、次の公式戦である9月の新人大会及びシングルス大会に向けて練習に励んだ。

飛騨地区の新人大会ダブルス戦には2ペア、シングルス大会には3名が出場した。ダブルス戦では1ペアがベスト16に入り、県大会出場をかけた12位決定戦に臨んだが、惜しくも敗退した。シングルス大会では2名が初戦を突破し、1名は2回戦でシード選手との接戦を制し、ベスト16の成果を上げることができた。岐阜県新人大会には毎年出場していたが、個人戦は地区予選を通過することができず、また、団体戦にはペア数が足りず、今年度は出場することができなかった。高山市ソフトテニス大会には、春季・秋季大会ともに2ペアが出場した。秋季大会では2ペアともに予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントに進出した。1ペアは決勝トーナメントで善戦し、ベスト6に入ることができた。

今後は、冬の飛騨地区室内大会に向けて、特に基本練習を積み重ねていきたい。また、冬場のトレーニングでは、特にフットワークを中心に強化し、瞬発力とストロークの安定性を高めていきたい。

【本年度の大会結果】

- ◇インターハイ飛騨地区予選 (個人) 4/19
中山公園テニスコート
1回戦
堀田 (1K) ・ 今井 (1L) 2-4 益田清風
- ◇春季高山市ソフトテニス大会 (個人) 4/26
中山公園テニスコート
予選リーグ 堀田 (1K) ・ 今井 (1L) 1位
古瀬 (2K) ・ 古川中 3位
決勝トーナメント 1回戦
堀田 (1K) ・ 今井 (1L) 1-4 飛騨高山
- ◇インターハイ岐阜県予選 (団体) 5/17
中津川公園テニスコート
1回戦 高山西 0-2 益田清風
- ◇国民スポーツ大会一次予選 (飛騨地区予選)
(個人) 6/1 中山公園テニスコート

1回戦
堀田(1K)・今井(1L) 3-4 郡上北
古瀬(2K)・根木(1L) 2-4 益田清風

◇飛騨地区総体(団体) 7/20
中山公園テニスコート
2回戦(初戦)
高山西・高山工 0-3 益田清風A

◇飛騨カップ近県高校女子研修大会(団体)
7/26・27 岡本テニスコート
予選リーグ
高山西・飛騨神岡 4位
3・4位リーグ
高山西・飛騨神岡 1-2 岐阜総合C
高山西・飛騨神岡 2-1 中津C・高山工 2位

◇岐阜県高校新進大会(個人) 8/5・6
岐阜車体スポーツ広場テニスコート
予選リーグ
堀田(1K)・今井(1L)
4-1 岐山
4-0 多治見 予選1位
古瀬(2K)・大垣工
4-1 多治見北
4-2 岐阜北 予選1位

決勝トーナメント
堀田(1K)・今井(1L)
1-4 羽島
古瀬(2K)・大垣工
4-0 中津
0-4 美濃加茂 ベスト32

◇飛騨地区新人大会(個人) 9/7
中山公園テニスコート
1回戦
堀田(1K)・今井(1L) 4-1 斐太
古瀬(2K)・根木(1L) 1-4 益田清風

2回戦
堀田(1K)・今井(1L) 2-4 飛騨高山
12位決定戦 堀田(1K)・今井(1L)
1-4 飛騨高山 ベスト16

◇飛騨地区シングルス大会 9/8
中山公園テニスコート
1回戦
堀田(1K) 4-1 高山工

今井(1L) 4-1 郡上北
古瀬(2K) 1-4 益田清風

2回戦
堀田(1K) 4-3 益田清風
今井(1L) 1-4 益田清風

3回戦
堀田(1K) 1-4 飛騨高山 ベスト16

◇秋季高山市ソフトテニス大会(個人) 11/2
中山公園テニスコート
予選リーグ
堀田(1K)・今井(1L) 1位
古瀬(2K)・飛騨高山 1位

決勝トーナメント 1回戦
堀田(1K)・今井(1L) 4-3 高山JrSTC
古瀬(2K)・飛騨高山 0-4 飛騨高山

準々決勝
堀田(1K)・今井(1L) 2-4 飛騨高山
ベスト6

ソフトテニス部(男子) //////////////

顧問 江黒 永寿

今年度は通常通り大会が開催されました。ソフトテニス部の顧問になり2年目。戸惑いながらもはありましたが、部員たちと話し合い取り組んできた1年間だったように思います。学年の人数構成は3年4名、2年生6名、1年生4名であり、高校入学からテニスを始めた初心者がほとんど。練習メニューや指示に関しても、積極的に2・3年生が動き、1年生を牽引してくれたと思います。試合においては納得できる試合もあれば、悔しい思いをした試合もありますが、今後は各々の課題を克服し、来年のさらなる成長に繋げていきたいと考えています。

<インターハイ飛騨地区予選(ダブルス戦)

4月19日>

和田・今井 1回戦敗退
鍋島・砂原 1回戦敗退
垣内・田中 1回戦敗退

井戸・佐藤 1回戦敗退
下方・二澤 1回戦敗退

<インターハイ県予選(団体戦) 5月24日>

1回戦 高山西 1-2 羽島

<国民スポーツ大会選考会・ソフトテニス競技
7月5日>

1回戦

高山西(砂原・鍋島)

1-2 美濃加茂(遠藤・宮崎)

<飛騨地区総合体育大会(団体戦) 7月19日>

1回戦 高山西 2-1 斐太A

2回戦 高山西 3-0 飛騨高山D

準決勝 高山西 1-2 益田清風A 3位入賞

<岐阜県新人大会(団体戦) 10月18日>

高山西 0-3 羽島北

卓球部

菅沼 孝司

令和7年度卓球部は、3年生5名、2年生3名、1年生4名の計12名で活動してきました。今年度も「男女県ベスト4入り、東海大会出場」を目標に掲げ、日々練習に取り組んできました。

春に行われた岐阜県高等学校総合体育大会では、女子が健闘したものの、目標達成にはあと一步及びませんでした。しかし、今後につながる可能性を大いに感じられる大会となりました。

新チーム発足後は、目標達成に向けた意識が一層高まり、非常に高いモチベーションを維持することができました。日々の練習の質も高く、練習中の指導や試合中のアドバイスについても、これまで以上に高度な内容に取り組むことができたと感じています。

また、先日行われた岐阜県高等学校新人大会卓球競技・学校対抗の部では、女子が第3位と健闘しました。男女アベックでの東海高等学校新人大会出場という目標は成し得ませんでした。この結果は男子にとっても大きな刺激となりました。

依然として男女ともにあと一步のところではチャンスをつかみきれない状況が続き、悩み苦しむ場面もあります。しかし、選手一人ひとりが「高山西高校卓球部員である」という自覚を持ち、堂々と試合に臨めるようになってきています。また、先輩方が追いつけてきた目標を自分たちも達成したいという思いが年々強まっており、その気持ちの確実に受け継がれていると感じています。

この卓球部の良き流れを途切れさせないためにも、従来通り「目標」を掲げ、その達成に向けた「課題」を明確にし、課題を克服するための具体的な「努力」を積み重ねることで「結果」へとつなげるという理論を今後も実践し続け、必ず目標を達成したいと考えています。

【今年度の主な成績】

～高体連関係～

インターハイ飛騨地区予選

男子団体 第3位

女子団体 優勝

女子シングルス

優勝 星野 香乃(1H)

準優勝 山口 連花(3K)

3位 清水ゆりな(3K)

女子ダブルス

優勝

村坂 彩心(3J)・神田 結(3L)

準優勝

清水ゆりな(3K)・菅沼 凜香(3L)

3位

山口 連花(3K)・星野 香乃(1H)

岐阜県高等学校総合体育大会 女子団体

ベスト16

飛騨地区総合体育大会

男子団体 3位

女子団体 優勝

岐阜県高等学校新人大会飛騨地区予選

男子団体 3位

岐阜県高等学校新人大会

男子団体 ベスト16

女子団体 第3位 東海選抜出場

～協会関係～

中部日本卓球選手権大会岐阜県予選

女子ジュニア

武村咲希帆（1H）・星野 香乃（1H）

予選通過

女子一般ダブルス

武村咲希帆（1H）・星野 香乃（1H）

予選通過

東海卓球選手権大会岐阜県予選

女子ジュニアの部

武村咲希帆（1H）予選通過

女子一般ダブルス

武村咲希帆（1H）・星野 香乃（1H）

予選突破

学附属（兵庫）・大安寺中等教育学校／岡山朝日（岡山）・尾道東／舟入（広島）・須崎総合（高知）ほか、多くの学校との練習試合を通じて、本校生徒は確かな成長を遂げることができた。

また、これらの学校の生徒とは、来年度の受験において競い合うことにもなると思われるが、受験会場で再び顔を合わせる日を楽しみにしつつ、今後もより一層学習に励んでくれることを願っている。

【第20回全国高校生英語ディベート大会出場】

予選ラウンド 19位

【愛知・岐阜県合同英語ディベート大会】

優勝（岐阜県1位）

【北陸ブロック英語ディベート大会】第5位

【関西ブロック英語ディベート大会】第8位

【東海ブロック英語ディベート大会】第10位

ディベート部

堀尾 讓

4月より2年G組の生徒を中心とした新体制で活動を開始して以来、気がつけば今年度の活動も終わりを迎える時期となった。特進Iクラスとして、日々の学習と部活動との両立に工夫を凝らしながら練習を重ねてきたが、一昨年から対面形式の大会や練習会が復活したことは、本校生徒にとって大きな転機となった。オンライン形式のメリットは認めつつも、やはり対面で行うディベートが生徒に与える刺激や学びの深さは計り知れないものがある。

今年度も、全国各地の学校とオンラインおよび対面による練習試合を通して交流を深めることができた。これもひとえに、多くの関係者や先生方のご協力の賜物である。以下に、今年度練習試合でお世話になった学校を紹介させていただく。

川越女子（埼玉）・創価（東京）・竹園（茨城）・宇都宮／宇都宮東（栃木）・高崎女子（群馬）・翔凜（千葉）・都留興譲館（山梨）・諏訪青陵／伊那北（長野）・東海／クラーク名古屋／南山女子（愛知）・聖マリア／大垣北（岐阜）・クラーク大阪（大阪）・膳所／米原／彦根東／近江兄弟社／守山／虎姫（滋賀）・嵯峨野（京都）・藤島（福井）・富山中部（富山）・神戸大

男子ハンドボール部

山下 祐輝

【今年度の主な成績】

◇岐阜県高等学校新人大会（R6 12/25～27）

準優勝

◇岐阜県選抜選手権大会（R7 1/11, 19）

準優勝

◇東海高等学校選手権大会（R7 2/1～2）

出場

◇岐阜県高等学校総合体育大会（R7 5/17～18, 24）

優勝

◇東海高等学校総合体育大会（R7 6/21～22）

出場

◇飛騨地区高等学校総合体育大会（R7 7/12）

優勝（22年連続）

◇堤杯岐阜県選手権大会（R7 7/28～31）

出場辞退（インターハイ出場のため）

◇全国高等学校総合体育大会（R7 8/2～8）

出場

◇岐阜県高等学校新人大会（R7 12/24～26）

準優勝

【今年度を振り返って】

本校ハンドボールは2004年4月に創部し、皆様のご支援により、創部22年目を迎えることができた。

昨夏の新チーム初戦の大会となる堤杯選手権では、決勝で市立岐阜商業高校に勝ち、優勝という立ち位置からのスタートとなった。

迎えた昨年末の県新人戦決勝リーグでは、初戦の市立岐阜商業には快勝することができた。続いて岐阜東高校との対戦となり、前試合の調子を維持し、前半4点リードで後半に折り返した。しかし、後半では連戦の疲労や、違反による1人少ない状況が続き、相手に7連続得点を許してしまうなど、全く試合に対応できず5点差で敗戦した。あと一步のところまで勝利を逃す形になり、悔しさだけが残った状態で2位という結果で今大会を終えた。

2月の東海選手権では、初戦で中部大春日丘高校と対戦した。昨春は全国選抜大会ベスト8のチームで、新チームになっても多くの選手が残っており実力的に整ったレベルの高い対戦相手となった。前半は互角の勝負ができたが、後半は厳しい展開となり残り8分で19-24という5点差をリードされていた。しかし、この劣勢から5連続得点で同点に追い付き、なんとか延長戦に持ち込むことができた。しかし、延長戦を戦う体力は残っておらず、ここで全国選抜大会に向けた挑戦は終わった。格上チーム相手に勝つチャンスは十分あっただけに、悔しい敗戦であったが、選手たちの奮闘には大きな価値があった。

その後の4月、成長が大いに期待できる新入生10名を迎えた。4月初めにチームのレギュラーが骨折の怪我を負い、インターハイ予選に間に合うかどうか分からない状況になり、代役を探すことになった。毎年恒例のGW前半滋賀合宿、GW後半大分合宿では、たくさんのトレーニングマッチを組んでいただき、3年生の代役を2年生3人に絞って試行錯誤を繰り返しながら、県予選に臨める準備がなんとかできた。

迎えたインターハイ予選、1回戦から苦戦を強いられたが、2回戦は快勝し準決勝で市立岐阜商業と対戦、代役の2年生が活躍し宿敵相手に10

点差の快勝で、決勝に自信を持って臨めるチーム状況を作ることができた。翌週に行われた決勝は岐阜東と対戦、ここまでの対戦成績は1勝1敗で接戦が予想された。当初は「30得点を目指し、相手のエースを中心に守り25点以下に抑える」というゲームプランであったが、前半から点の取り合いの激しいゲーム展開になった。プランは完全に崩れたが、前半終了時は23-24というスコアで、なんとか1点差で踏ん張ることができた。後半もシーソーゲームが続いたが、最大3点リードを得るも残り8分は同点に追い付かれる。さらに相手に7mスローが与えられ、逆転のピンチを招いたが、2年生ゴールキーパーが見事に相手シュートを阻止、チームの勢いを取り戻した。残り8分は、頼もしい3年生とそれを陰で支える2年生が噛み合い、44-41というハイスコアゲームを制し、4年振り11回目のインターハイの切符を勝ち取った。4月の3年生横田の怪我はチームとして大きな痛手であったが、キャプテンシーの高い今井、横田の怪我で奮起した村杉の2枚看板を中心に、プレーやそれ以外で支えた他の5人の3年生、今大会で大きな成長を遂げた2年生、必死に応援する1年生と保護者会の皆様、チーム力の大切さを改めて感じる、大きな価値と勝ちを得た大会となった。

その後の東海大会では、チーム内でさらに怪我人が出てしまい、優勝チーム相手に初戦敗退、迎えた8月のインターハイでは、東北1位の福島県伝統校の学校法人石川高校と対戦、全力を尽くしたが10点差での敗戦となった。8月下旬の国民スポーツ大会東海ブロック予選では、本校から7人選出され、再度全国を掛けた試合に臨んだ。静岡県には勝利し、愛知県には惜しくも1点差での敗戦、迎えた三重県との大一番では、何度もリードを許すが必死で苦しい時間帯を乗り越え、粘りのあるナイスゲームであったが、惜しくも1点足りず引き分けて試合終了、滋賀国スポの出場権を逃したが、スタッフの私も含めて貴重な経験をさせていただいた。

本校ハンドボール部第21期生は、選手8名が一人ひとりの役割を理解し、部活動に全力を注ぎ、インターハイ出場を達成してくれた。後輩にとっても

大きな財産であり、今後の新チームに期待したい。

8月中旬、新チームがスタート。2年生8名、1年生10名の18名体制である。旧チームから出場している2年生が核となり、1年生は今後の大きな成長を期待できる。今秋には、全国の強豪校の胸を借りて、多くのトレーニングマッチを実施、チーム力向上、個人技術の向上を感じることができている。選手それぞれが人間的に成長し、感謝の心を忘れない愛されるチームになれば、12月と2月の予選を勝ち抜き、3月に実施される大分県で行われる全国選抜大会出場権を獲得できるであろう。

今年度も無事に活動することができたのも高山市ハンドボール協会、飛騨学園教職員の皆様、保護者会の皆様、OB会・OB会保護者会の皆様、滝村紀貴氏（高山市ハンドボール協会副会長）並びにご家族の皆様、いつも影で支えて下さる前顧問の三川俊哉先生（高山市ハンドボール協会副会長）のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。そして、今後とも宜しく願い申し上げます。

バスケットボール部（女子）

下畑 耕一

令和7年度TALONSは、6名の3年生がチームを牽引しました。地元飛騨高山、飛騨地域全般が少子化の影響を受ける中、現3年生は新型コロナ感染症の影響も重なり、地区内のバスケットボール人口が過去最大に減少した世代となりました。そのため高山西高校女子バスケットボール部を存続させることも難しいと考えたことから、新たな試みとして地区外・県外選手の獲得にも力を入れ勧誘した第1期生が今季の3年生、愛知県から3名の選手（加藤・村重・市田）が入部してくれ、新たなTALONSの形で目標である全国・東海出場に向けて頑張ってくれました。

1つ上の世代の人数が少なく、大きな故障を抱えた選手が多かったこともあり、今年の3年生は下級生の頃から主力選手として活躍し力を付けて

きました。キャプテンの加藤杏南（トア）、副キャプテンの村重春奈（ナギ）を軸に、市田旺良（ゲン）、下畑茉央（アオ）の4名は2年時より試合に出場した選手。西田結衣（リリ）、岡田妃心（コト）がチームをバックアップするという体制で日々の練習に取り組みました。

前年度から主力選手が大きく変わらないこともあり、例年よりもスムーズに新チームをスタートさせることができた感があります。試合経験が豊富であり、上背はないものの対応力の高い戦い方ができ、新人戦での上位進出を狙いました。しかし、大会直前にチーム内にいくつか問題が生じ、まとまりを欠く中で戦った県新人では惜敗、第6位となりました。ブロック決勝で強豪県岐高と当たってしまったため、敗戦後インハイ予選のシード権獲得を新たな目標に定め「第5シード」を狙って戦った岐阜総合との5位決定戦。序盤より劣勢に立たされるも、終始拮抗したゲームで最終クォーターを迎えました。しかし、残り数分のところで、ここまで得点面でチームを牽引していたアオが5ファウルで退場となり攻め手を欠いたチームは失速し敗戦、とても悔しい結果となりました。

4月には10名の新入生を迎え新体制でインターハイ予選に臨みました。チームに新たな武器を…そんな願いで新たにディフェンスにおいて新システムを導入し、インハイ予選で3位以内に入賞し、東海出場を狙い戦いました。相手は、新人3位の富田高校。能力も非常に高く、県外選手を多数有するチーム。万全の準備を整えて試合に臨みました。試合の方は、序盤よりポイントガードであり、チームの司令塔であるトアがファウルトラブルに見舞われベンチに。チームとしては非常に苦しい状況の中粘り終盤に繋がります。後半に一時離されるも、怒涛の攻撃で点差を縮め2点ビハインドでラスト数秒を迎えます。最後にアオがドライブを仕掛けブザーとともにバスケットボールカウントを沈め会場のボルテージは最高潮となりました。しかし、その後のフリースローを決めきれず、延長戦へ突入。最後まで粘るも、延長戦を戦いだけの力は残っていませんでした。敗戦後、チームは意気消沈し1試合空いた後に行われる5

位決定予備戦に向けて気持ちを切り替えるのが非常に難しい状態でした。彼女たちも複雑な心境で戦いながら何とか凌ぎ5位シードを手に入れ、インターハイ予選が終了しました。

3年生4名(トア・ナギ・ゲン・アオ)の4名がウィンターカップ予選まで残り、下級生を伸ばしつつ、最後の戦いに向けてチームを強化していきました。下級生の成長もあり、夏休み中のカップ戦や練習試合では、格上のチームを破るなど順調な形でチームは成熟していきました。しかし、進路実現に向けた取り組みや受験などと両立した部活動は、3年生にとっては容易なものではなかったようで、大会に近づくにつれチームの士気を上げ切れなかったように感じます。ウィンターカップ予選、下位回戦は順調に勝ち進み、予定通り準々決勝でリベンジを果たすべく富田高校と再戦となりました。緊張に包まれた中でのトスアップ、先に主導権を握ったのは富田高校でした。富田4番に3Pシュートを連続で決められ苦しい展開に。TALONSもアオの得点を軸に粘りを見せます。しかし、後半に失速。対する富田は4番・5番のシュートが高確率で決まり敗戦、最後のウィンターカップ予選でもベスト4の壁を越えることができませんでした。そして、この敗戦を機に4名の3年生の高校バスケットボールは幕を閉じました。

下級生から主力として戦ってくれた彼女たちには、例年以上に思い入れが強く、何とか勝たせてあげたい・・・と、常々思っていました。しかし、指導者としての力不足、経験不足で彼女たちに最高の笑顔をプレゼントすることはできませんでした。でも、6名の3年生は、この3年間の高校バスケットボールを通じて、凄く成長したと感じています。特に県外からの入部の3人は、1年次には環境の変化に対応することができず、よく体調を崩していました。ホームシックにかかったこともありました。バスケと勉強、そして身の回りのことを自分の力でやりきる生活が辛く、何度も挫折そうになりながらも、ここまで頑張ってきました。彼女たちの3年間、願った結果は手にすることはできませんでしたが、それ以上に貴重な体験を得て心の成長を手にするのができたと思います。

今実感しています。本当に選手に救われている

と。多くの思いを抱きながらも、こんな私に付いてきてくれた彼女達、3年生には心から感謝しています。また、各選手の保護者の方々には、私の我がまを聞いてくださったこと、細かなところまでサポートしていただいたことに心から感謝いたします。

最後に、影となり見守ってくれた家族の姿は勿論、TALONSを支えてくださった方々に感謝し、それぞれの道の糧にしてもらいたと思います。

保護者・先生方・松柏会の皆様には、毎年変わらないご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございました。これからも、信念を持って生徒と共に歩いていく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しく願いいたします。

【戦績】

- ・飛騨地区新人戦 (優勝)
順位決定戦 高山西 88-41 飛騨高山
- ・岐阜県新人大会 (第6位)
1回戦 高山西 20-0 各務原
2回戦 高山西 97-43 岐阜
ブロック決勝 高山西 38-99 県岐阜商
5位決定予備戦 高山西 86-49 長良
5位決定戦 高山西 43-45 岐阜総合
- ・岐阜県総合体育大会 (第5位)
1回戦 高山西 115-25 関
2回戦 高山西 87-15 加茂
ブロック決勝 高山西 55-62 富田
5位決定予備戦 高山西 65-45 大垣北
5位決定戦 高山西 71-51
- ・岐阜県高校リーグ戦1部リーグ (第2位)
リーグ戦 高山西 37-36 富田
リーグ戦 高山西 76-39 済美
リーグ戦 高山西 58-41 岐阜総合
リーグ戦 高山西 39-61 岐阜農林
リーグ戦 高山西 71-42 土岐商業
- ・岐阜県高等学校選手権大会 (ベスト8)
2回戦 高山西 132-16 益田清風
3回戦 高山西 86-31 多治見西
準々決勝 高山西 50-69 富田

バスケットボール部(男子) ////

打江 勇太郎

今年の3年生は、主将の板倉瑠都を中心に、垣内大和・仲間結海・鈴木悠矢・野原大誠・伊藤稀広・岩丸純也・大越正一朗・小池凜汰朗・佐伯悠良・高岡巧・都竹奏太郎・オカプ チネドゥの選手13名と鎌倉凛香のマネージャー1名がチームを引っ張ってくれた。昨年度選手権を2位で終え、その悔しさを基に始動した新チームであったが、1月の県新人大会、2年生は昨年の雪辱を果たそうと奮闘したが、1歩力及ばず3位という結果に終わった。

4月を迎え、新入生は14名の選手と1名のマネージャーが入部し、総勢41名となった。新学期の始まりに埼玉カップに参加し全国の強豪校と対戦し、チャレンジ&エラーを繰り返しながらスタメン・ベンチメンバーを勝ち取るべく練習に励む姿が多く見られた。5月に岐阜県高校総体が行われ、ベスト4までは順調に勝ち上がり、準決勝の相手は美濃加茂高校。今大会初めの山場であった。1Q初めから激しいDFからの速攻など自分たちのリズムを作ることができ10点のリードを得る。最終Qまでその差を守り切り7点差で勝利した。そして、決勝戦の富田戦では勝てばインターハイという気持ちが先行し、リズムが最後まで掴めず敗退。最後は気持ちの部分であったと指導者、選手ともども気づいた実りある大会であったと思う。今大会の結果は準優勝となり、東海総合体育大会の出場を決めた。東海総体では、1回戦静岡学園高校(静岡3)に全員出場で勝利し、勢いに乗ることができた。2回戦は四日市メリノール高校(三重1)、1点差で勝利することができた。ベ

スト4となり、準決勝の相手は東海新人決勝戦で敗れた藤枝明誠高校(静岡1)。選手はリベンジに燃えているのが見て取れた。前半は一進一退の攻防が続き、我慢のバスケットを強いられた。しかし3Qから自分たちのミスを機に一気に離され敗退し、3位決定戦に回ることが決まった。3位の相手は富田高校(岐阜1)県予選で敗戦した相手であったが、WC予選を見据えての戦いを行いながら、勝ち切ることができた。新人東海も含め、東海大会でも全国大会出場校に勝利できたことは、1つ選手たちの自信に繋がった。しかし、優勝を勝ち取ることができない悔しさを胸に、冬に向けての取り組みが始まる。

夏休み・シルバーウィークと県外の名だたる高校と対戦し経験を重ね、ハードなDFから速攻で点につなげること、シュート率にこだわり練習・試合と取り組んできた。

10月になり選手権大会が始まる。準決勝の相手は美濃加茂高校、日清トップリーグにも出場し夏以上に着実に力をつけていた。前半、美濃加茂高校の変則的なゾーンDFに出鼻をくじかれたが、徐々に自分たちのペースを掴みながら均衡状態が続いた。そして第4Q残り数秒、本校伊藤が放った3Pが見事決まり逆転。そのまま逃げ切った。決勝戦の相手は夏と同じく富田高校。今年初めての試みである岐阜スーパースの前座試合として決勝戦が行われ、プロ用の演出の中で試合が開始された。前半はお互いに硬さが見られ思うようにシュートが決められず、前半を終えて20-25と我慢の戦いが続いた。そして勝負の後半、本校垣内の3Pを皮切りに3連続3Pシュートを決めきり一気にリードする。そして、その差を最後まで守り切って勝利。2019年以来6年ぶり2度目の優勝を決めた。3年生含め、下級生もWCに出場でき



る喜びを噛み締めるとともに、会場に立ちたいという決意の表情が見て取れた。東京体育館のメインコートに立つという目標に向け、また一から積み重ねることを誓った。

最後に子どもたちのことを1番に考え、支えてくださった保護者の皆様、そして籠西会の皆様、先生方、いつもご支援、ご協力をいただきありがとうございました。これからも覚悟と信念をもって、選手たちと共に戦っていく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

<戦績>

◎令和6年度 飛騨地区新人大会

決勝 高山西 103 — 43 斐太

最終戦績 優勝

◎令和6年度岐阜県新人大会

2回戦 高山西 102 — 38 関

3回戦 高山西 75 — 48 中津川工業

決勝リーグ 高山西 56 — 62 富田

決勝リーグ 高山西 75 — 87 美濃加茂

決勝リーグ 高山西 84 — 57 大垣工業

最終戦績 3位 優秀選手賞 板倉 瑠郁

◎令和6年度 東海高校新人大会

1回戦 高山西 67 — 63 中部第一愛知

2回戦 高山西 68 — 60 四日市リナール 三重

準決勝 高山西 59 — 53 富田 岐阜

決勝 高山西 60 — 73 藤枝明誠 静岡

最終戦績 準優勝

◎令和7年度 岐阜県高校総合体育大会

2回戦 高山西 108 — 34 県岐商

準々決勝 高山西 81 — 55 大垣日大

準決勝 高山西 70 — 63 美濃加茂

決勝 高山西 43 — 52 富田

最終戦績 準優勝 優秀選手賞 垣内 大和

◎令和7年度 東海高校総合体育大会

1回戦 高山西 61 — 50 静岡学園 静岡

2回戦 高山西 54 — 53 四日市リナール 三重

準決勝 高山西 44 — 88 藤枝明誠 静岡

3位決定戦 高山西 66 — 61 富田 岐阜

最終戦績 3位

◎令和7年度 岐阜県高校バスケットボール選手権大会

3回戦 高山西 147 — 37 恵那農業

4回戦 高山西 114 — 50 加茂

準々決勝 高山西 106 — 70 岐阜総合

準決勝 高山西 63 — 60 美濃加茂

決勝 高山西 46 — 38 富田

最終戦績 優勝

優秀選手賞 伊藤 稀広・オカブ チネドゥ

年間ベスト5 オカブ チネドゥ

バドミントン部 //

三川 俊哉

【今年度の主な成績】

◇第73回岐阜県高等学校総合体育大会飛騨地区予選
(R7.4/19.26 高山工業高校、飛騨高山高校)

<男子個人>

単 ベスト8 熊崎暁 砂田大和

2回戦 吉野倅矢 小倉周悟

1回戦 荒川琥珀

複 3位 吉野・荒川 4位熊崎・砂田

ベスト8 小倉・下屋

2回戦 長畑・松井

1回戦 田口・北村

<男子団体> 準優勝

2回戦 高山西3-0 益田清風

決勝 高山西2-3 斐太

2位決定戦 高山西3-0 飛騨高山

<女子個人>

単2位 遠所礼望

複1位 小坂井・鈴木 複2位 田口・遠所

<女子団体> 準優勝

2回戦 高山西3-1 斐太

決勝 高山西2-3 飛騨高山

2位決定戦 高山西3-0 益田清風

◇岐阜県高等学校総合体育大会

(R7.5/10.11 .5/17 岐阜メモリアル、大垣市総合

体育館)

<男子個人>

複 荒川・吉野 1回戦敗退

<女子個人>

単 遠所礼望 1回戦敗退

複 田口・遠所 1回戦敗退

小坂井・鈴木 2回戦進出

<男子団体> 1回戦敗退

1回戦 高山西 0-3 帝京可児

<女子団体> 1回戦敗退

1回戦 高山西 2-3 済美

◇飛騨地区高等学校総合体育大会

(7/19 高山工業高校体育館)

<男子団体> 準優勝

リーグ戦 4勝1敗

<女子団体> 準優勝

リーグ戦 2勝1敗

◇第59回岐阜県バドミントン選手権大会(単2部)

(7/25男子7/26女子 プリーニの総合体育館)

<男子個人>

Aの部

松井 蓮 2回戦進出

北村優宜 2回戦進出

下屋快士 4回戦進出

小倉周悟 1回戦敗退

Bの部

長畑伊織 4回戦進出

松井佑太 1回戦敗退

田口大悟 3回戦進出

<女子個人>

Aの部

遠所礼望 4回戦敗退

小坂井夏瑠 4回戦進出

鈴木心晴 5回戦進出

Bの部

滝村結梨 2回戦進出

美素梓乃 3回戦進出

◇第31回高山市中高生バドミントン大会

(8/17飛騨高山ビッグアリーナ)

<男子>

複 長畑・松井 3位

小倉・下屋 優勝

単 田口大悟 決勝トーナメント進出

松井 蓮 予選リーグ敗退

北村優宜 予選リーグ敗退

<女子>

複 小坂井・鈴木 優勝

根木・荒井 3位(2部)

滝村・美素 予選リーグ敗退

鍛冶谷・上田 予選リーグ敗退

単 遠所礼望 3位

◇令和7年度岐阜県高等学校新人バドミントン大会

飛騨地区予選(10/18個人戦 斐太高校体育館、

10/25団体戦 飛騨高山高校体育館)

<男子個人>

単 2位 小倉周悟 ベスト8 北村優宜

複 2位 小倉・下屋

<男子団体> 3位

準決勝 高山西1-3 飛騨高山

3位決定戦 高山西3-0 益田清風

<女子個人>

単 2位 遠所礼望 3位 鈴木心晴

複 1位 小坂井・鈴木

<女子団体> 優勝(県大会出場権獲得)

2回戦 高山西3-2 斐太

決勝 高山西3-2 飛騨高山

◇令和7年度岐阜県高等学校新人バドミントン大会

(11/3, 11/9, 10)

(団体戦 大垣市総合体育館 個人戦 飛騨高山

ビッグアリーナ)

<男子個人>

単 小倉周悟 1回戦敗退

複 小倉・下屋 1回戦敗退

<女子団体> ベスト8

2回戦 高山西3-2 多治見西

3回戦 高山西1-3 県岐阜商

<女子個人>

単 遠所礼望 1回戦敗退

鈴木心晴 1回戦敗退

複 小坂井・鈴木 3回戦進出(ベスト8)

◇第59回岐阜県バドミントン選手権大会複2部
(12/7大垣市総合体育館 大垣城ホール)

<男子>

Aの部

小倉・北村 2回戦敗退

Bの部

長畑・松井 5回戦敗退

田口・松井 3回戦敗退

<女子>

Aの部

小倉・遠所 棄権

小坂井・鈴木 ベスト8

Bの部

滝村・美素 1回戦敗退

鍛冶谷・根木 2回戦敗退

上田・荒井 1回戦敗退

今後の予定

◇第70回岐阜県高校生バドミントン大会(団体)
(R8.1/24岐阜市南部スポーツセンター 西部体育館)

◇第70回岐阜県高校生バドミントン大会
(1年生個人)(R8.2/7プリニーの総合体育館)



【今年度を振り返って】

今年度は男子3年生4名 2年生3名 1年生5名、女子3年生3名 2年生3名 1年生6名の合計24名で活動してきた。今年度もすべての大会が予定通り開催され1年間を通して充実した時間を過ごすことができた。大会に向けての県外遠征も予定通りに実施でき、活動することができた。保護者の皆様のご理解とご協力がなければで

きないことであり大変感謝している。

今年度も田口正明氏がコーチとして授業部活(水、木、金の7・8時限目)の指導をしてください、技術的な指導、体力的な指導、そして人間力を高めてくださる指導等、すべてにおいて生徒と正面から向きあってくださり本当に助かりました。ありがとうございます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

3年生の生徒諸君へ。

3年間お疲れ様でした。3年生のバドミントに対する姿勢には本当に感謝しています。強くなりたい、上手くなりたいという向上心が行動となって現れ、活気のある楽しい3年間を過ごせました。夏の蒸し暑い日や、冬の凍えるような体育館で弱音を吐かず、辛い練習にも声を出し、歯を食いしばって目標に向かって取り組む姿が今でもはっきりと思い出されます。それだけ頑張ってきた3年間でしたが、試合成績は思うような形では無かったかもしれません。どれだけ努力しても目標を達成できないことが世の中にはたくさんあります。では人はなぜ努力を継続するのでしょうか？

大リーグ投手の菊池雄星選手は「きっかけをつかむチャンスを増やすためにコツコツ練習を積み重ねることが大切だ」と言っています。

チャンスはどこで訪れるかわかりません。だからこそ努力を継続するのだと。なるほど。

いろいろな考え方があるのだと思います。努力を継続する理由は人それぞれです。答えはこれからの自分の人生で見つけてくださいね。そして、引退後も下級生の指導に熱心に携わってくれた3年生の姿は、先輩としてのあるべき姿であり、お手本となりました。

ありがとう。

1, 2年生の生徒諸君へ。3年生が創り上げた部活動のあるべき姿・方向性を継承すべくこれからも日々努力を重ねよう。体力・知力・技術力。どれもまだ未熟です。まずはスタミナ(体力)を一番に身に付けましょう。技術力は毎日の練習の取り組み時間で解決できます。ただし意識レベルを上げて。意識をしない練習は技術力の飛躍的な向上はのぞめません。2年半しかない限られた時間の中で技術力を高めるには質を上げることが効

果的で、日々の練習に意味を持って取り組もう。

最後にこれまでバドミントン部の活動にご理解・ご協力をいただきました保護者の皆様、OBの皆様、有り難うございました。そして、ご尽力いただきました脇田先生、鈴木美保先生に感謝するとともに今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

バレーボール部（女子）

宇都宮 宏美

本年度は三年生4人、二年生1人、そして元気な一年生3人を迎え、外部コーチの山下賢一氏の指導のもと、合計8人でスタートした。

4月に行われたスプリングカップ2部Aブロックは、1回戦恵那農林高校と対戦し、3セットにもつれ込む接戦となったが、チーム全員でボールをつなぎ、エースが決め、勝利をつかむことができた。続く2回戦は大垣西高校と対戦したが、終始相手のペースで流れをつかむことができず敗退した。

5月の県総体飛騨地区予選会では、初戦、益田清風高校と対戦し、互角の試合運びだったが、チーム一丸となり、チャンスをものにし勝利することができた。2回戦目は、優勝候補の飛騨高山高校と対戦したが、相手の守備力・攻撃のパワーに圧倒され、力及ばず敗退した。

三年生が進路実現のため一線を退き、その後一年生2人が転入部し、6人での活動となった。

試合慣れもしていない未熟なチームでしたが、7月下旬の私学大会に向け、他部から3人のバレーボール経験者を助っ人に迎え、毎日の基礎練習や休日の練習試合など一生懸命練習した。

大会当日は三年生の力も借りて、全員で最後まで諦めないバレーボールで辛勝し、2次予選に駒を進めることができた。

現在は、新たに一年生の経験者1人が転入部し、「県大会出場」を目標に7人で活動している。目標達成のためには、個人の技術力の向上・メンタル面の安定・チームの連携プレー意識と技術・

そして生活面充実が課題である。

「バレーボールは1人では戦えない。私がスパイクを決められるのは、仲間が私に良いスパイクを決めてもらおうと必死に拾って繋げてくれたボールだからこそだと思う」

仲間を信じ、共に頑張り、励まし合うことでチームは一丸となるものである。

選手同士で責任感を持ち、鼓舞し合いながら高め合えるチームに育ってほしい。

<大会結果>

◇スプリングチャレンジカップ（2部Aブロック）

1回戦 高山西2 - 1 恵那農

2回戦 高山西0 - 2 大垣西

・2部Aブロック 3位

◇岐阜県高校総体飛騨地区予選会

1回戦 高山西2 - 0 益田清風

2回戦 高山西0 - 2 飛騨高山

◇岐阜県私立高校選手権大会1次予選会

予選トーナメント

1回戦 高山西0 - 2 大垣日大

敗者戦 高山西2 - 0 麗澤瑞浪

決勝トーナメント

1回戦 高山西0 - 2 岐阜聖徳

敗者戦 高山西2 - 1 中京

2回戦 高山西0 - 2 多治見西

・6位入賞で2次予選会出場

◇飛騨地区高校総体

1回戦 高山西0 - 2 益田清風

◇全日本高校選手権大会

1回戦 高山西0 - 2 恵那

◇岐阜県高校新人大大会飛騨地区予選会

1回戦 高山西0 - 2 吉城

美術部

脇田 修宏

今年度の美術部の部員は、3年生6名、2年生5名、1年生4名の合計15名（女子のみ）で活動しています。多くの彫刻作品を発表し、全国規模の展覧会などで活躍、評価されている松本弘司

先生の指導のもと、部員全員が和気藹々とした雰囲気の中で、「美術」を楽しみながら、高度な技術やその表現力などを学んでいます。

例年の活動は、9月に開催される飛騨市美術展、11月に開催される岐阜県高等学校総合文化祭や高山市美術展、12月に開催される飛騨地区高等学校美術展覧会（高美展）など、たくさんの発表を目標とした制作でしたが、今年度は、全国高等学校総合文化祭の参加、高山市美術展への出品となりました。高山市美術展においては、3年L組の岩島百音さんが入賞したのをはじめ、飛騨地区高等学校美術展覧会で2年I組の宮丸若菜さんが奨励賞に入賞しました。

今年度は、今まで以上にコツコツと地道な活動ができ、基本的な技術の習得や表現力など、時間をかけた活動ができたかと思います。そのためか、受賞者の割合は多く、地元イベントなどからの依頼もあり、評価される力がついてきたように思われます。来年度は、さらに発表の場も増えてくると思いますので、高山市美術展や岐阜県高等学校総合文化祭などでの入賞者がさらに増えるよう、様々な角度から芸術に触れ、さらに活動を盛り上げていきたいと考えています。

陸上競技部

廣田 孝

今年度の陸上競技部は3年生16名、2年生9名、1年生8名の計33名でスタートしました。冬場のトレーニングをしっかりと積み上げ、選手たちは4月からの大会に挑みました。

5月に行われた県高校総体では男子100m、女子走り幅跳びで優勝を果たすことができ、他の選手も上位入賞することができ東海高校総体に出場することができました。陸上競技は東海高校総体の結果によって全国高校総体に出場でき、全国大会出場を目標に選手たちは日々努力しました。しかし、東海の壁は高く、全国高校総体出場は果たせませんでした。

県高校新人大会では男子円盤投げ、女子砲丸投

げで東海高校新人大会出場を果たすことができ、来年度の大会に向けて、励みになっています。

県高校駅伝では男子が3位入賞を果たし、東海高校駅伝出場を果たしました。

選手たちは各種目で頑張り、目標を達成した選手や満足な結果が出ず悔しい思いをした選手もいました。今後も日々の努力を継続して成長してほしいと思います。

【令和7年度 大会結果】

●岐阜県高校総体

〈男子〉

100m	大野 和真(3J)	優勝
200m	山下 誓己(3L)	4位
400mH	小笠原悠太(3I)	3位
400m	小笠原悠太(3J)	4位
800m	坂上 颯(3K)	3位
1500m	坂上 颯(3K)	2位
3000mSC	森本 欽也(3K)	4位
3000mSC	白川 遼(3L)	5位
5000m	日古見那由他(3J)	3位
4×100mR	谷口 鷹翔(2H)	
	山下 誓己(3L)	
	小笠原悠太(3I)	
	大野 和真(3J)	4位

〈女子〉

走り幅跳び	櫻野 双葉(3L)	優勝
三段跳び	櫻野 双葉(3L)	4位
砲丸投げ	蒲 結月(1H)	5位
3000m	田中 千晶(2G)	6位

●東海高校総体

〈男子〉

100m	大野 和真(3J)	予選敗退
200m	山下 誓己(3L)	予選敗退
400mH	小笠原悠太(3I)	予選敗退
400m	小笠原悠太(3I)	予選敗退
800m	坂上 颯(3K)	準決勝敗退
1500m	坂上 颯(3K)	予選敗退
3000mSC	森本 欽也(3K)	8位
3000mSC	白川 遼(3L)	22位
5000m	日古見那由他(3J)	9位

4×100mR	谷口 鷹翔(2H)			小笠原悠太(3I)	優勝
	山下 誓己(3L)		〈女子〉		
	小笠原悠太(3I)		100m	櫻野 双葉(3L)	2位
	大野 和真(3J)	予選敗退	400m	平田 聖奈(2H)	3位
〈女子〉			800m	田中 千晶(2G)	3位
走り幅跳び	櫻野 双葉(3L)	13位	3000m	田中 千晶(2G)	2位
三段跳び	櫻野 双葉(3L)	15位		高木 結(1H)	6位
砲丸投げ	蒲 結月(1H)	21位		山下 幸奈(1I)	8位
3000m	田中 千晶(2G)	20位	100mH	櫻野 双葉(3L)	優勝

●飛騨地区高校総体

〈男子〉

100m	大野 和真(3J)	優勝
	谷口 鷹翔(2H)	4位
	山下 誓己(3L)	5位
200m	谷口 鷹翔(2H)	優勝
400m	小笠原悠太(3I)	優勝
	藤本 遥斗(3L)	3位
	宮下拳史郎(1L)	6位
800m	坂上 颯(3K)	優勝
	河合 諒真(3L)	3位
	村上 鉄舟(2H)	7位
1500m	日古見那由他(3J)	優勝
	白川 遼(3L)	2位
	川上 優陽(2H)	7位
5000m	日古見那由他(3J)	優勝
	森本 欽也(3K)	2位
	松本 拓己(2I)	3位
走り高跳び	白木 朝陽(3J)	5位
	宮下拳史郎(1L)	8位
走り幅跳び	白木 朝陽(3J)	2位
	山下 誓己(3L)	3位
砲丸投げ	今田 亘亮(2H)	5位
円盤投げ	今田 亘亮(2H)	2位
やり投げ	小笠原悠太(3I)	3位
4×100mR	大野 和真(3J)	
	山下 誓己(3L)	
	白木 朝陽(3J)	
	谷口 鷹翔(2H)	優勝
4×400mR	大野 和真(3J)	
	山下 誓己(3L)	
	藤本 遥斗(3L)	

走り幅跳び	櫻野 双葉(3L)	優勝
砲丸投げ	蒲 結月(1H)	優勝
円盤投げ	蒲 結月(1H)	3位
やり投げ	平田 聖奈(2H)	2位
4×100mR	櫻野 双葉(3L)	
	平田 聖奈(2H)	
	蒲 結月(1H)	
	田中 千晶(2G)	3位

●岐阜県高校新人大会

〈男子〉

100m	谷口 鷹翔(2H)	予選敗退
	松井 楓真(2K)	予選敗退
200m	谷口 鷹翔(2H)	予選敗退
	松井 楓真(2K)	予選敗退
400m	宮下拳史郎(1L)	予選敗退
400mH	宮下拳史郎(1L)	予選敗退
円盤投げ	今田 亘亮(2H)	6位
砲丸投げ	今田 亘亮(2H)	10位
〈女子〉		
100m	二村 美緒(1I)	予選敗退
200m	二村 美緒(1I)	予選敗退
400m	平田 聖奈(2H)	予選敗退
400mH	平田 聖奈(2H)	予選敗退
砲丸投げ	蒲 結月(1H)	優勝
円盤投げ	蒲 結月(1H)	6位

●東海高校新人大会

〈男子〉

円盤投げ	今田 亘亮(2H)	19位
〈女子〉		

砲丸投げ 蒲 結月(1H) 17位
円盤投げ 蒲 結月(1H) 22位

●岐阜県高校駅伝大会

(男子) 3位

1区 区間賞 日古見那由他(3J)

(女子) 7位

レスリング部

木伏 智仁

今年度は男子5人、女子3人の合計8人となり、男子団体戦に参加できる年となった。レスリング競技は個人種目のため、己の力で勝ち上がることが基本である。団体戦は個人戦とは異なり、7階級の戦いのうち、4勝以上でチームの勝利となる。つまり、1人が負けてもチームが勝利チャンスは消えない。だからこそ、チーム全員で応援しながら戦うことができる。それが団体戦の醍醐味であると私は考えている。今年の団体戦の目標は、ずばりインターハイ出場だ。だれがどこの階級を戦うかなどの作戦を重ね、皆で納得のいく状態に整え、本番を迎えた。順調に1回戦を勝ち上がり迎えた準決勝、相手は大垣工業高等学校で7階級フルメンバーだった。こちらは5人しか選手がいないので、2敗すると負けてしまう状態だった。最後の階級に進む前に、2敗してしまい、チームの敗退が決まってしまった。その瞬間、3年生の選手の目に大粒の涙が浮かび上がった。悔し涙だった。そして、号泣しながら戦った。チームの負けは確定しても、責任を果たそうとする姿がとても誇らしかった。

個人戦では、堤大智選手が大活躍し、本校初のインターハイ優勝、国民スポーツ大会優勝と華々しい結果を取めることができた。女子もフォーデイズ杯全日本女子オープンレスリング選手権大会で2位に入賞し、男女それぞれ個人の力を存分に発揮できた。自身の緊張を押し殺し全国レベルの相手に立ち向かっていく姿は、とても逞しかった。これまでの生徒の努力やコーチの指導、岐阜県の

強化指導があつての結果であり、全ての関係者に心から感謝しながら顧問として邁進していく所存である。

<今年度の主な大会結果>

- ・2025年U20世界選手権大会(ブルガリア)
男子個人グレコ： 堤 大智 出場
- ・JOCジュニアクイーンズカップレスリング選手権大会
女子個人フリー： 今井七緒 出場
直井詩空 ベスト8
井田彩夏 ベスト8
- ・JOC全日本ジュニアレスリング選手権大会
男子個人グレコ： 堤 大智 第1位
飯山福斗 出場
柏木大吾 出場
- ・全国高校総合体育大会
男子個人フリー： 堤 大智 第1位
飯山福斗 出場
女子個人フリー： 井田彩夏 ベスト8
直井詩空 ベスト8
- ・全国高校生グレコローマンスタイル選手権大会
男子個人グレコ： 飯山福斗 第5位
圓山礼心 出場
- ・フォーデイズ杯全日本女子オープンレスリング選手権大会
女子個人フリー： 直井詩空 第2位
- ・国民スポーツ大会
少年男子： 堤 大智 第1位
飯山福斗 出場
- ・全国高等学校選抜大会
男子個人フリー： 圓山礼心 出場予定
(令和8年3月に実施予定)

4. 国際交流

令和7年度国際交流

国際理解教育 井上 正己

○韓国との交流

交流学校 安東中央高校

趣旨 お互いの文化や慣習を交流することで、国際協調の精神の涵養と国際協力の実践力を向上させる。

経緯 R3年2月頃、高山市役所海外戦略課から本校に、安東中央高等学校（韓国安東市）との交流を提案される。

対象クラス：2年F組

8月21日（木）14：00～16：00 online(zoom)

10月16日の学校訪問に向けて、お互いにオンライン上で自己紹介を行った。2年F組の生徒たちと英語や韓国語で自己紹介を行い、にぎやかな雰囲気での交流が進んだ。西高校でさらに安東中央高校との交流を深め、互いの価値観や文化を知るきっかけとなるような機会となった。

10月16日（木）10：00～16：00

安東中央高校から校長先生を含む3名の引率教員と生徒16名が来校した。校舎内では、お互いの国の探究発表を行い、文化の違いや食べ物、流行りものなどを紹介し交流をした。その後、屋台会館の山車を見学し、高山市内観光をした。実際に昔ながらの喫茶店などで生徒たちは交流を深めていた。言語の違いに戸惑いながらも、ジェスチャーや写真などを見せ、意思疎通を図り、楽しい思い出の日となった。



○シンガポール留学生受け入れ

機関 シンガポール教育省語学センター

交流高校名①RAFFLES INSTITUTION

②NATIONAL JUNIOR COLLEGE

③NANYANG JUNIOR COLLEGE

④HWA CHONG INSTITUTION

⑤EUNOIA JUNIOR COLLEGE

⑥DUNMAN HIGH SCHOOL

⑦SCHOOL OF THE ARTS, SINGAPORE

趣旨 お互いの文化や慣習を交流することで、国際協調の精神の涵養と国際協力の実践力を向上させる。

経緯 シンガポールでは小学生から中学生に移行するとき、成績上位10%の生徒が第3言語を「語学センター」で学習することとなる。第3言語として日本語を選んだ生徒がLanguage Elective Programの一環として本校に訪問することとなった。国際教育に高山西高校は、平成26年度岐阜県の海外戦略課から高山市に連絡があり、依頼を受けた。そこから11年間にわたり関係を築いている。

令和7年度受け入れ内容

期間 : 11月25日(火)～11月29日(土)

参加者 : 女子生徒10、引率教諭2名 計12名

活動内容 : 異文化交流

対象クラス : 1年F・G組

滞在日程 11月25日(火) 説明会・授業参加・調理実習・ウェルカムパーティー

11月26日(水) 授業参加・部活動見学(茶華道部・ウインドアンサンブル部)

11月27日(木) 授業参加・英語ディベート、

11月28日(金) 授業参加・調理実習・部活動見学(剣道部)

11月29日(土) 授業参加・フェアウェルパーティー

例年同様、シンガポール留学生の受け入れを行った。シンガポールの生徒は1年F組と1年G組クラスに各5名ずつ入り、通常の授業にも参加した。日本の高校生と生活を共にし、日本の文化や言語の習得に努めた。授業の一環として英語ディベートや日本語でのディスカッションを行い、共通のテーマをもとに本校の生徒との交流を深めた。研修中はシンガポールの生徒に担当生徒が付き添い授業に参加した。彼らは日本語を学習してきているため、日本語習得レベルは非常に高く、読み・書きも素晴らしいものであった。平仮名・カタカナ・漢字を上手に使い、メモを取りながら授業内容を理解していた。

部活動見学では、茶華道部とウインドアンサンブル部、剣道部を見学し、体験も行った。茶道では慣れない正座に苦戦しながらも、日本のお茶文化について深く学ぶことができた。非常に和やかに部活動を見学し、文化の違いを楽しんだ。ウインドアンサンブル部では、迫力のある演奏を聴くことができた。シンガポールの生徒は目を輝かせながら部員たちに質問をしていた様子があっ



た。最後に、剣道部では、良い緊張感が漂う中、試合の見学と体験を行うことができた。実際に、剣道の袴を身に着けることもでき、満面の笑みを見ることもできた。高山西高校の部活動の生徒たちにとっても、シンガポールの生徒たちにとってもお互いに思い出に残るものとなった。

1年F・G組と行った調理実習では、親子丼を作った。シンガポールでは家庭で作って食事を行うよりも外食が中心であり、家庭で料理を作る機会が少ないようだ。そのため留学生の中には、初めて料理をする生徒もいた。

1年L組との交流は、日本語のディスカッションの授業を行った。シンガポールの生徒が「学校の科目」、「日常生活」、「高山の観光地」、「方言」、「SNS」、「歴史学習」、「英語学習」、「部



活」などのテーマに関してそれぞれのグループに分かれて行った。シンガポールと日本との違いを認識し、共に異文化の交流ができたいい機会となった。

英語ディベートでは、「日本で未成年のSNSの利用を禁止すべきかどうかについて」という非常に考えさせられるテーマだったため、様々な視点からの議論がなされた。シンガポールの生徒は、たった1か月程度の準備期間だったにも関わらず、全国大会に出場する2年G組の生徒に対して、見事な討論を行い、お互いに盛り上がった。シンガポールを代表する生徒たちの凄さを実感することができた。

最終日には、シンガポールの生徒と1年F・G組の生徒たちとフェアウェルパーティーを9時限目に行った。ここでは、ジェスチャーゲームを行った。シンガポールの生徒とジェスチャーを交え、何とか必死に言葉を伝えようと取り組み、その姿に笑いが起きた。お互いに協力しながら積極的に活動し、ゲームは盛り上がり、大いに楽しんだ様子だった。1週間という短い交流だったが、国が異なるということは関係なくお互いが友人となり、別れを惜しむ声があった。涙があふれる生徒たちもあり、短期間の間であってもこれほど深い関係が築けるのだと気づかされた。

今後も交流の内容をより深め、両国の関係をよくできればと思う。また、この交流がグローバル化の進む現代において大切な役割となってくれたらよいと感じる。

○アメリカ姉妹校との交流

姉妹校 アメリカ合衆国テキサス州International School of Americas (ISA)

趣 旨 本校国際理解教育の一環として、姉妹校からの短期留学生の受け入れを行い、これまで学習してきた英語学習を実際に活用し、その重要性を再発見するとともに、異文化の国の人々との交流を通して、視野を広め、さらに日本及び自己についての再発見をする機会を与える。

経 緯 H12年度、FMF（フルブライトメモリアル基金、事業主体は日米教育委員会）のMTP（マスターティーチャーズプログラム）において、米国のパートナー校となった、本校とテキサス州International School of the Americas (ISA) とが、平成13年12月1日姉妹校提携を行った。

令和7年度アメリカ語学研修(予定)

期間 : 令和8年1月3日(土)~1月16日(金) (2週間)
参加者 : 男子生徒7名、女子生徒8名、引率教諭1名 計16名
活動内容 : 授業参加、フィールドトリップ (LBJPARK)
ミニ国連体験 (MUNSA at Trinity)
文化交流を目的とするプレゼンテーション

滞在日程(予定)

1月3日(土) 出発: 8:00 高山発 羽田空港発 17:20 サンアントニオ着 24:00
1月4日(日) ホテルでホストファミリーと合流後、ホストファミリーと過ごす休日
1月5日(月)~1月9日(金) 活動: ISAに登校し、現地校のカリキュラムを体験
1月10日(土)・11日(日) 活動: ホストファミリーと過ごす休日
1月12日(月)~1月14日(水) 活動: ISAに登校し、カリキュラムを体験
1月15日(木) サンアントニオ発 06:30 羽田空港着 15:05 (1月16日)
1月16日(金) 出発: 16:00 羽田空港発 到着: 22:00頃 高山着

今年度も昨年と同様のプログラムではあるが、ミニ国連会議(MUNSA)では実際に本校の生徒もディスカッションやディベートに関わることとなる。実際には、まだまだISAの生徒たちと英語で討論をすることは難しい点もあるが、この体験を通じて今後さらに深い交流へと繋がり、生徒たちの自分の考え方や文化を発信する力を身につけてもらいたいと願う。

5. その他

令和7年度 職員一覧

職名	氏名	担当教科
理事長・統括校長	小林隆徳	
校長	小谷口正彦	
教頭	横田匡司	数 学
教諭	田邊元	国 語
教諭	田口喜恵	国 語
教諭	谷川真祥	国 語
教諭	山本大輔	地歴公民
教諭	桂川剛士	地歴公民
教諭	蟹江信介	公民・芸術
教諭	菅沼孝司	地歴公民
教諭	上西貞幸	数 学
教諭	纈纈貴洋	数 学
教諭	岩坂晋	数 学
教諭	橋下大介	数 学
教諭	平野真由	数 学
教諭	山下祐輝	数 学
教諭	松岡慶志郎	数 学
教諭	三川俊哉	理 科
教諭	川上千敏	理 科
教諭	木伏智仁	理 科
教諭	田中夕貴	理 科
教諭	池上正巳	保健体育
教諭	宇都宮宏美	保健体育
教諭	下畑耕一	保健体育
教諭	前川矩英	保健体育
教諭	打江勇太郎	保健体育
教諭	元田尚美	英 語
教諭	鈴木慎太郎	英 語
教諭	堀尾 讓	英 語
教諭	Brailsford 雅	英 語
教諭	荒井啓太郎	英 語
教諭	井上正己	英 語
養護教諭	井川朱音	
常勤講師	面手 啓	地歴公民
常勤講師	脇田修宏	地歴公民
常勤講師	山越太陽	理 科
常勤講師	建石明夏	理 科
常勤講師	萩尾洋行	保健体育

職名	氏名	担当教科
常勤講師	廣田 孝	保健体育
常勤講師	江黒 永寿	英 語
A L T	HendricksJamesVictor	英 語
非常勤講師	芝原 靖	国 語
非常勤講師	神谷耕一	国 語
非常勤講師	井村英行	国 語
非常勤講師	山本 茂	国 語
非常勤講師	熊崎陽一	国 語
非常勤講師	長瀬友規	数 学
非常勤講師	柿下純一	理 科
非常勤講師	役田 雅	理 科
非常勤講師	直井亜矢子	音 楽
非常勤講師	宮代和枝	英 語
非常勤講師	河渡彩子	英 語
非常勤講師	藤下純子	英 語
事務局長・事務長	内記 慎吾	
事 務	砂田千晶	
事 務	北村 聡枝	
事 務	清水千絵	
事 務	牧野幸恵	
事 務	森下晃次	
事 務	倉坪 旭	
事 務	杉浦成利	
事 務	永瀬敬至	
校 務	水 上 泰宏	
店 務	津野美香	
寮 母	神田まゆみ	
校 医	浅野寿夫	
校 医	長瀬裕平	
校 医	高井秀典	
校 医	藤井琢明	
産 業 医	岩 堤 俊	
薬 剤 師	小林 和正	

令和7年 高山西高等学校 略年誌（月間行事予定から）

1 / 4 進学補習（～7日）、 アメリカ語学研修 （～17日）	3 / 5 専願一日入学	6 / 2 前期中間考査（～5日）
1 / 6 登校日として補習・部 活動実施（～7日）	3 / 7 探究飛驒の日（2 F G L）	6 / 5 防犯講話、交通講話、 東海総体壮行会
1 / 8 始業日、課題テスト、 企画委員会	3 / 8 探究飛驒研究発表会 （1 F G L、2 F G L）	6 / 9 職員会議
1 / 9 漢字テスト⑨	3 / 11 職員会議	6 / 11 保護者対象進路ガイダ ンス
1 / 11 探求アワードin福井 （探求飛驒1 F G、～ 12日）	3 / 18 修了式、企画委員会、 職員会議	6 / 12 漢字テスト③
1 / 14 進路の日（1・2学年）、 委員会の日	3 / 19 併願一日入学、進学補 習（～24日）	6 / 17 体育祭
1 / 18 大学入試センター試験 （～19日）	4 / 1 辞令交付・職員会議	6 / 23 探究飛驒の日（2 F G L、～24日）、委員 会の日
1 / 21 職員会議、探求飛驒の 日（2 F G L、～22日）	4 / 4 企画委員会・職員会議	6 / 24 企業実習（～27日）
1 / 27 3年学年考査（～30日）、 委員会の日	4 / 7 入学式	6 / 25 学校後援会総会
1 / 28 進路の日（2学年）、 企画委員会	4 / 8 始業式、課題テスト	6 / 27 地域探求プログラム （1 K）
2 / 1 特待推薦入試・一般入 試	4 / 9 1年生乗鞍研修（～11 日）	6 / 30 地域探求プログラム （1 K）、地区総体、イ ンターハイ壮行会
2 / 10 親父ゼミナール、企業 見学（1 H I）	4 / 15 漢字テスト①、企画委 員会	7 / 1 地域探求プログラム （1 K）、企画委員会
2 / 13 漢字テスト⑩、職員会 議	4 / 16 育友会役員会	7 / 2 漢字テスト④
2 / 17 学年末考査（～20日）	4 / 21 生徒総会、委員会の日	7 / 7 迷惑調査、授業評価ア ンケート、情報モラル 講演会、職員会議
2 / 25 探究飛驒の日（2 F G L、～26日）	4 / 22 職員会議	7 / 8 進路の日（全学年）
2 / 27 3年生を送る会	4 / 25 身体測定	7 / 9 2年学年懇談会
2 / 28 3年終了式、卒業式予 行、同窓会入会式	5 / 7 避難訓練、企画委員会	7 / 11 探究飛驒の日（3 F G）
3 / 1 卒業式	5 / 8 育友会総会	7 / 14 3者懇談期間（～17日）
3 / 3 委員会の日	5 / 9 漢字テスト②、探求飛 驒の日（2 F G L）	7 / 18 終業日
3 / 4 企画委員会	5 / 12 職員会議	7 / 20 進学補習（～26日）
	5 / 13 委員会の日	7 / 22 登校日として補習・部 活動実施（～23日）
	5 / 14 市内研修（全学年）	8 / 1 全校登校日、課題テス ト、進路指導委員会 （就職）
	5 / 19 生徒対象進路ガイダン ス	8 / 2 探究飛驒の日（2 F G
	5 / 20 進路の日（3学年）	
	5 / 26 体育祭結団式、委員会 の日	
	5 / 27 企画委員会	

L、オープンカレッジ参加)	10/14 公開授業週間(～11/7)、TOYOTA育成講座(1FG)、職員会議	12/23 登校日として補習・部活動実施(～24日)
8/3 進学補習(～8日)、探究飛驒の日(2FG、～4日)	10/16 安東中央高校生(韓国)来校	
8/17 オープンキャンパス(～18日)	10/19 中学生一日体験入学	
8/19 進学補習(～24日)	10/20 作業体験学習	
8/21 登校日として補習・部活動実施(～22日)	10/21 委員会の日	
8/22 育友会模擬面接	10/24 AI・情報サイエンス(全学年)	
8/26 始業日、課題テスト、職員会議	10/27 TOYOTA育成講座(1FG、～28日)	
	10/27 地域探求プログラム(1K、～29日)	
	10/28 企画委員会	
9/3 文化祭		
9/8 2年生北海道研修旅行(～12日)、地域探求プログラム(1K、～9日)	11/4 進路の日(全学年)、職員会議	
9/11 バス研修行(1・3学年)	11/5 地域探求プログラム(1K、～6日)	
9/16 委員会の日、企画委員会、推薦入試委委員会	11/6 漢字テスト⑦	
9/17 探究飛驒の日(2FGL、～18日)	11/10 探究飛驒の日(2FGL、～11日)	
9/18 漢字テスト⑤	11/11 委員会の日	
9/19 生徒会長選挙	11/12 同窓会総会	
9/24 職員会議	11/17 後期中間考査(～20日)	
9/26 創立記念講演会	11/25 企画委員会、行事検討委員会、シンガポール留学生来校(～29日)	
9/29 前期期末考査(10/2日)		
	12/2 職員会議、租税講座	
10/3 前期終業式	12/4 漢字テスト⑧	
10/6 後期始業式、生徒会任命式、地域探求プログラム(1K、～7日)	12/6 フラワーアレンジメント、入試委員会	
10/7 進路の日(3学年)、企画委員会、TOYOTA育成講座(1FG)	12/9 迷惑調査、受業評価アンケート	
10/9 漢字テスト⑥	12/10 委員会の日	
	12/16 カリキュラム委員会	
	12/20 終業日	
	12/21 進学補習(～26日)	



高山西高等学校学校後援会役員

会 長	打江 信夫	
副 会 長	林 誠	下畑 了三
	川島 正人	
理 事	洲岬 孝雄	松之木 映一
	久保田 彰	平 和民
	有巢 正洋	新井 裕輔
庶務会計	杉本 敦司	
監 事	二木 長右衛門	鈴村 貞夫

高山西高等学校育友会役員

直前会長	下畑 了三	
会 長	飯山 和義	
副 会 長	倉坪 美紀	垣内 順子
	直井 信靖	田中 卓哉
	田口 寛一	松下 雄一
書 記	岩堤 友紀	
会 計	牛丸 亜由子	
監 事	田中 謙太郎	蒲 暁子

高山西高等学校同窓会役員

会 長	新井 裕輔	
副 会 長	角川 祐三子	野中 寛之
	山本 規雄	平 康裕
	谷口 智	野澤 竜弥
代表幹事	天木 伴也	井辺 義直
	鴨林 周平	永倉 健太
	鳩谷 剛	谷邊 智之
会 計	加藤 克彦	瀬木 貴子
監 事	鴻巣 庄吾	松之木 崇夫

編集後記

学校行事や部活動が予定通り、盛んに行われるようになりました。令和に入り、様々な変化が求められています。高山西高等学校は社会の変化と共に臨機応変に対応して飛騨地区の教育をさらに高められるように努力していきたいと考えています。

今後、より良い高山西高等学校にしていくために、多くの方々のご支援や叱咤激励をよろしくお願い致します。

編集委員

委員長 田邊 元
委員 田口 喜恵
谷川 真祥

校誌 見量山 第32号

令和8年3月1日発行

発行所 高山西高等学校

〒506-0059 岐阜県高山市下林町353番地

TEL 0577-32-2590 FAX 0577-33-9911

URL <http://www.takanishi.ed.jp/>

発行者 谷口正彦

印刷所 (有) 高山ビジネスマシン

高山市桐生町8丁目490番地
